

地藏峠（声生）

中川 光郎

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて33年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

**ミルフォード・トラックと
マウントクック11日間** <開空発着>
出発日 ●11/17 ●12/12 ●1/6 ●1/20
¥522,000～¥556,000

**ルートバーン・トラックと
マウントクック10日間** <開空発着>
出発日 ●12/7 ●12/16 ●12/26 ●1/9
¥498,000～¥598,000

**NZ・アルプス街道縦断・日帰り
ハイキング満喫8日間** <開空発着>
出発日 ●12/5 ●1/9 ●1/23 ●2/6 ●3/6
¥358,000～¥398,000

コスタリカ最高峰チリポ山登山10日間
出発日 ●12/31 ●1/21 ¥460,000～¥522,000

マレーシア最高峰Mt. Kinabalu登山6日間
出発日 ●12/30 ●1/1 ¥236,000～¥248,000

ミニマカ氷河ハイキングと4500m峰登山8日間
出発日 ●11/3 ●4/13 ¥286,000～¥294,000

地の果ての大自然パタゴニア 15日間 11/22・1/17・2/4・3/9発 ¥698,000

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

国土交通大臣登録旅行業490号 / (社)日本旅行業協会正会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店 / 〒550-0004 大阪市西区鶴本町1-10-22 (A DOXビル4階)
TEL: 06-6444-3033 / FAX: 06-6444-3032
広島サービスセンター (大阪支店転送) TEL: 082-542-1660

新ハイ関西・海外山行

玉山と雪山

台湾の2座登山 7日間

旅行代金 ¥194,000

旅行期間 2003・4/13(日)～4/19(土)

①開空→台北→阿里山 ②→上東埔→
タタカ鞍部→排雲山荘 ③→玉山登山
→排雲山荘→タタカ鞍部→東埔温泉
④→武陵→シチカ山荘 ⑤→三六九山
荘→雪山登山 ⑥→三六九山荘→シチ
カ山荘 ⑦→武陵→台北 ⑧→開空

エベレスト・パノラマ・トレッキング
12日間 <開空発着>
出発日 ●11/3 ●12/22 ●1/5 ●2/23
¥316,000～¥410,000

**アンナプルナ・ダウラギリ・ピスターリ
トレッキングと氷河滞在13日間** <開空発着>
出発日 ●11/12 ●12/10 ●1/7 ●2/18
¥362,000～¥366,000

ランタン・ヘリ・トレッキング
9日間 <開空発着>
出発日 ●12/3 ●1/7 ¥368,000

海外トレッキング(特設説明会)

◆ニュージーランド・トレッキング説明会
【10/17(木)・11/13(水)】

会場: 大阪科学技術センター4階 入場無料
時間: 18:30～20:30(当日) 18:30～20:30(当日)
(地下鉄 四つ橋線 本町駅下車・北へ徒歩5分)

ご請求下さい!

アルパインツアー、総合
ツアーカタログ。
「世界の山旅・辺境の旅」
秋～春号。海外・国内の
ハイキング・トレッキ
ング・登山コース満載!



東大寺・大湯屋（イチョウの古木）

紅葉を眺めながら歩いた
 風の織り成す紅・黄・橙色の枝葉
 すらっと伸びた樹 黒く力強い幹
 吸い込まれるように溶け込む
 カエデ 古くは蛙手と呼ばれた
 万葉集では「加叡流石」
 陽光を受けた一段と華やかな紅葉
 銀杏の巨樹の枝葉で陽光を遮られ
 優しくさりげなくたずむ大湯屋
 黄・紅・橙色の紅葉が差し掛かる
 仏の曙光を受け 一筋の光を放つ
 錦秋が輝き光の乱舞を繰り広げる
 風そよぎ一瞬鮮かな彩を輝かせる
 藍青色の空が巨樹の枝葉の葉擦れ
 に僅かに顔を出していた

奈良公園内



Photo essay

錦秋



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松永 恵一

春日奥山原始林





紅葉の二段滝

季節の



水きらめく

秋風



実景

みたらい溪谷

晩秋

撮影 武市通治



秋彩

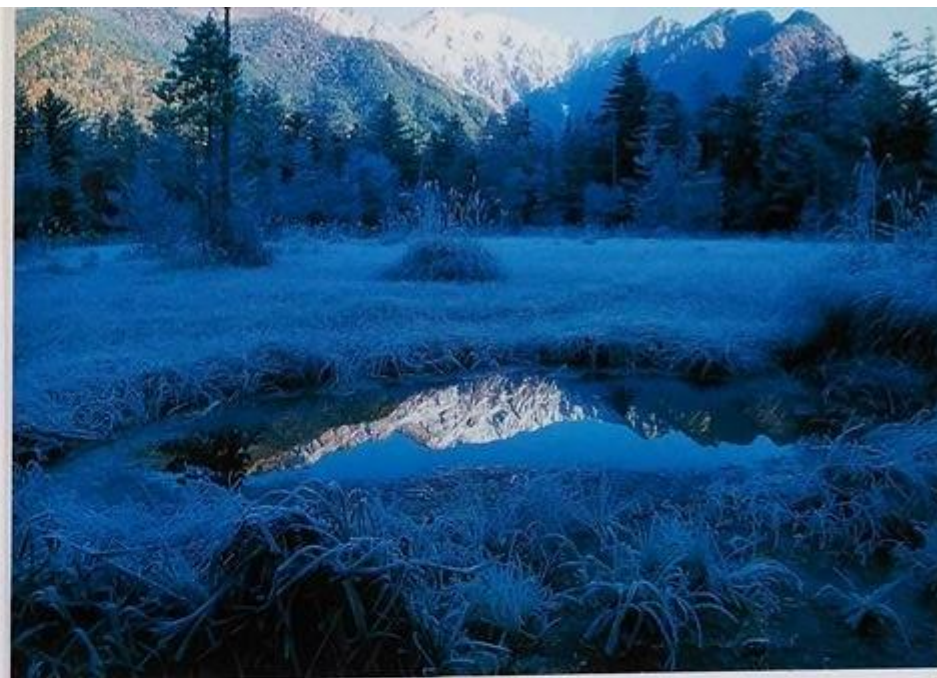
紅葉谷





スキの砥峰高原（播磨） 中川 光郎

地藏山（左）と電ヶ岳（右）（京都北山） 金谷 昭



晩秋の田代湿原（上高地） 吉沢 栄一

霧氷（上高地） 吉沢 栄一



晩秋の奥駈道 (大峰)

奥田 英一郎



縦走路・弁天ノ森付近



八経ヶ岳山頂より大普賢岳・小普賢岳



笹の窟付近より

新作 8冊 関西の山
2021年11・12月 晩秋 第67号

●目次

表紙: 松田敏男「遠見尾根より鹿島槍ヶ岳を望む」(北アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、京都府生まれ。京都府立雲山高等学校。1987年より山岳探検、山岳道の発展多岐活躍。(京都府立雲山、南アルプス仙水小屋、東京キャンパー会、山岳探検と野に親しむ会代表、日本山岳協会)

●グラビア

錦秋……………撮影 由井 収
季節の実景(晩秋)「秋彩」他……………文 松永 恵一
随想(山のエッセイ)……………武市 通治

●紀行

天城連山・沼津アルプス縦走(伊豆)……………山田 遼雄
茶臼山・隅来寺山周遊(奥三河)……………鷺見 守康
生名島・弓削島・佐島・岩城島・伯方島(瀬戸内)……………生駒 馨峰
春浅きランタン谷へ(ネパール)……………多摩 雲雄
運載 標高による山の紹介シリーズ7 △△△67の山……………妻鹿ひろ子
御遊山・黒法師山・甲斐駒ヶ岳・横高山……………松田 敏男
リトル比良(北良)……………木村 太郎
運載 三角点を訪ねて……………磯部 純
近江美濃国境の山、新穂山へ(湖北)……………磯部 純

●旗振り通信の研究⑩

氷上・姫路北部ルート……………柴田 昭彦
●1等三角点峰(500以上) 548座完登の記録(第34回)……………坂井 久光
徳之島・沖繩の山旅……………中村 敏文
●城山(樽尾上城跡)と菩提山山麓(奈良)……………西尾 恵一
●文学歴史探訪ハイク⑨……………西尾 恵一
姫路城に宮本武蔵を訪ねて(西播)……………松永 恵一
●(山のレポート)山の地名を歩く⑨「野と原」……………西尾 恵一

●コース

① 駒ヶ岳と池原山(河本)	長佐次盛一	64
② 三島池と横山(湖東)	西尾 清司	66
③ 横根三山(鈴鹿)	山形 壽一	66
④ 黒鉄山と石堂丸山(播磨)	山形 慶之	70
⑤ 見張山と城山(北良)	金谷 昭彦	74
⑥ 天和山と滝山(大峰)	磯部 純	74
⑦ サクラグチ・能登ヶ峰(鈴鹿)	磯部 純	78

沿線ハイキングガイド……………84 84 81
サービスチェイン……………84 84 81
新ハイ關西山行計画と報告……………112 110 89
バス時刻表(京都北山)……………112 110 89
編集後記・広告案内……………112 110 89

●巻頭言

若いときは「自分の足で歩く」ことなど気にも留めませんが、年をとると、通勤駅での階段の上り下りにも足の衰えを感じるようになります。60歳前後からでしょうか。お腹も出て、健康診断ではいろいろな身体機能に黄色信号が点滅する年齢です。健康が当たり前から、留意して健康を取り戻さねばと考えさせられる折り返しの年齢でもあります。まず「歩く」ことを勧めます。健康ウォーキングは少なくとも1時間以上の早足歩行が基本で、食後、一定の時間をおいて歩き始めるのが良いようです。街中の平坦地を歩くのも十分効果がありますが、もっと良いのは上り下りに負荷のかかる坂道を歩くことです。そして歩くことに自信がつけば、郊外の山野に出かけて長時間歩行のハイキングに挑戦ということになります。

ハイキングは一般に山登りですが、当新ハイキングは難しくない山登り、いわゆる「山歩き」とも呼べるもので、冒険や危険を伴わない山登りを活動の原点としています。自然を楽しみながらの余裕あるハイキングで、精かけの身体を元に取り戻しましょう。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



克

ポンポン山の正式名称は 加茂勢山か？

綱本 逸雄

本誌65号(92年7・8月号)の随想「三宅安兵衛父子建立碑」に、「今年の2月初旬、思うところあってポンポン山へ行ったら」と書いたが、実は以前から気になっていたことがあった。

ひとつは、昨年友人が撮った山頂写真を見たら、コンクリート製の新しい擬木案内板が立っていたことで、もうひとつは、ここ数年出版された関西のハイキング・ガイドブックのいずれもが、「ポンポン山の正式名称は加茂勢山」と記していることである。どうやら、この案内板の説明を採り上げたらしい。1000件(ニフティ検索)を超えるHPに至っては、言うまでも

ないことである。それで、この案内板の内容を確かめたくて何年振りか登ってみた。案内板にはやはり、「この山は正しくは加茂勢山といいますが……通称ポンポン山と呼ばれています。東海自然歩道「京都府」と説明してあった。

2年前、本誌52号(90年5・6月号)の随想「再び『ポンポン山』について」で、私は同山の成立時期について紹介した。再度立ち入って述べると、「鴨背山」(明治以降、加茂勢山・加茂背嶽と宛字で書かれたことは紹介済み)は、近世、旧山城国乙訓郡各村の入会山だったが、1902年(明治35)、各村が「地上権設定ニ関スル規約」を取り交わした。内容は鴨背山を分割して、村毎に山林保護に責任を持つた。造林などの管理をすることだった。規約に記された鴨背山の所在・

地番は「乙訓郡大原野村大字小塩小字鴨背山第一番地」であり、この柴草山の面積は142町5反2畝5歩である。1町は約1畝だから、約142・5畝である。うち同所の「第一番地ノ1」はハゲ山だったらしいが、実測面積3反9畝20歩(約0・4畝)で、「ポンポン山共有」と明記してある。文書でポンポン山の山名が初めて登場するのだが、この各村の共有面積は鴨背山の1000分の3にも満たない。鴨背山のうちでも一番標高の高いボンと突き出た、つまり山頂部分である(鶴冠井区長談)。

これを反映して、1884(明治17)〜1890年(明治23)に陸軍参謀本部測量局が作成した2万分の1複製地図では鴨背山の山名はなく、この一帯は「寺戸村外七村入会地」「小塩村外九村入会地」と記しただけで、ポンポン山は標高が記されるのみ。そして陸軍参謀本部陸測部



克

随想 (山のエッセイ)

による1909年(明治42)測図に「ポンポン山」が現れる。旧乙訓郡だった大原野村は現在西京区(1959年右京区、1976年西京区)に属しており、土地登記は京都地方事務局向日出張所(向日市)の管轄である。明治時代に作成された旧公図(地籍図)があり、それによると「鴨背山第一番地」は1・17の地番に分割されている。

1の地番はポンポン山に相当前述の面積が記載されている。旧公図は1985年まで存続した後、現公図に変わったが、現地番は「西京区大原野小塩町1419番」である。

土地登記簿には権利者として共有者が列記しており、乙訓郡乙訓井ノ内・今里村が持分6分の1、乙訓郡向日町鶴冠井・向日町森本・向日町上植野が6分の1、乙訓郡久我村6分の1、乙訓郡羽東師村字菱川・羽東師村字志

水6分の1、乙訓郡大原野村字小塩6分の1で、当時の各村長が代表して管理者となっている。登記の受付年月日は明治38年12月11日で、今日に至る。かつて公称地名が鴨背山ノ1だったポンポン山も、今は味気ない数字で表記されている。

さて、こういう経過から、明治時代の所在・地番が「鴨背山第一番地ノ1」だったことから「加茂勢山」は、やはり、正式名称でよいのではないかと思われ、読者もいるかもしれない。

しかし、例えば、私の居住する公称地名は向日市寺戸町二枚田12-46で、人名は綱本逸雄である。だが、この論法でいけば、私の正式な名前は二枚田になっってしまう。同一所在地に山が複数存在する場合もある。山名がかならずしも公称地名と同じとはストリートにいかないであろう。

例えば、北区の十三石山のよ

うに、十三石山町という地名から来ているという場合もある。その由来は以前紹介した。しかし、ポンポン山の場合は、鴨背山のごく一部である。北山の柝子山などは、今西錦司氏が新しく命名して今では、この山名は国土地理院に採用されて、「花背」(2万5千分の1、平成11年度部分修正以降)に載っている。

近代に現れたというより、それより早くから地元で呼ばれていたであろうポンポン山も、通称でなく正式な山名として扱うべきであろう。実際、「京都西南部」(5万分の1)では、明治42年の測量にもとづいてポンポン山と表記されている。

実は、本誌20号(96年1・2月号)の随想欄でこの山の由来についてふれ、「山の正式名称は加茂勢山」と書いたのだが、この機会に取り消しておきたい。またその由来が、古代に成立したとされる神峰山寺の山号・根



克

本山からだという五米重説に同意したが、ポンポン山と成立年代が違うので今は否定する。
なお、山頂の案内板には、続けて「この東の地域は善峰寺・三結寺・光明寺などの古刹寺が多く、平安中期以来、仏教の地としても重要な位置を占めています」とある。

だが、三ヶ寺とも平安末期の開創である。善峰寺は天台僧源算が長元三年(1030)伽藍を建立、三結寺も源算が同時期小庵を建て往生院と称したので始まりである。光明寺は法然が承安五年(1175)庵を構えたとか、弟子の熊谷直実が建久九年(1198)出家して仏殿を造立したのが始まりと伝えられている。

これに対して、平安中期に山岳修行場として知られていたのは、神峰山寺を含む寺院がある北摂側の山々である。貴族子弟の教養書「口遊」坤儀門(97

0年、源為憲)に「比叡、比良、伊吹、神峯、愛宕、金峯、葛木謂之七高山、今案(中略)神峰山在攝津国島上郡」とあり、近畿の天台修法のための七ヶ所の霊場が有名だった。いずれも役行者の開山伝承がある。神峰山寺は、一説には奈良末期宝龜五年(774)開成皇子が堂を建立し中興したという。「三代実録」(901)によると、貞観二年(860)僧三澄が神峯山寺(霊頂寺ともある)を勧願寺にしたと記す。

いずれにしても北摂の寺院は、西山の古刹より古くから存在した。鴨背山の山名由来が、神峰山(かぶさん)↓(かむせん)↓(かもせ)の転訛であることも、20号ですでに指摘した。

これらの点を案内板管理者の京都府乙訓土木事務所に知らせたところ、「説明文の検討をする」と回答があった。(2002年7月1日記)

山のなかの 小さな生物

山田 明男

山のなかには、地形(二重山稜など)によって窪地に水が溜まり、池とかヌク場となる場所が多くある。

鈴鹿の御池岳や霊仙山は石灰岩の山で、「ドリーネ」と呼ばれる窪地の多くある「カルスト地形」で有名である。

霊仙山周辺には七つ、御池岳には二十三、石灰岩の山ではないが竜ヶ岳・静ヶ岳周辺にも四つの池が見られる。

その他、三池岳・羽鳥峰・雨乞岳・鏡子ヶ口等にも池が見られるが、いずれも石灰岩の山ではない。

驚くべきことに、これら全てではないが、95%余りの池に「マメシジミ」(淡水性の貝)が生



随想

(山のエッセイ)

克

息している。

大きさは2×6でとても小さく、雌雄同体で子どもを生む。なぜこのように多くの池に生息しているのか、どのようにして増えたのかは、まだよくわかっていないが、今年になって新たに判明したことが一つある。

御池岳の「道池」は4年程前に私たちが池と認めた水溜まりで、私が初めて御池岳を訪れた40年前には水溜まりもなく、大きなドリーネの底に縦穴が空いている状態だった。

10年ほど前から穴が埋まって水が溜まり始め、ヌク場状態が長く続いたが、4年前ぐらいからは立派な水溜まりになって、池の名をつけるまでになった。

今年の春に、この「道池」にマメシジミが生息しているのを確認した。

貝の大きさから3年以上前から生息していることもわかったが、

このシジミはどここの池から来たのか?

だれが運んだのか?

何も棲んでいない水溜まりにシジミが新たに移り棲む、このことは大きな発見である。

何らかの動物、イノシシ・シカ・ヒキガエル・鳥等が池から池へ移動したときに付いていったという仮説はあるが、はっきりとはしていない。

鈴鹿の山ばかりではなく、今年別の山域においてもマメシジミを確認した。

4月27日に、ピラデスト今津の北の、滝谷山北東尾根にある名もない小池でも確認し、7月20日、近江高山の東、金鷲岳南の「夜叉ノ妹池」でも確認できた。

標高の高い所では、栗鞍岳の標高2000付近の池にも寒冷地のシジミが生息していると聞いている。

マメシジミを研究している人

はほとんどいないようで、まだまだ不明なことが多く、全国の山々の池にも多分シジミは棲んでいるのではないかと考えている。

シジミの情報をお持ちの方は、お知らせください。
〒503-1053
岐阜県海津郡南濃町松山624-19
山田明男まで



天城連山・沼津アルプス縦走

伊豆

鷺見守康

泊まり山行では、往路のバス内で、いつも参加メンバー全員に「自己紹介」をしてもらっているのだが、すでに23時を回っており、そんな余裕はない。それに「自己紹介」も回を重ねるにつれ、不評を買うようになってきた。常連メンバーは「もうしゃべることがない」と訴えるし、そもそも、バスに乗るやいきなり「しらふ」でしゃべらせるなど無理というもの、などの声さえある。

チャーターバスの夜行は今回で三回目。過去二回は幸い現地の山小屋で、温かい朝食とトイレ・洗面の用が足せた。ところが、今回は現地に山小屋がない。どこか便利で適当な場所はないかとあちこち

に問い合わせしてみたが、やはりそんな都合のいい所はない。あきらめきれずこれこれと案を練り返し、そしてふと気がついたのだ。

宿泊先の旅館は天城トンネルへの途中にあり、朝の立ち寄りに不便はない。バス会社を通して早朝5時からの朝食を依頼したところ、了承を得た。私からも電話して礼を尽くし、さらに湯茶の提供もお願いしておいた。

宿に到着したとき、従業員はまだ出勤前で、宿は家族だけででんでこま이었다。女将に聞くと、こんなに朝早い食事の準備は初めての経験だと嘆いていた。

の道を選んだのだったが、Y・Oさんの言い分も至極もつともだった。ただちに水生地まで戻り、そこから天城峠へ向かった。

旧天城トンネル入口には、休憩舎とトイレがある。トンネルの中には情緒たっぷりのしゃれた明かりがついている。とても情態豊かな雰囲気の良い風景で、メンバーは次々と記念写真を撮る。まるで観光旅行のようだ。

トンネルの右脇から登り、九十九折の急登を進んで天城峠へ出る。峠から右へは伊豆山稜線歩道。左が天城縦走路だ。ブナの巨木がある。植物に関心の深いS・Kさんが「コバブナってあるんですか？」と訊いてきた。太平洋側のブナは葉っぱが小さく、俗に「コバブナ」と呼ぶ。これに対して日本海側の葉は大きく「オオバブナ」と呼ばれている。

天城縦走路は幅広く、しっかりした平坦な道だ。道にはシカの足跡がある。雨後、土のやわらかいときに歩いたものが寒さのため凍りついて残ったようだ。登山道は動物にとっても歩きやすいので、頻りに利用しており、彼らの足跡はけっこう見つけた。

万三郎岳山頂



天城連山

バスを降りたのは、天城大橋手前の水生地。地下バス停近くの駐車場。ここから踊り子歩道を歩き、踊り子橋、「伊豆の踊り子」文学碑を過ぎ、水生地へ。水生地は道は三方向に分岐する。

天城峠へ向かうのが普通だろうが、私はあえて本谷林道を選んだ。けれど、舗装道が続いておもしろくない。道にも確

縦走路のブナの原生林がすばらしい。日本海側のブナはスクスクと育つせいか、大木にしてもスラリとしたスタイルのものが多く、太平洋側のものはじっくりと成長し、四方八方に大きく枝を張って歌舞伎役者のような「大見得」を切っている。そんなブナのなかにヒメシヤラが混交しており、すずやかだ。間近にヒメシヤラの高木と向き合い、その樹形と枝振り、木肌に思わずドキッとする。大きな声で言うのは憚られるが、まさに女性の色香が想起されるのだ。

「ヒメシヤラは、艶めかしい木ですね」と言うと、私のすぐ後に付いている男性の2人が「わが意を得たり」とばかり賛同する。「木肌に触れると、ひんやりとして気持ちいいですよ」と説明すると、さっそく触れて「本当だ」と口々に言い、「女性」のようだ」と声を潜めた。男にとって、女性はいつまでも「憧れ」なのだ。

ブナとヒメシヤラの混交林は繰り返して出現する。予想以上の大きな原生林だ。アセビの群落も見事で、トンネル状態となっている。当初、スズタケのササ群落が目的だっ



信がもてなくなってきた。Y・Oさんがたまりかねたように、「なぜ天城峠への道を行かないのか、歴史の道歩くものだと楽しみにしていたのに」と訴える。私には翌年3月に伊豆山稜線歩道を縦走する心積りがあり、その際、天城峠を通ることになるので、今回は放えて他

たが、進むにつれアマギザサと混じり合
い、所によってはアマギザサの密生群落
が広がった。アマギザサは天城における
イブキザサの名称だと言っているのかも
しれない。

2時間余りで八丁池に到着。八丁池は
「天城の跡」とも呼ばれているようにな
かなか美しい池で、手前の展望台から望
む周囲の景観も美しい。ここで大休止し
てティータイムとする。

ロイヤルミルクティーの粉末にレミ
マルタンを注いで、ブランデー紅茶と
する。寒い季節の山歩きにはその香り高
さが味わい深く、地元のハイキングクラ
ブのメンバーの中には病みつきになっ
た人もいる。

伊豆の最高峰である万三郎岳(140
6m)を登り切ったとき、時計は12時半
を回っていた。さすがに人が多い。天城
高原から往復するハイカーたちだろう。
多人数のため少し手狭な山頂だけれど、
予定通りここで昼食とした。四囲を樹木
で囲まれて期待したほどの見晴らしはな
いものの、長い裾野を引いた富士の姿が
北方向の樹間越しに見える。
万三郎岳を越えようと道はぬかるみ状



名前を尋ねても「山のことばかりませ
ん」と言う。山好きであるかどうかにか
かわらず、沼津アルプスは地元民に親し
まれているようだ。
持参した資料で南アルプス雪嶺の山名
同定を行う。富士のすぐ西から、北岳、
間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、荒川三山、赤
石岳、聖岳と並んでいた。
展望は本当にすばらしいのだが、沼津
アルプスの縦走は予想外にきびしかった。
いずれの山も400mに満たない低山で
あるが、アップダウンの激しさは並んで
ない。例えば、香貫山からはいったん里に

となり、滑りやすくて歩きにくい。万二
郎岳からの下降はけっこう険しく、足場
の悪い所もある。わずかな量だが、残雪
が氷結している。残雪期の3月にはアイ
ゼンが必要になるかもしれない。
15時40分、天城高原ゴルフ場に下山し
た。大きな駐車場にトイレがあり、親切
にも靴の洗い場があった。駐車場から北
を見ると、富士山がすばらしかった。

沼津アルプス

翌日の天気は快晴。沼津アルプスは北
から南下することし、宿泊地の伊豆長
岡からJR沼津駅付近へバスを走らせた。
予定の香貫台への道がなかなかわからず、
結局、香貫山中瀬駐車場から歩いた。香
貫山は生活環境保全林として遊歩道が整
備されており、大変歩きやすい。水道栓
も数箇所あり、水道の1ヶ所は、富士
山麓の湧き水として有名な柿田川の水を
引いている。

香貫山の山頂から西には展望台が設け
られており、この展望台からの太平洋と
富士山はまれに見る絶景で、私たちは人
目も構わず大きな歓声をあげてはしゃい
だ。この後、徳倉山や鷲頭山などの山頂
おりて、標高わずか150mほどの横山
を越えて行くが、フィックスロープをつ
かんでも滑り落ちそうな急登を這い上が
るのだった。急登は徳倉山もしかり、鷲
頭山もしかりである。
しかも、五つの山と七つの峠を踏破し
て行く距離の長さも予想以上であった。
2日目は午前中に山からくだり、沼津市
街で浴食の心積りでいた私は焦った。
「アルプス」と呼ぶ意味がよくわかった
と溜息まじりに言うメンバーの嘆きの声
を背に受けながら、パーティがばらける
のを承知で私はベースを上げざるを得な
かった。

そんな落ち着かない気分です歩いて
も、沼津アルプスのフロラ(植物相)は
けっこうおもしろいものだった。天城は
標高が高いため、ブナを主体とする温帯
性の夏緑林(落葉樹林)であったが、沼
津アルプスは暖帯性の常緑林であり、海
洋性の気候も入り込んでいるせいか、珍
しい樹木を目にできた。タブノキ・トベ
ラ・ウバメガシなど、美濃や飛騨の山を
主に歩いている私は、ふだんはお目にか
かれない。とりわけ、トベラ・ウバメガ
シについては街路樹としてしか知らず、

香貫山から富士山と沼津市の展望



からも繰り返し絶景を堪能した私たちは、
山旅を終えてからもしばらく、太平洋と
富士山の風景が脳裏にきざみ込まれてい
た。
展望台は、地元住民の朝のジョギング
休憩地のようにもあり、子どもみたいに
騒いでいる私たちに「沼津アルプス縦走
ですか」と声を掛けてくる人もいた。け
れど、富士の西に並ぶ南アルプス雪嶺の

鷲頭山から大平山への尾根筋に見られた
ウバメガシの原生林は、実に感動的であっ
た。
大平山を最後のピークに、山口道バス
停付近へ下山したのは13時過ぎであった。
(平成13年12月22日、23日歩く)

▲参考タイム▼

- 〈21日 曇り〉JR岐阜駅23・00(バス)
- 〈22日 晴れ〉(バス)伊豆長岡温泉4・
- 45(朝食休憩)6・00(バス)水生地
- バス停6・45(旧天城トンネル)7・45(
- 天城峠)8・00(大見分岐点)9・15(八丁
- 池)10・15(30分戸塚峠)10・30(小岳)12・
- 10(万三郎岳)14・30(昼食休憩)13・30
- (バス)伊豆長岡温泉17・00(泊)
- 〈23日 晴れ〉伊豆長岡温泉6・30(バ
- ス)香貫山中瀬駐車場7・00(香貫山)7・
- 25(8・10)横山8・50(徳倉山)9・30
- (10・00)鷲頭山11・10(30分大平山)12・
- 00(山口道)バス停13・00(バス)千本ア
- ラザ13・45(入浴)14・20(バス)富士
- 川SA15・25(昼食)15・50(バス)岐
- 阜駅19・30(解散)

△地図▽昭文社「伊豆」

紅葉を求めて愛知県最高峰へ

茶白山・鳳来寺山周遊

奥三河

生駒 聳 峰

11月初旬のある日、旅行雑誌を広げていると、愛知の鳳来寺山と香嵐渓の紅葉がすばらしいとある。紅葉狩りのバスツアーも多く催行されている。鳳来寺山は有名なお寺だが、まだ訪れたことがない。同じ訪れるのなら今の時期が一番すばらしいようだ。

いつもマイカーで出かけるのは専ら山行ばかりで、当然車で寝るのだから宿に泊まったことがない。しかし、今回は紅葉狩りが観光主体の旅行なので、宿の予約もしておいた。私の個人旅行としてはめずらしいほうである。

「いつもこうでなければ」と妻が言う。もっとも内心私は、愛知県まで出かける

からには、県最高峰の茶白山に、また、鳳来寺山もお寺だけでなく山に登るつもりである。各県の最高峰の山登りも、残っているのはあと三山。その中の茶白山にはぜひ登りたいと思っている。今回の旅行も、実はそちらのほうを先に考えて計画したのが本心で、どうしても山から離れられない。どちらの山も登山というほどのこともないし、旅館にも泊まるので、妻も許してくれるだろう。

今回は山は二の次で、観光主体のマイカー旅行とする。

11月半ば、毎日見ているNHKの朝ドラを見て、ゆっくりと車を走らせる。いつもの山行きでは、どうしても時間に追

や新婚時代に若返ってのんびりしよう。ここで降りる車は周辺の観光に来る人が多いので、ゲートでは「どこに行きますか」と観光地図をくれた。

冬も近い平日とあって、場内の人影はまばらだったが、それでも小学生やバスツアーの団体の姿も見られた。名の通り世界各国の民族的な建物が点在し、衣装を着せたり、料理や土産物が並び、外国のサーカスも演じられていたり、けっこうな時間を楽しませてくれた。折から場内のモミジやイチチョウが色づき、秋真っ只中を楽しんだ。

今夜の泊まりは浜名湖畔の国民宿舎。これも旅行雑誌で見たスッポン料理に引かれて予約したが、カーナビを見ると、まだ100キロ程も走らねばならず、急い



でリトルワールドを離れた。しかし冬の日は早く、暗い道を夕食タイムぎりぎりに宿舎に駆け込んだ。いつもマイカー泊で旅をしていると、時間の決められた旅は行動が制限されて苦痛でもある。さて夕食はスッポン料理。平生はとて口にできない料理とて、楽しみにしていたが、国民宿舎の料理では全くあはずれ、量も少なく味ももう一つであった。まあスッポンを食べたというだけで終わった。

翌日もよい天気。浜名湖から伊良湖畔に車を走らせる。温暖な海岸沿いは、紀州枯れ木灘海岸と同じく、ビニールハウスで花卉やトマト等が栽培され、キャベツ畑がどこまでも広がっていた。名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ故郷の岸を離れて

汝はもも波に幾月……
島崎藤村の時にロマンを感じ、恋路ヶ浜を交し、さて出発しようとしたらエンジンがかからない。山にはかり引っ張り耐えている車も、すっかりのんびりしてしまっただ。

仕方なくJAFを呼んだら、1時間半

茶白山山頂



われて出発は慌しいが、きょうは山が目的でないで、気分ものんびり。登山のときはやはり緊張している。

天気の良いときのドライブは快適だ。名神ハイウェイを小牧東インターで降りる。目的は毎日曜の朝放送される「道浪漫」リトルワールドだ。何回も見ていると、行ってみたくなるのはやはりTV宣伝の効果だろう。きょうは子どもに、い

程待たされた。ところが何ということか、JAFが来たらどこも触らないのにエンジンが動き出した。係員も「どこが悪いかわかりませぬ」と帰っていったが、車ものんびりと静寂でもしていたようだった。おかげで余計な時間をとられ、急いで今夜の泊まりの茶白山国民休暇村に走る。

冬の日は短かい。茶白山高原道路にさしかかると、太陽は西に傾き、全山黄葉が赤く染まり、予期しない所で紅葉を楽しむことができた。道路端の温度計は3度で、山の寒さを示していた。

本来茶白山高原は、夏と冬のシーズンに賑わうはず。今はちょうどその中間で、遊戯設備等は閉鎖されている。そんな時期なのに宿舎は満員に近く、3日前に申し込んだのに高い部屋しかないと言われた。

夕食は張り込んで特別料理を頼んでおいた。おかげで美味しい料理にありつけ、妻も大満足である。ここの休暇村の若い男性従業員は態度も良くて気分がよかつた。

愛知県最高峰の茶白山は、宿舎の裏から遊歩道があり、宿で地図をくれる。翌

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- | | |
|------------------|-----------------|
| ● 1 利尻・羅臼・斜里・阿寒 | ● 35 白馬岳 |
| ● 2 二七コ・平駒山 | ● 36 奥美濃・五竜岳 |
| ● 3 大雪山・十勝岳・積丹岳 | ● 37 駒・立山 |
| ● 4 十和田湖・八甲田 | ● 38 上高地・穂・穂高 |
| ● 5 八幡平 奥平山・妙高 | ● 39 奥秩父 |
| ● 6 奥羽・早池峠 | ● 40 御嶽山 |
| ● 7 蔵王 御台山・蔵王山 | ● 41 中央・南アルプス総図 |
| ● 8 奥羽山 | ● 42 木曽駒・空木岳 |
| ● 9 朝日・出羽三山 | ● 43 甲斐駒・北岳 |
| ● 10 新穂山 | ● 44 塩見・赤石・聖岳 |
| ● 11 磐梯・吾妻・安達太良 | ● 45 白山・荒島岳 |
| ● 12 磐梯・塩原 | ● 46 奥山・伊吹・藤原 |
| ● 13 日光 奥日光・白根山 | ● 47 藤原所・霧ヶ岳 |
| ● 14 奥日光 | ● 48 比良山系 |
| ● 15 越前三山 | ● 49 京都北山1 |
| ● 16 谷川田・高尾山・武蔵山 | ● 50 京都北山2 |
| ● 17 志賀高原・草津 | ● 51 京都西山 |
| ● 18 妙高・戸隠・湯浅 | ● 52 北沢の山々 |
| ● 19 軽井沢・浅間 | ● 53 六甲・霧都 |
| ● 20 赤城・奥海・筑波 | ● 54 葛城高原・二上山 |
| ● 21 西上州・妙義 | ● 55 会瀬山・岩瀬山 |
| ● 22 奥武蔵・秩父 | ● 56 紀伊高原 |
| ● 23 奥多摩 | ● 57 大神山系 |
| ● 24 大菩薩峠 | ● 58 大台ヶ原 |
| ● 25 奥日光・阿蘇山 | ● 59 赤目・奥磐梯高原 |
| ● 26 金剛山・甲斐岳 | ● 60 水ノ山 |
| ● 27 高尾・保良 | ● 61 大山・深山高原 |
| ● 28 丹沢 | ● 62 四国駒山 |
| ● 29 箱根 | ● 63 石鐘山 |
| ● 30 伊豆 | ● 64 権左の山々 |
| ● 31 富士・富士五湖 | ● 65 阿蘇・九重 |
| ● 32 ハッ岳・御料 | ● 66 冠母・楳 |
| ● 33 霧ヶ岳・霧ヶ峰 | ● 67 奥島・阿蘇岳 |
| ● 34 北アルプス総図 | ● 68 奥久岳 |

※印は新仕様の地図です

- 昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行します。ご山行の際はなるべく最新版をご使用下さいませようお願い申し上げます。
- 2002年度版は13日光・奥日光・白根山・18妙高・戸隠・湯浅・42木曽駒・空木岳・45白山・荒島岳・53六甲・霧都を全面改訂しました。

昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1
電話03(3556)8111(代) 〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中島5-11-23
電話06(5303)5721(代) 〒532-0011
(インターネットで情報発信中)
<http://www.maple.co.jp/>



風来寺山山顶

たより時間がなかった。日本いや世界中の都会はどこも車があふれている。この道の駅の売店は農産物が安い。何でも一袋1000円也。平田柿も産地が近く5、6個も盛られて2000円だ。柿の好きな妻は大喜びだが、たくさん買いたむわけにもいかないと残念そう。メロンも産地で1000円ほどで買った。駅前のスーパーで夕食を仕入れ、広い駐車場に寝る。道の駅はきれいなトイレが常設されていて、車泊には快適だ。ほかに何台もの車が泊まっていた。

翌日は日曜日、観光地はどこでも混みそうなので、早々と車を大阪に走らせました。登山を目的にしない車の旅は、私としてはめずらしいのだが、それでも何か山に引っかかっていると妻は言う。本当に私の頭のなかは山でいっぱいなのでしょう、知らぬ間に山が入り込んでいる。身体の動くうちは治まりそうもない。

このようにして今回の観光とも山登りともつかない旅は終了した。
(平成13年11月歩く)



朝一人でカメラを手に登る。周囲の木々はすっかり葉を落とし、遊歩道は落ち葉に埋まり、山はすっかり冬支度である。山頂には展望台・石碑。そして新字の2等の三角点。気候のよいときは家族連れで賑わうであろう山頂も、ただ一人の人影もない。展望はすばらしいが、南アルプスは冬空に霞んでいた。眼下のスキー場も全く人の姿はなく、静まり返っていた。県別の最高峰への登頂も、いつしかあと二山を残すのみとなった。

風来寺山を目指して山をくだる。50mも後戻り。登山と違って車で走るので、漠然と計画していたが、車の不調もあり、大廻りの不都合な走り方だが、まあんびりいこうか。

山頂の三角点は文字も読み取れず、展望もない。反対側の縦走路からも次々と人がやってくるので、下山は反対側に向かった。ところがこちらのほうは距離も長く、岩の露出部や丸太棧道などがあり、思ったより急坂があつて大廻り。軽く考えて登山靴も履かずストックも持たず、そのうえ腕時計まで忘れて迂回であつた。

今夜は宿を予約していない。毎晩旅館泊まりでは財布が持たない。泊まりはどこにしよう。車で寝るのはお手のもので、道路マップを広げて道の駅を探す。道の駅は都会にはなく郊外に多い。豊橋市郊外の田原町に道の駅のマークを見つけた。カーナビでは26と出たので、1時間もかからないと思つたら、市内の通過に思つ

花より団子じゃないけれど、本来私の目的は紅葉より山のほうである。お寺から登山道があり、40分くらいのことので、妻を残して山頂に向かう。本堂からは見上げるばかりの岩壁で、どこに道があるのかと思つたら、鉄階段の連続であつた。山頂近くに奥の院があり、東海自然歩道にもなつていて、けっこう大勢の人が登ってくる。ハイカー姿の人もいるのだが、大半は車を降りたままの姿で、意外と老人の姿も多い。多くの人が思わぬ急坂に息を切らしていた。

有名な豊川稲荷に立ち寄ってみる。皆さん豊川稲荷の御本尊はどなたかご存知ですか。お稲荷さんといえばお供のお狐ばかりが有名だが、本尊は豊川陀尼眞天という尼さんだそう。尼さんとは全く知らなかったのは私だけか。たくさんのお札に御売繁盛の文字ばかりが踊っている。

結局1時間半ほどかかって妻を心配させてしまった。やはりどんな所でも山は軽く考えないことである。

車に戻ると広い駐車場からはみ出した車が列をなしている。本来もう一つの紅葉の名所の足助町香嵐渓に廻る予定だったが、この混雑ぶりに恐れをなし、取りやめにした。私たちサンデー毎日族(毎日が日曜)は、休日を避けたほうがよい。

瀬戸内海の島の最高峰を歩く(2)

生名島・弓削島・佐島・岩城島・伯方島

多摩 雪雄

瀬戸内

立石



センスのいい木製遊具や休み台等がある。

鉢巻山の西麓蛙石集落にガール石(蛙石神)という、岩子島のゆるぎ石に匹敵する大石があったが、戦後の建設工事で大きく割られて蛙の形ではなくなってしまった。

亜高峰は北端の立石山(点名・生名1) 3等三角点138・8円で、この東麓押揚集落に記号の少し先の老人デイサービセンター前の山側に、整備した緑地公園があり、巨大な石の頭部に注連縄を張った立石がある。見る方向によっては巨大な男性シンボルに見えるが、生名島の石ではなく、原産地不明で他より搬入され

たものとされ、高さ5尺(地下2尺)、周囲20尺(地下周囲25尺)もある。弥生時代には信仰の対象となり、立石山の起名源である。

この北側の民家前から石段を登ると、女傑麻生イトの石像が覆屋の中にある。「明治、大正時代に女傑の一人といわれ、一代で造船業の下請けの麻生組を興した男装の女親分麻生イト翁(1874

生名島

因島長崎港から3分60円で生名港に着岸した。最高点の鉢巻山(点名・生名II) 3等三角点141・6尺の登路を役場で調べたが、東の稲浦集落からのルートはなく、西は岩崖であるという。念のために稲浦に行って、二、三の住人に聞いてみたが、取付点さえわからない。

役場東裏手の突端、巖島4等三角点26・5尺の頂上は草地の小丸で、周囲の樹木が繁茂し、弓削島と因島の山脈が見えるのみである。報〇〇と記した巨大な粗石塔が建っており、一段下は畑地である。

この南麓の海べりは広い児童公園で、

(1956)である。因島の公共事業や教育活動等、町の発展に寄与し、尾崎行雄他の政界人や、河東碧梧桐等の文人とも親交があり、晩年は私財を投じて、この立石に三秀園を造り観音信仰の霊場とした。町の恩人である。」

そこから凝木段を登って五重塔と岩屋観音を拝し、踏み跡が消えるまで進んで引き返す。かなりロスして五重塔下の小広い捲き道を西へ迂曲して、1時間後に頂上に達した。

「この頂上全体が磐座(祭祀の場)であり、陽石(男)・陰石(女)があって、昭和50年秋、文部省による弥生系高地性集落総合研究では大形蛤刃石斧・石包丁・石鏃・磨石・ナイフ型石器等多数と、弥生式土器片が多量に出土した。



弥生時代中期の「倭國大乱」と関連して考えられ、祭祀と軍事的防塞との複合遺跡として極めて重要な文化財である。」登り着いた所にある三角点標石は枯れ松葉におおわれて化粧面を長く現し、天辺四隅を小さく欠かれています。そこから南西端の小平地に鉄製の高い展望塔があり、後方には岩城島の積善山が高く蒼空をくざっていた。

最高所は若い松とミツバツツジの群落に囲まれ、文化財に指定された盃状穴を中央にして磐座が整然と配列され、ぬをふって図解されている。

眺望を意のままにする大岩に坐して、動くことを忘れた一行は、ミツバツツジのピンクに酔いしれていた。

弓削島と佐島

因島長崎港から弓削明神港へは15分220円。商船高等専門校西側の定光寺山門を入った右手の観音堂を拝す。

弓削島の塩の荘園時代の末期に当たる寛正四年(1463) 8月3日創建の堂宇は、岩城村の観音堂と共に左甚五郎作と伝えられていたが、それよりはるかに古く、岩城村のと同じく飛騨の匠の作で、宝(方)形造りの木材や瓦に室町時代の材が多く、昭和52年国の重要文化財に指定された。

本尊観世普菩薩は、いつの時代にか現在まつられている阿弥陀如来に代った。

弓削島南端の久司山(点名・下弓削) 3等三角点142・4尺は、古墳群が数個発掘された弥生人の櫛山古墳跡である。山頂から東へのびる主線を一周道路が突っ切る峠状の東側に鉄塔があり、その反対

側の狭いコンクリートの階段をわずか登って、あと岩土道を登ること10分で山頂に着いた。展望台からは北東方の真下に国民宿舎、反対側の北西方には弓削大橋の後方に生名島・因島が大きく連なるが、その他の方向は樹林がのびている。三角点標石は岩床から姿を現している、四辺に取紙がある。

国民宿舎等の公共施設は設備や部屋の調度・浴室等が優れているが、時間に制約もあり、われわれ中高年のハイカーには不向きである。

調査した時点では大変よろしかったのだが、10帖部屋に5人も入れられて、文句を言うとうすぐ隣室を提供してくれたり、四階の部屋から一階の食堂の上り下りにエレベーターがなく、夕食は二切ずつのさしみ三種・5杯位の焼酎・トマトとキャベツ・海草酢物だけ。一同の食事が終わって席を立ったとき、やっと蛸三切とサヤエンドウの天ぷら・魚のスマシ汁が運ばれてくる。もうここを利用しようとは思わない。

翌日、最北集落の久司浦の東泉寺を訪ねた。ここの薬師如米は未公開秘仏の文化財で、文明十二年(1480・足利義尚

標石の磁北は20度。頂上地下を大きく掘り下げて巨大な貯水槽を設置した工事のためか、標石は無残にも欠かれていますので、われわれは周辺から大石を数個運んで、これ以上損傷しないように保護しておいた。

立木はほとんどなく、ミツバツツジとサクラが植えてあるぐらいで、眺望は抜群である。

三山林道の要所に水栓があったのは斜面の植樹の防災のためであるが、その水槽の上蓋が大きく露出しているのは感心できないと、帰路役場に申し入れておいた。

佐島の最高点横峰山(点名・横峰)4等三角点119・9は、東風浜集落から登る予定にする。佐島港に着いて食料売店を訊くと、学校下の雑貨店を教えられた。仕出し民宿のつくったうまい弁当やパン等があり、ちょうど買物に来ていた中年の美形婦人が「東風浜より西辺のほうが道がいいが、登り口がわからないから案内してあげる」と、スクーターでコトコト先行してくれる。

西辺集落へ西岸道から分かれる地図上の道は、すぐまた分かれて南から東へ小

時代)路の瓦がある。また承元年間(1207-110)河野水軍の将宇多源衛門が、この地に堂宇を建立し、念持仏薬師如米木像を安置したという伝承があるが、残念ながら拝観することはできない。

ここから南へ谷筋を登る舗装林道をつめる。途中から東へ分岐する林道(地図上に未記載)は東岸の大谷集落に向かうが、北南に連なる主稜を越えると間もなく行き止りとなる。

その峠状の乗越点は大広く、三山環境保全林を三ルートに分けて頂上に達する道が、林野庁・愛媛県の立派な園入り案内板で示されている。

犬の散歩に来ていた紳士が、「左は階段の急登で、中央が歩きやすいですよ」と親切に教えてくれる。

入口にはチェーンが張られて車輛進入禁止となっていて、小広い草道が始まる。

道脇には多種の花が咲き競っているが、ヤマキキとミツバツツジが多い。のんびり歩いて20分で三山(点名・深山)3等三角点325・3はの広大な草地の頂上に着く。時に9時20分。無風、高層雲8、高曇。20度C、曇り。

登りの土道となる。畑仕事中の老夫婦に道を確認すると、案内の婦人は自宅の東風浜へ引き返していった。島の人々は、ほんとに親切だ。

峠からの1・5分幅のコンクリート道は、10分程で松とミツバツツジの岩道の蛇行登りとなり、主稜の東腹から捲き登って20分程で松に囲まれた狭い頂上に着く。六十番横峰寺の立派なコンクリート造りの堂宇があり、東風浜から樹枝の張るなにかを急登するかすかな小径を見る。

福羅古墳という祭祀場の整座を開いて長方形石が数本立ち、よく見ると各面に人面と如来仏名が刻まれている。

眺望抜群と資料にあったが、周囲の松の枝がのびて北方の景のみとなっている。

佐島から岩城島への便は少なく、2時間余も待つ間に港上方の小学校にGPS960678を探査したり、港の西端丘上の立派な佐島八幡宮と厳島神社に詣でた。

佐島港を出航した船中から、真西方向に岩城島の主峰積善山が西裾を長く引いて、その穏やかな姿は薄曇りの天空を背にして高かった。

私達におまかせ下さい。待っています!

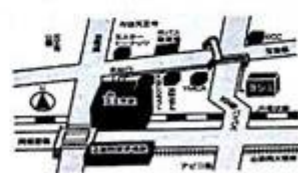


●詳しくはホームページを見て下さいネ。

登山用品専門店

とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.yoshimisports.co.jp/>

JR天王寺駅北出口
より東へ徒歩5分

岩城島と伯方島

佐島港から15分170円。岩城港に着いてから、密集する町家に古い家屋が点在するなかを、旧陣の三浦家を訪ねた。郷土館として無料開放されていて、9時より16時30分まで(火曜休館)。若山牧水や吉井勇等が訪れていて、

ゆた〜にはやく潮満てゆた〜に酒をかづきにみちており 牧水
牧水がむかしの酒のほひして

岩城の夜は寂しかりけり 勇
他一名の歌碑が前庭にある。

この町中から二、三の積善山登路があるが、南からのこれらの道は、頂上近くで北登路と合する手前で大崩落により通行禁止となっている。

海岸周回道を迂回して北方の十字路から南行道に入る。

地図上「岩城島」の岩の字の右上の曲点に妙見神社島居と駐車場・トイレがある。車行登路と平行に地図に記載の細線を二六〇段登るとアレハブの神殿がある。この裏手の巨岩が古代の祭祀跡である。

この細線をなおも一四〇段登ると、蛇行してきた車行登路に合する。登り着いた積善山(点名・岩城島)2等



開山山頂

三角点369・8の標石は大きな円盤の中に一段高く埋定されているが、西面が大きくかち割られており無残である。大きな円塔展望台があり、申し分ない眺めが得られるはずだが、夕暮れとともにガスが濃く立ち込めて近辺の島々も籠ろに霞み、まるで神の国に近づいたようだった。

全山桜樹とミツバツツジの満開で、緑をぬってピンクが浮き立っていた。小瀬港と長江港に寄って時間を調べたが、やはり岩城港から伯方島に渡る以外に、方法はないようである。

岩城港近くの西山旅館が、全てにおいて、今回一番良い宿所であった。

翌早朝、一二段の石段を登った岩城亀山城址は、八幡神社社伝によると、「明德三年(1392)足利義満將軍」村上敬吉が居住し、後河野嫡家安徳の節減没す」とあり、本丸・二ノ丸・三ノ丸・武者走り及び岩壁上に築城用の穴が二十個あって、中世水軍の城塞の面影を留めている。

西部の禪雲寺はなかなかの大き寺で、観音堂は国の重要文化財であり、天然記念物の舟形ツバメガシは太さ3・5m、高さ6m、樹齡六〇〇年の大樹で、見事な刈り込みが施されている。

岩城港から伯方島木浦港へは20分260円。港西上方の大深山の禪興寺に詣でる。能島水軍の本拠地である伯方城の砦の一つで、村上一族の菩提寺でもある。能島村上の祖、村上雅房夫妻の墓と、その当時植えられた大楠は樹齡六五〇年、樹高16m、枝張り東西、南北とも30m、これも天然記念物である。

宝殿山下の駐車場から凝木段四〇〇段を登り、狭長な山頂(点名・北浦1)3等三角点304・0mへは20分で着く。三つの小コブの北峰、樹草のなかに取巻のないきれいな標石が埋定され、わずかに

高い南峰には祭祀跡の石組がある。背後の割れ目に一石三体の仏像が安置されて、低い松とミツバツツジが彩りを添えている。時に12時10分。無風。高嶺雲2、乱層雲2、晴。24度C、暑い。

浜ノ上の道の駅で昼食後、北西の開山に向かう。駐車場からわずかに5分。頂上は石仏に囲まれた六角形の大きな木造展望台があり、真下に埋定された開山(点名・伊方3等三角点148・8m)の標石は、上面四角に小さな欠きがあって、大きく浮き上がった。

脇に観音堂があり、全山公園風に整備されており、桜樹の花盛りであった。北浦城址・薬師堂・八幡神社を拝して、この行程を終了した。

(平成14年4月上旬歩く)

- ▲コースタイム▼
- 文中を参照
- ▲地形図▼
- 2万5千II 備後土生・岩城・木浦
- ▲宿泊▼
- 西山旅館(岩城島)

☎0897(75) 2010

ネパール・トレッキング

春浅きランタン谷へ

妻 鹿 ひろ子

ネパール

八ヶ岳の小屋の主人、Tさんと雑談ついでにネパールトレッキングの話がまとまった。

今度はナムチェカランタンと想っていたので、ヘリコプターでランタンに入り、ゴサインランド経由でカトマンズに戻りたい希望を伝えると、彼には彼の意思がありシャブルベンジからドンチェに下りたいらしい。20数年前、青春の彷徨をした懐かしい地のようだ。私はヘリでランタンを飛ばせば、望みの大半を果たすようなものだから、ここらが妥協のしどころと話が決まる。

8人のメンバーがカトマンズ空港に降り立つと、空港にはTさんの知人アジャ

が待っていた。

婦りの飛行機のリコンファーム、トレッキング許可書の発行待ちなどでカトマンズに2泊し、3日目によく準備が整い、タクシードで空港に向かった。5人も乗ったためか、タクシードがどうしても土手の坂を登れない。やっとエンジンがかかって、すぐエンストしてしまう。ここはネパールだ。すべての事はノープロブレムで通すお国柄、すっかりあきらめて突っ走っているより仕方ない。

アジャが拾ってきたタクシードに乗り換えて、ようやく空港に着くと、思ったより立派なヘリが待機している。しかも日本製、川崎だ。ヘリの積載総重量を測るた

ヘリポート・キャンジンジンゴンバにて



め1人ずつ秤に乗る。体重にコンプレックスのある人は大弱りで、靴を脱ぐとか脱がないとか、騒いでいる。ちょっと趣旨が違おうと思うのだが、少しでも軽く見せたい女心、秤に近寄らないのが思いやりというもの。

噂通りカトマンズの排ガス汚染はひどい。以前は、空港からくっきり見えたヒマラヤが、春霞のなかのようにぼやけて

いた。

ヘリは順調に飛び、カトマンズを離れると背空の下に葉の花畑の丘が眼下に広がる。白いヒマラヤの峰々がグングン近づき、ヘリはやがてランタン谷へ入った。両側から7000呎の大岩壁が迫る狭い谷を、岩肌に鮮やかな影を落としてヘリは飛ぶ。自分の乗った機影を見ながら飛ぶのは実に気分がいい。時速1000、というスピードも景色を見下ろすのにちょうどよい。ひらり、ひらりと岩肌を縫えば、イワツバメになったような心地がする。もうヘリに病みつきになりそう。

今回一番の気がかりは、高山に弱い友人Sを騙して連れてきたことだ。彼女は山は素人だが、テニスと水泳で鍛えた強い足腰と抜群のバランス感覚を持っている。槍も穂高も登った。標高差日本一と言われる黒尾尾根から甲斐駒にも登っている（これも騙した）。キナバルのラパンラタ小屋で軽い高山病になったが、がんばってロウズピークも踏んでいる（このときは騙していない）。このときによほど懲りたのか、もう3200呎以上は、絶対に登らないと宣言していた。「うん、大丈夫、3000呎ちょっとの



ツェルコ・リの登山道にて

空は青く高く、陽はうららかに、山は白く輝く。カルカ（夏の放牧時の出小屋）の陽だまりで、うつらうつらと時を過ごすのも最高の贅沢というもの。リタイア組にはリタイア組の楽しみがある。

4700呎を超えると残ったのは私とMさんとダニーだけだ。Mさんの健脚ぶりには舌を巻く。

どこが苦しいというのではないが、体がやたらに重い。四・五歩歩いては両手をストックに預けて立ち止まる。岩の間にはたまった雪が靴の中に入ってくる。今

所までヘリで入って、そこから辺をブラブラするだけ。何しろ世界で一番美しいと言われる谷だから」と、近所の公園を散歩するような口調で誘い出したが、ランタン奥のヘリポート、キャンピングゾンは標高3800呎、富士山より高い。ヘリを降りるとサーター（ガイド責任者）のダニーがポーターの少年4人を手配して待っていた。

枯れ草の広場のベンチで熱いお茶を飲む。ここにいるのは、小屋番と私たちと、カナダからの一人旅の女性と彼女のガイドだけだ。

目前にガナンチェンポ、右手にランタン・リ、背後にランタン・リルンの7000呎峰がくっきりとヒマラヤ壁を見せてそそり立つ。

空が狭い。Sは何の変調もなく快適そうである。

1時間ほど休憩し、近くのキムシュン氷河に出かけた。100呎も歩かないうちに、Sが頭痛を訴え高山病になってしまった。せめて一晩はじっとしているべきだった。彼女は、そのまま3日間寝たきりになり、吐き気と戦いながら、わずかなブドウ糖だけで過ごした。ランタン

までまったく雪がなかったのでスパッツを置いてきてしまった。目前によく見えたピークはかなり白い。スパッツなどには靴は濡れてしまおうだろう。あと少し。もう100呎ちょっとに過ぎない。しかし、その100呎を登るのにまだ1時間以上かかるだろう。ダニーは岩から岩を、廊下を歩くような身軽さでひよいひよいと飛んでいく。悪戦苦闘する私を（軟弱な奴と）笑って見ているが、シェルバ族のようにはいくものか。

ひと休みしていると、置いてきたメンパーがちょっとしたトラブルを起こした。他にも小屋に残したSのことや下の方で待っているメンパーのこと、これからかかる時間のこと等を考え合わせれば、これ以上無理はできない。やむを得ずという心境で中止をダニーに伝える。状況がよくわからないMさんは、

「どうして中止なの。なぜ、登らせてくれないの。5000呎を登るのは、私には最後のチャンスなのよ。そこにピークは見えている。お願い、登らせて」と、泣いてかき口裂くのを、

「大阪を出るときの、4700呎の目標は超えたからもういいじゃない」

村まで下ろそうかと思ったが、結局、彼女を小屋に寝かせたまま、私たちは氷河まで出歩いた。夜は、隣の部屋で笛と唄に浮かれて踊りまくるといふ薄情さをさらけ出した。

翌日は4700呎のピークを取るつもりでいたが、ヨーロッパアルプスより高所を、というTさんの提案で5000呎のツェルコ・リに登りに行く。このあたりは初夏ならば一面の花畑になり、世界で一番美しい谷という評価をほしいままにするのだろう。この岩陰に、憧れのヒマラヤの青いケン、メコノブシス・フォリデラが咲いていたかも知れない。雨季のネパール旅行は少し覚悟が必要だが、「案ずるより進むが易し」ということもある。

いつかは花のランタンへ……

Tさんは別行動で、1人で谷の最奥、ランシサ・カルカに向かった。走るように谷に下りていく。ヤッホーと呼びかけると、手を振ってあっという間に谷奥に消えていった。すばらしいスピードだ。4000呎を超えるとみんなに高度障害が出始め、1人、2人とリタイアしていく。

と、なだめすかして諦めさせた。

「アー！んんん！でも私も登りたかったなあー」

下りは快適だ。体はぐんぐん軽くなる。コース上に残したメンパーが眼下に点々と見える。みんな元気そうで安心する。Mさんは、淋しそうに歌を口ずさんでいる。今、必死で自分をなだめているのだろう。かわいそうだが放っておくより仕方ない。

道草を食いながら小屋近くまで来ると、背後の山壁に大規模な雪崩が発生した。間に谷があるため小屋は何の心配もないが、山壁一つが、すっぱりと雪煙に覆い尽くされ、白い雲がまといついたように、いつまでも消えることがない。その迫力にただ息をつめて見つめていた。

3日目に帰途に着く。Sもどうやら自力で歩ける。わずか2000呎下の、ランタン村に着く頃は、うのように元気が一番というセオリーを、絵に描いたようなゲンキンな人だ。

村の小川でマニ車が廻っている。ひと廻しすれば、経文を何回か唱えた功德があるといわれるマニ車が、水車のように



ランタンからの山（無名峰）

流れのなかでぐるぐる廻り続けている。頭がいいのか横着なのか、信仰心が厚いのかおどろきのか判断がつかぬ。ランタンを作法通りに左側を通り抜け、ランタンコラーに沿ってくだっていった。カナダの女性も私たちと前後して降りてゆく。彼女のガイドは、ひょうきんなイタズラを仕掛けるが、彼女は冷ややかな一瞥を向けるだけでまったく取り合わない。退屈したガイドは休憩のたびに私たちのそばにくる。ヨシモトとか、旅芸

人とか名づけたが、彼はヨシモトが気に入ったようだ。

ラマホテルはロッジの建設ラッシュである。Tさんが歩いた昔は一軒しかなく、その宿は、息子が継いでいるが父親も元氣だ。Tさんと父親は昔話に花が咲き、「オヤジ」

「オヤジ」

と互いに連発している。ネパールのオヤジも日本語の「おやじ」がいたく気に入ったようだ。宴が盛り上がった頃、ヨシモトが酒瓶をぶら下げて闖入してきた。ラッパ飲みしながら達者な踊りを披露するが、Sも負けていない。たちまちリズムをつかみ軽快に踊る。20年以上の付き合いだが、彼女がこれほど芸達者とは気づかなかった。笛を吹くポーターの少年も乗りに乗る。今やヨシモトはSの踊りに押され気味で、ラッパ飲みなどしていられない。たじたじと、踏みとどまるのがやっとである。まるで真剣勝負だ。

「あなたはもう日本に連れて帰らない。

ヨシモトと旅芸人をしていなさい」

と、あきれ叫んでも馬の耳に念仏だ。「あーびっくりした。あなたがあれほど芸達者とはちっとも知らなかった」

ていても胃袋がうめく。

外のベンチで食事していると、7、8歳の息子が柴を背負って帰ってきた。腰に差した山刀も決まっている。荷を解くと、かけたしの山男など足元にも寄れない鮮やかな手つきで、ロープを巻いていく。不敵な面構えは、将来、国を動かす大物になるか大悪人になるか、波乱万丈の生涯を予感させる。荷を片付けると、彼はすぐ家に走りこみ、幼い弟をおぶって洗いのを始める。おそらく学校などとは無縁の生活を送っているのだろう。ここには百年前の日本があった。

その晩はシャブルのホテル・イエティに泊まった。商売熱心な肝っ玉母さんが切り盛りしている。すぐに荷物などをセールスするが、不快感はまったくなく、私はこの母さんが大好きになった。料理もうまい。私の覚えたてのネパール語も優しく訂正してくれる。Tさんが、肉を食べたいと交渉するが、すげなく断る。「どこかで、鶏を一羽都合つけてよ。村にいますらう」

「だめ、私は仏教徒だから」

毅然として、自信に満ちている。もしも、ランタンをまたくることが

あったなら、迷うことなくシャブルのイエティに泊まろう。

さて、いよいよトレッキングも最終日になった。シャブルからドンチエにくだる。ドンチエは2000mを切る。高度が下がれば、亜熱帯に近いネパールだから、日本の4月のような温かさになる。2月なのに気の早い石楠花が咲き出している。ポーターの少年が斜面に降りて花を取ってくる。彼等にできる精一杯の心尽くしだろう。最後は持てあまして処理に困るのだが、にっこり笑って受け取るしかない。

ドンチエにはチャーターした車に乗ってアジャが迎えにくる。到着が少し遅れているようだ。少年たちにチップ代わりの古着を分けて、これでさよならだ。17歳の笛の上手な長男と、ジャニーズ系の超ハンサムな15歳と14歳の次、三男。次男の友人という4人で、春休みを利用しての子どもたちのアルバイトだ。三男はゾウリの鼻緒ずれが化膿しかけて痛そうだった。足を洗い化膿止めを塗り、カットパンを張ってやる。それがよほど嬉しかったのか、眼を真っ赤に泣きはらし、別れを惜しんでくれた。いい子たちだっ

「だって、口悔しかったんだもん、人が苦しんでいるのに、毎晩楽しそうに宴会して……。羨ましいのがいっぱい溜まっていたの」

この根性と、陽気さ。まだまだ騙して連れ出す価値はある。

断崖の上に巨大な蜂の巣がある。豊より大きい巣がいくつもあり、双眼鏡で見ると蜂がうごめいている。村人の共有財産だ。年に一度、選ばれた者が命がけで蜂蜜を取りに行くというテレビ番組を見たことがあるが、あれはここだったのか。タルチョーがはたたく吊り橋も渡った。番組のなかで、老いたシエルバが折りを込めて吊り橋にタルチョーを掛けていく。そのタルチョーが今、はためている。もっと困難な秘境かと思っていたが、人気コースのメインルートではないか。タレントがガイド役ならこんなものかもしれない。

茶店で昼食にするが、出てくるものは茹で卵と茹でたジャガイモだけだ。春先の山中に、新鮮な野菜などどこを探してもあるわけがないが、それでも野菜や果物が無性に食べたい。無いものねだりはするな、とTさんに叱られるのがわかつた。休憩のたびに日本語とネパール語を教えた。

この国の未来には教育は不可欠だ。勉強して未来を拓いて欲しい。やって来たアジャに通訳を頼む。「勉強しなさいよ。勉強しなさいよ」

乾き切った赤土の道を砂埃を上げて車は走る。座席に坐っていても振り落とされそうだ。窓枠にいやというほど頭をぶつける。胃が逆立ちしそうなほどにゆれて、体中、力が入りクタクタだ。揺られて揺られて7時間。ようやくカトマンズの灯が見えた。

出発までの5日間をボカラや周辺の観光で過ごした。朝焼けのナガルコットの丘に立てば、はるかかなたにランタン・ヒマールが白く輝く。Tさんがポツリと「妻鹿さんの言うように、ゴサインクンドに超ったほうがよかったかな」と。だから、私が言っただろう、とコマールシャルのような言葉が頭に浮かぶが、聞こえなかった振りをしておこう。

ゴサインクンドならカトマンズから近い。今度は一人でこっそり来てやろうと、はるか彼方のランタン・リに視線を向けた。（平成11年2月3日〜14日）

標高による山の紹介シリーズ 7 松田敏男

新ハイ関西67号

標高△△67mの山

御嶽山 (3067m)・木曾
 黒法師岳 (2067m)・南アルプス
 甲斐駒ヶ岳 (2967m)・南アルプス
 横高山 (767m)・京都北山

御嶽山

御嶽山は私が一人で登った最初の山だ。20歳になったばかりの夏だった。よく晴れていた。田の原でバスを降りてすぐ御嶽山を描いた。山の中で描く最初の山の絵だった。

王滝頂上では地獄谷から烈風が吹き上がってくるなかで、中央・南アルプスや富士山を描き、剣ヶ峰からは乗鞍岳や槍・穂高連峰を描いた。

明るい二ノ池に対して、岩角から下をのぞき込んだときに不意に見えた三ノ池の暗くて神秘的な姿にぞくぞくとした。



黒法師岳

黒法師岳

南アルプス深南部と言われる光岳以南の静かな山域の中で比較的入山しやすい山の一つが黒法師岳だ。山の会の5人のメンバーで行った。水窪湖畔の林道の奥のゲートから歩く。等高尾根と呼ばれる丸盆岳との間に上がる尾根を登った。よく踏まれている道だった。主稜線に出るとササ尾根となり展望が広がった。聖岳や上河内岳には雪が残り、光岳から池口岳の稜線がくっきりと見えた。丸盆岳をはさんで東側には間近に大無間山が大きく望め、その左奥には沢ヶ岳などの白峰南嶺の山々、そして右後方には白い富士山が美しかった。ササと枯木と針葉樹がミックスされた地味な雰囲気なかで、残雪をいただく高い山々がアクセントとなって、展望をひきしめていた。黒法師岳自体は黒々とした針葉樹におおわれていて暗い山頂だった。

△コースタイム▽
 水窪湖畔林道奥ゲート (4時間30分) 黒法師岳 (3時間) ゲート
 △地形図▽2万5千1寸又峡温泉・水窪湖
 (平成7年5月20日歩く)

横高山

京都に生まれ育ちながら40歳になるまで横高山に登っていなかった。市内から比叡山を眺めるとき、いつもその左に二つ小さな山が見える。水井山と横高山だ。小さい頃から名前には知っていたのに、甲斐駒ヶ岳にはすでに三回登った時点でも、横高山は未知の山だった。

平日なのに職場の開校記念日のため休日という、人の多い山に行くには格好の日を選んで登ってみた。
 バスで大原の登山口バス停まで行き、青竜寺への道に登った。青竜寺から主稜線に出て北上すると、玉体杉に着いた。そこには信じられない展望が待っていた。琵琶湖上には雲が横たわり、その上に真っ白な白山が浮かんでいたのだ。
 横高山の山頂は通過点のような平凡なものだったが、大収獲の山として印象に残った。(平成元年1月18日歩く)
 △コースタイム▽
 登山口 (2時間) 横高山 (1時間40分) 野村岐
 △地形図▽昭文社「京都北山1」

甲斐駒ヶ岳

甲斐駒ヶ岳には八回登っている。3000級級の山では最も多い。そのなかで一番印象深いのは92年1月5日。仙水小屋を8時に出発して、10時30分頃に着いた。快晴だった。1時間30分程山頂について、北岳・仙丈ヶ岳を描いた。

作家宇野浩二が「山の団十郎」と評したように、大見得を切ったような堂々たる姿が実にいい。その姿をJR中央本線から眺め、竹駒ヶ岳神社手前のキャンプ場でテントを張ったのも同じ年の夏だった。繰り返し登っているのに黒戸尾根からはまだ登っていなかった。昔からの信仰ルートを登らないままではいけないと思ったからでもある。途中の七丈小屋でテントが張れるので、頂上までの高度差2200mもさほど苦しくはなかった。
 山のなかから見る姿では何といても、栗沢ノ頭から眺める圧倒的な存在感に優るものはないと思うが、北から東へかけての、入笠山・日向山・荒倉山付近などから眺めた甲斐駒ヶ岳も実に美しかった。

△地形図▽昭文社「甲斐駒ヶ岳・北岳」

リトル比良

木村太郎

比良

比良連山を眺めて湖西道路を走り、志賀バイパスを抜けると琵琶湖岸に出る。車で西近江路を訪ねると、日本最大の琵琶湖の景色を目にした瞬間、気分が弾んでくる。志賀町から高島町へ入り、明神崎の湖中に近江最古の大社白鬚神社の丹塗りの大鳥居を見つめる。夏の光輝く碧水に浮かんだ神々しい建造物に誘われ、社前の駐車場へ車を寄せた。

天武天皇白鳳二年に勅旨を以て、白鬚神社は比良明神の号を賜ったという。祭神は天の八衢を治めていた猿田彦命で、上は高天原を照らし下は葦原中国を照らした、真智の御姿を古事記に知りえる大神である。行き来をした旅人たちは、天

と地を結んだ導き主をいただく湖岸の社に祈り、神秘の色をたたえた湖の道を通って行った。

みおの海に綱引く民のてまもなく
立ち居につけて都恋しも

(紫式部集一〇〇)

琵琶湖を見下ろす神社の高台に、『源氏物語』の作者紫式部の歌碑が建てられている。平安時代に越前国守として任地に赴いた父藤原為時に付き従って、この地を通ったときに詠まれた歌と伝えられている。

思ひつつ来れど来かねて水尾の崎
真長の浦をまたかへり見つ

(巻九一七三三)

いにしえの旅人たちに去りがたい印象を与えた水尾や勝野は景勝地であったのか、天皇の御座船も高島の湊に寄港している。天子の船が泊って候ふ理由は、風を避けて碇泊していたのかも知れない。航海途中の御座船の大宮人が、次の出帆に向けて右往左往する様が見えてくる。淡海の湖原を自由に航行していた、大津京華やかなりし時代の情景が、高島町の湖辺を舞台に詠まれている。

(巻九一六九二)



江若山地と比良山系にはさまれた高島の地であれば、高島のみならず高島の山風景も、万葉集に詠まれるところとなった。この歌の高島山については、蜂矢宣朗氏は比良山系の岳山であると自説を述べている。明神崎から立ち上がった比良連山縦走路で、最初に登山者が足下にするピークが岳山であり、古歌に詠まれた高島山なのであった。

実はこの日、私はリトル比良を歩くために近江高島へ来た。白鬚神社で休んだ後、岳山の登山口へ車を走らせた。音羽バス停から小道に折れて、大炊神社横の小広場に四駆を駐車し、登山靴に履き替える。

神社の奥に、岳観音堂と称される白蓮山長谷寺の真新しい御堂が立っていた。岳山山腹の観音堂が倒壊し廃寺と化したので、地元民が再建した御堂と思われた。岳山への道は岳観音参りの道である。岳山から流れる小田川の両岸は古墳群の遺跡が残る音羽の里の、古い歴史に裏打ちされた信仰の道であった。

岳観音への丁石に導かれてマツと雑木の道に登る。角倉太郎氏がリトル比良と名付けた縦走路、比良を愛した多くのハ



白鬚神社の紫式部歌碑

白鬚神社のある明神崎あたりが古代の水尾崎、高島町勝野の湾入部の大溝漁港あたりが当時の真長浦と考えられている。心惹れつつ来たがすぐには行き過ぎかねて、水尾の崎や真長の浦を後戻りして見たという歌意になろう。

大御船泊ててさもらふ高島の
三尾の勝野の渚し思ほゆ

(巻七一一七二)

イカーにも歩かれてきた道は一筋に続く。風化した花崗岩が広がり、マツの樹木と石灯籠を配した庭園風の山相を見せる、白坂と呼ばれる展望地に着いた。

去年のいまごろ見張山の下見で来た、水曜ハイクを企画する湯浅さんのグループの人たちと、下山時この場所で休息したことが思い出された。私が新ハイの山行に参加したのは、湯浅さんの「中山連山」(96年12月)が最初である。その時以来の山仲間といえる眞田さんや光川さんと並んで、眼下の高島平野と琵琶湖の風景を心ゆくまで眺めていた。

その昔は原野であった高島の平地も、拓かれて大きな集落になっている。今は琵琶湖もすでに神秘の湖ではなく、湖面には遊覧船が行き交い、湖岸には鉄道を軋ませて電車が走り抜けていく。白坂から今日見えるものは変哲もない景観だったが、万葉人の見た風景とは異なっている。時代の流れを意識せずにはいられない眺めでもあった。

ある時期、メッカのように歩かれた岳観音道は、神楽岩、賽の河原、不動明王の水場などの小道跡を踏んで行く。たどり着いた岳観音は、荒れ果てて往日の栄



白坂から高島町と琵琶湖を望む

光を留めていない。残された観音堂の遺跡物に、信仰の縁を結んできた人々の祈りが聞こえてくるようだった。

左手に見張山の山並を見ながら稜線に出て、石室に石仏をまつる岳山に着く。石室の前には宝永四年作の石灯籠が置かれている。この山上に石室を造り、石灯籠を彫った信仰心の篤さに頭が下がる。旅を行う道を照らす月光を隠したので、

万葉集には憎らしい高島山だと詠まれていた。しかし真の高島山は、岳参りの信者に灯明を点してくれた、心根の優しい山なのであった。

岳山からリトル比良の主峰岩阿沙利山へと稜線を進む。途中、コース随一の展望台といわれるオウム岩に立ち寄る。去年、見張山から岳山を歩いたとき、湯浅さんたちとこの岩上で昼食をとったが、この日のオウム岩は7人組の若者に占拠されていた。

せっかくここまで来たのでと、若者たちの間に入ってオウム岩に上がった。目の前には蛇谷ヶ峰、目を転じれば武奈ヶ岳の雄姿が飛び込んでくる。蛇谷ヶ峰と釣瓶岳にはさまれた山麓に、畑地区の美しい棚田が広がって幾何学模様を見せている。オウム岩からの展望を堪能し、足下を見渡してみる。遺跡碑のそばで去年咲いていたササユリを、今年は見つけられなかった。

オウム岩で出会った若者たちは、関西大学ワンゲル部の7人組であった。ワンゲル部OBの渡世さんたちで、2泊3日の野営泊で比良を歩きに来たと言い、夏本番には槍ヶ岳をメインに、北アルプス

を縦走する計画があるので、6人の現役部員らとトレーニングを積んでいるのだと言う。

若者たちの登山は最初から特権を与えられている。太陽を慕って若者らが夏山を目指すとき、贅沢な時間と強靱な体力で夢を達成することもたやすい。幸福な大地の子ともいうべき、若者たちの姿を羨しく思いつつ、若者たちの夢の実現へエールを送って別れた。

この日の目的地、2等三角点のある岩阿沙利山(686.4m)に登頂後、来た道を鳥越峰に引き返した。大きな露岩が点在する尾根を上り下りし、鳥越峰から稜線に入って見張山へ向かう。自然を色濃くにじませた木々の間を行き、落ち葉におおわれた踏み跡の薄い尾根道はずさぬように進む。

上の鼻打という地点を過ぎて、琵琶湖が見えるパノラマ道のあたりで、つがいの蝶々と道連れになる。湖はすぐに見えなくなるが、斑紋様の蝶々は前になり後になり、私を道案内するように飛んでいる。こうだ谷付近の美しい緑林を抜けて、三角点のある見張山へ着いても、蝶々はまつわりついてくる。

山王谷ダム横から日吉神社へ下山したときには、蝶々はいなくなっていた。たぶん途中の鉄塔の立つ分岐点から長法寺跡への道をたどり、蝶々は琵琶湖へ飛んでいったのだろう。高島の日吉神社は、嘉祥二年長法寺草創のときに、坂本の日吉大社より山王権現を勧請して鎮守神にした社である。駐車した首羽登山口まで車道を行けば、この日のリトル比良の小さな旅も終わりになる。

ところで私は、比良の山名に触れるとき、伊那那岐命が伊那那美命を迎えに行った、古事記に書かれた黄泉の比良坂をついに連想してしまう。大和国の建国が成される前、高く険しい比良山の姿に、現世から離れた異界の地を見たことは、至極当然の心情のようにも思えるのである。

いづくにか我が宿りせむ高島の
藤野の原にこの日暮れば

(巻三二七五)

万葉集に旅の秀歌をちりばめている高市黒人は、比良の山麓で旅の夜を迎え、心細い気持ちを歌に残している。その当時宮廷歌人の目に、比良の高峰は旅人を寄せつけない険しく峻しい相貌を覗かせていたのだろう。万葉集巻三所載の黒人

の「観旅の歌八首」には、比良溪を詠んだ歌も伝えられている。

我が舟は比良の溪に清き泊てむ
沖辺な離りさ夜ふけにけり

(巻三二七四)

比良の溪で淀泊し夜を過ごすことになった舟が、沖へ流されないように案じている歌といえる。比良の湖原は比良八荒の名があるように、比良おろしの風に荒れくるいかねない一面があった。比良の旅は、安閑としていられない命がけの旅でもあった。

凡庸でない黒人の旅の歌は、苦境を乗り越えた果ての透明感ただよう絶唱をひびかせている。黒人の旅心は私たちの旅心に通じており、現代の読者の胸をも打つのである。(平成14年6月28日歩く)

▲コースタイム▼

- 音羽登山口(20分) 白坂展望所(50分)
- 岳山(40分) オウム岩(55分) 岩阿沙利山(復路45分) 鳥越峰分岐(50分) 見張山(40分) 日吉神社(25分) 登山口
- △地図▽昭文社『比良山系』

オリジナルザック
登山用品専門店
山と山道具のアドバイザー

中型ザック紹介

◆ワイルドミウ◆

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

イモック
山遊くらぶ

IMOCK.
KOBÉ

イモック山遊くらぶ

11月10日 紅葉と奇岩の峠在所岳(1212m)

12月15日 六甲山系
六甲から有馬温泉忘年登山

○詳細はお問い合わせください。

〒651-0030 神戸市長区日赤町3丁目1番10号
カナノビル2F

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

営業時間/10:00-20:00 定休日/日曜日

イモック
山遊くらぶ

山小屋2〜3泊。シンプルで、フロントポケット、重量にも耐えるようにシングルプレートフレームを内蔵し、アクティブな山行に最適。立体裁断で身体にフィット。

*カラー ワインレッド×モノクロ
ネイビー×モノクロ

*容量 40L

*重量 1800g

*素材 高密度ナイロン

*価格 ¥16,000

連載

氷上・姫路北側ルート

柴田昭彦

【氷上(丹波)方面ルート】

★氷上方面へのルートを紹介している唯一の文献は、古谷勝「近畿における情報伝達の歴史的發展」その五「旗振り」(近畿電気通信局経営調査室、昭和51年10月。通信総合博物館所蔵)である。今日、入手困難な資料から引用してあるので、参考のために、該当箇所を全文掲載することにしよう。その資料とは、氷上郡山南町の老人クラブ発行の「会報」に掲載された「旗振り熊さん」と題した記事である。平成12年6月に山南町役場に問い合わせたが、「会報」の所在は確認できなかった。担当者からは返信が得られなかった。どなたか、ご存知の方は筆者まで

ご連絡いただければ幸いです(本誌57号参照)。

「私がまだ四才ころのことですから、明治二十五年ごろのことです。私は笛路(現在無線中継所がある)の粉ひき水車場へ毎日のように遊びに行っていました。度々背中に大きな旗を負い、胸に望遠鏡(始めは知りませんでした)を吊った元気なおぢさんをよく見掛けました。おぢさんの通るのは、いつも朝の九時ごろで、名を「熊平さん」と皆が呼んでいました。何をやる人だろう。何処へ行くのだろう。あの望遠鏡というものを一度見せてほしいと、子供心を燃したものです。小学生のころのことです。毎週二回、

所を再現してみたいと思う(それにして、週に二回の米相場というのはいささか少ないようだが)。

●笛路中継所は、山南町の南、黒田庄町との境に位置する「いね谷山」である。慶佐次盛一「兵庫丹波の山(上)」(ナカニシヤ出版、平成3年)に「いね谷山」は見当たらないが、山頂の北5分下に反射板がある山が見つかった。それは、テソロク(天徳山、シコロ、620・0)である。

この山が「いね谷山」ではないかと考えてみたが、疑問も残るので、慶佐次氏に「いね谷山」の調査を依頼しておいたところ、「当会(大阪低山散歩会)に笛路出身の女性があり、調べてもらった結果、「いね谷山」は妙見山622・0だと判

明。妙見山は黒田庄側の呼称。いね谷山は笛路側からの呼称。文中の「粉ひき水車場」も一致(今は水路のみ残る)するから間違いないとの事。ただし、妙見山には反射板なし」(平成12年8月28日付)という返事があり、ほぼ明確になった。明治25、30年頃に、熊平さんが妙見山で旗振りをしていただしたのは、まず間違いない事実であろう。

この記事と添付された地図(会報のものか、古谷氏によるものか不明)から、無線中継所などを手がかりに、旗振り中継



山南町を中心とした地図
「近畿における情報伝達の歴史的發展その五「旗振り」」より

★妙見山(622・0)のガイドは「兵庫丹波の山(上)」に掲載されている。「この妙見山と、播州加美の妙見山、北摂勢の妙見山は直線で結ばれている」(196頁)とあるが、この三つの直列は地形図にあるものだけである。加古川市の島田一志氏のホームページ「山であそぼ」の「裏・ふるさと兵庫の50山」の石金山(508・7)と、とんがり山(620)の記事によると、この奇妙な「妙見山直列現象」にはあと二つの山を追加できるという。それは、氷上郡山南町の妙見山(464)と篠山市今田町のトンガリ山(620)だといふ。前者は「兵庫丹波の山(上)」に載っていないが、小野尻と小新屋の間の山である。後者は「兵庫丹波の山(下)」にあり、妙

妙見山(いね谷山)の頂上



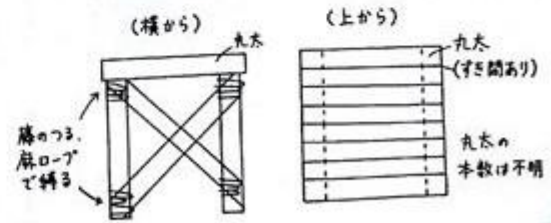
決った日の決った時刻に山の天辺に登って大旗を振り、望遠鏡で眺めるのが熊平さんの仕事だということが分りましたが、まだ何のために山の上から旗を振るのか不思議でした。父の話によると、大阪の堂島では古くから米相場がたつて、この米相場が各地に伝えられ、米の売買がなされているそうです。この米相場を各地へ伝える方法として、山の天辺の旗振り

見室が近くにあることから、島田氏が報告しているように、頂上の祠のそばに「妙見山」という別称が書かれているのもうなずける。「(加美町)中野妙見山—山南町妙見山—(山南町)黒田庄町妙見山—今田町妙見山—能勢妙見山」という直列現象があることになる。兵庫県内では、あと、養父郡と淡路島に妙見山があるが、この現象に参加していないし、全くの偶然であることは言うまでもないが、話題としてはおもしろい。

★丹波柏原中継所は、氷上町・柏原町境にある清水山(542㍎)と考えられ、反射板がある。慶佐次『兵庫丹波の山(上)』には、谷文晁の『日本名山図会』に登場する山として紹介してある。住谷雄幸『江戸人が登った百名山』(小学館文庫、1999年)が参考になる。最近では、斎藤一男『日本の名山を考える』(アテネ書房、2001年)がある(笠置山を、加西市の420・9㍎の深山から眺めた笠形山とする版上義次説に言及していないのはなぜだろうか)。「丹波氷上郡志」(昭和2年)によると、成松(氷上町)では、江戸時代には毎月六回、三と八の日に市場(俗称、成松市)を開き、明治・大正期も商業活

動が活発であった。なお、清水山で実際に旗振りが行なわれたかどうかは、氷上郡教育委員会には資料がなく、裏付けが取れないままである。熊平さんが妙見山から信号を送ったのはどこであろうか。

●氷上郡教育委員会(柏原町)文化財課の下山氏からの返信(平成12年10月)によると、「地元の古老に尋ねたところ古老が子供時代(昭和10年頃)に柏原町と山南町の境にある石戸山(三角点あり)へ(石籠寺北東)に旗振り場があったという話を聞かれており、天気の良い日には高砂市の海(高砂市の方)が見えたそうです。昭和26・27年ごろにそこで旗振りのため使用していた木の櫓が残っていたように、崩れた痕跡はあったようですが残存高は1間半〜2間あったそうです。(腐食していて登ることは不可能だったようです)なお、柏原の清水山、譲葉山の方に旗振り場が存在していたかどうかは不明です」とのことである。櫓は四本の支柱と、横から見るとX型になった組み木(藤のつる、麻ロープで縛る)の上に、丸太を同じ方向に並べて(すき間あり)作っていたという。1間は、約1・82㍎である。



石戸山の旗振り場跡に残っていた木櫓(昭和26・27年頃)
(氷上郡柏原町の古老の話による)(氷上郡教育委員会の調査より)

★石戸山は氷上町・柏原町・山南町の境界にある548・8㍎(1等三角点)の山で、妙見山(いね谷山)は見通せるが、成松へは直接、送信できない立地にある。今のところ、前後の中継地点は不明だが、妙見山と連絡した可能性がある。なお、

石戸山については、本誌40号で多摩氏が紹介しているが、頂上では見晴らしがないという。慶佐次『兵庫丹波の山(上)』にも歴史や伝承が紹介されている。松川良衛『兵庫三角点の山をゆく』(1996

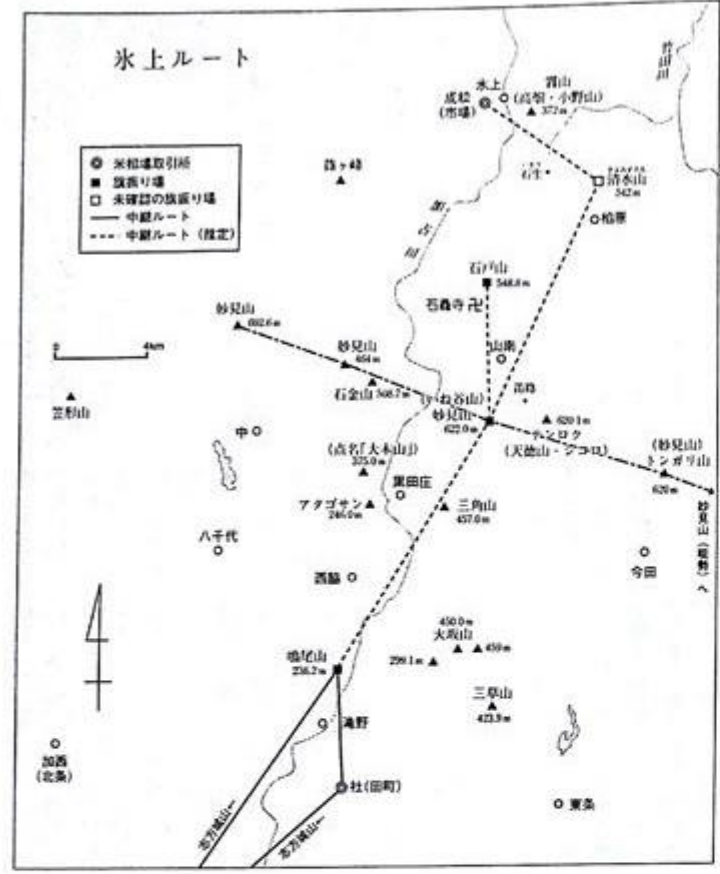
年)は県内の1等三角点をガイドし、石戸山もある。兵庫県山岳連盟編『ふるさと兵庫50山』(神戸新聞総合出版センター、1999年)にも選ばれている。石戸山はガイドも多く、1等三角点であるがゆ

えの、人気の高さがうかがえる。

★丹波柏原中継所がはっきりしないと、成松と妙見山をつなぐことができない。清水山が旗振り山でないとすると、石戸山を丹波柏原中継所と考えざるを得ない。そうすると、石戸山と成松を連絡するための中継地点があったに違いない。通信方向から考えると、成松の東方にある霧山(371・7㍎)やその南東の権現山(349㍎、反射板あり)が候補となる。

『兵庫丹波の山(上)』によると、霧山は高畑、小野山ともいう。つまり、高畑は高畑ではないかという疑いが生じる。筆者の問い合わせに対して、氷上町公民館長の八木氏は所属する郷土史研究会の会員にたずねられたが、旗振りの確認はできなかったという(平成14年1月)。山頂(霧山)の南西側で一部を占める高畑山は石戸山の方を向いているので、高畑=高畑かもしれないとい、高畑城があったと伝わる。当地(氷上町)では霧山・石戸山・妙見山等をのろし山(とりであとも言っている)そうである。

★高畑山(高坪山、461・8㍎)が、山南町と篠山市(丹南地区)の境付近にある。この山は妙見山の東北東方向にあり、



見通しがきくのである。ただ、別名が高坪山であることから、旗振りとの関連がない山名かも知れない。「兵庫丹波の山(下)」の「金山と高畑山」に展望のよい山として紹介されている。

★筆者は、平成13年12月8日に、マイカー利用で石戸山と妙見山の山頂を踏んできた。まず、石籠寺に駐車させて、「ふるさと兵庫50山」のガイドのように、奥の院、頭光嶽(頭尖嶽は誤り。読み方は山南町役場商工観光課による)、金屋鉾山趾、石戸山、岩屋山と巡って、石籠寺に戻った(休憩を入れて3時間コース)。山頂では妙見山の方向だけに切り開きがあつて展望がきく。国道175号沿いに「簡易パーキングさんなん仁王駅」(平成4年12月に開設された近畿で初めての道の駅)があり、マイカー利用者には便利である。その後、笹路に向かったが、林道入口がネットで塞がれていたのであきらめて、黒田の方に変更し、荘厳寺の北側の林道に入った。老人ホーム付近は駐車禁止なので、地道の林道に入るとすぐ分岐があり、右は旧道で、左のコンクリート舗装の新道をたどると、右に奥山池が現れた。池のすぐ先で新道は旧道と出合い、終点である。

角山(黒田庄町・西脇市境、457・0尺)があることは興味深い事実である。三角山は、地元では三角点とも呼ばれているという。多田繁次「北神戸の山やま」(神戸新聞出版センター、1982年)に紹介されていて、本誌34号には久保氏のガイド記事がある。「播磨 山の地名を歩く」には三角点山とあり、中腹の愛宕神社で雨乞いをしたという。島田氏の「裏・ふるさと兵庫の50山」にも選ばれている。旗振り伝承については不明である。★島田氏の「裏・ふるさと兵庫の50山」には、大坂山が選ばれているが、中庄谷直「関西の山 日帰り縦走」(ナカニシヤ出版)の数寄寺山塊における450・0尺峰の地元での名称である。島田氏は、社町山口・上三草付近での聞き取り結果

横の空き地に駐車して出発する。この先、車輪部分のみに二本の簡易舗装があるが、急坂となって段差も生じてくるので、普通車はおすすりできないが、四輪駆動車なら、地蔵のまつである空き地まで入ることができる。ここからは山道である。薄暗い杉林を通り、「たわ」と呼ばれる峠を過ぎると明るい雑木林となる。十字路から急坂を登るとほどなく妙見山の山頂に着く。土盛りの上に3等三角点がある。北側に石戸山が見えている。駐車地点から往復1時間半のコースであった。「大阪周辺の山250」(山と溪谷社、2001年)には「白山・妙見山」のガイドがあり、「ふるさと兵庫50山」の「白山」にも妙見山がガイドされている。

●播州旗振山の所在については不明である。筆者は、黒田庄町役場と、西脇市郷土資料館の脇坂俊夫氏に問い合わせたが、両地には旗振り伝承は残っていないとのことであった。黒田庄町役場の紹介で、三木市の郷土史家、桂義一氏に問い合わせしてみたが、黒田庄町内の山々の眺望に関する情報のみで、旗振り伝承は発見できなかった。ただ、古谷勝「旗振り」に添付された地図には、加古川線黒

を次のように報告している(1999年1月21日の大坂山レポート)。「途中の畑で野良仕事をしているおじさんにこの山のことを聞いてみました。するとこの山は『大坂山』と言ってその昔は南にある三草山との間でのろし信号を送り合っていた山だそうです。(その後、社町の役場にも問い合わせましたが山名は不明でした)」本誌64号で紹介したように、社町の三草山では旗振りが行われたというが、確認できないままである。大坂山と三草山との間で、いつ、どのような通信が行われたのか興味深いのが、今のところ、明らかになっていない。

●【姫路北方面ルート】
●桶居山(桶伏山、姫路市別所町佐土新、2

田庄町の北西の位置に地点が示されている。桂氏によると、この地点にある山は、通称「アタゴサン」(246・0尺)といひ、黒田庄と西脇市との境の山で、視界がよいという。その北方の山(点名「大木山」、3等、375・0尺)も眺望がよいという。播州旗振山が実在する場合、妙見山との中継が可能な「大木山」とも考えられる。ただし、これらの山々に旗振り伝承は確認できていない。

★古谷勝「旗振り」に添付された地図には滝野町方面が含まれていないが、播州旗振山の南方にのびた中継線を延長すると、旗振り伝承がある鳴尾山(西脇市・滝野町境、本誌66号参照)と考えても矛盾しないことがわかる。つまり、成松町・丹波柏原―笹路―播州旗振山―鳴尾山―城山―魚橋山(北山奥山、65号参照)となり、大阪・姫路方面ともつながるのである。ただ、黒田庄と西脇市との境の播州旗振山は実在しない可能性が高く、筆者は、妙見山と鳴尾山とを直接中継したのではと考えている。言い換えると、播州旗振山は鳴尾山を指すのではないかということである。

★妙見山と鳴尾山とを結ぶルート上に三

47・6尺)については、高橋秀吉「大正の姫路」(昭和49年)に「桶居山」が「旗振山」として紹介されている。「姫路の山々」(中島書店、1996年)にも紹介されている。桶伏嶺段とは米取引における当日の最終嶺段をいい、立合終了後の二回目の撒水の時、場の中央に桶を伏せたことに由来する。最近では表記に合わせて「オケイヤマ」と読む人が多いが、「オケスエヤマ」が本来の読み方で、地元では訛って「オケスケヤマ」と呼ぶ場合も多く、桶助山とも書かれるという(高橋秀吉「大正の姫路」、落合重信「ひょうご地名考」昭和58年、落合「ひょうご地名考」1988年)。なお、岳人編集部「すぐ役立つ四季の山 西日本70コース」(東京新聞出版局、1994年)に桶居山の

大阪50山

大阪府山岳連盟 編 四六判 一九〇〇円

撰津・河内・和泉の三つの地域から大阪の岳人達が選んだ50山と番外2山を写真と地図と共に紹介。山名の由来や豊かな歴史にふれながら登山コースをていねいに案内する。

葛城の峰と修験の道

中野榮治 著 A5判 三五〇〇円

友ヶ島の序品窟から大和川の亀瀬までの葛城二十八品の峰と経塚を修験道史料を实地検証しながら古道を辿り、古代から続く葛城修験の道を克明に調査した山岳信仰の研究書。

★表示の価格は消費税を含みません
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316



畑山の旗振り場の跡(三角点の少し南の台石)

ガイドがあり、深志野バス停の北1500
が登山口である。

●畑山(姫路市豊高町豊高、311・7号)
の語源は不明だが、旗振山から旗山とな
り、同音の畑山となったようだ(姫路の
山々)。筆者は平成13年10月7日、点の
記(点名「太尾」)を手掛かりにして、畑
山に登ってみた。姫路駅から北条行き神
姫バス(9時半以降、30分毎に便あり)に

集室からの返信によれば、市内では旗振
り通信は行われていないとのことであっ
た。筆者は福岡方面に送信したのではな
いかと考え、福岡町教育委員会に問い合
わせてみたが資料はなく不明とのことだ
であった。ここが終点で麓に知らせるのが
目的であったのかも知れないが、確証は
得られない。現地の旗振り場の立地から
は南西方向への通信の可能性が考えられ
る。

★落合重信「兵庫の歴史―明治維新から
戦後時代まで―」(兵庫区役所、平成7年)
には、垣貫興祐著「豪商 神兵 湊の魁」
(明治15年)(神戸市立中央図書館には、神戸
史学会による昭和50年の複製版が所蔵されて
いる)という商工案内書にある米商会所
での旗振りの絵が転載され、旗振り通信
についての記述もある。兵庫新川の米商
会所からは「西方へはまず高取山で受け、
鉢伏山の後の旗振山を経て、播磨の園を
経て岡山に達した。この途中分かれて但
馬に達するものもあった」とある。この
但馬ルートの詳細にふれたものは見つかっ
ていないが、桶居山、畑山から北上する
ルートで豊岡方面に送信したとみるのが
妥当であろう。落合氏は新しい資料・証

乗り、太尾バス停で降りて東へ向かう。
すぐ三方向に道が分かれるが、中央か左
をとり、姫路市太尾青少年キャンプ場へ
進む。中池・奥池を左に見たあと、道の
左にトイレがあり、そのすぐ先の右側に
山道がある。ここからでも畑山に登れる
が、そのまま舗装道を進み、左にカウ
ンセラーームの建物と広場を見ながら、
右側に直進する地道に入る。左の入口に
板橋の渡してある広場をやり過して右
側の道をまっすぐ進む(右手にも道がある
が行き止まり)と、赤テープの目印のある
登り口が見つかる。はっきりした道が
南を指して谷沿いに続く。旗振りさんは、
この道を利用して谷沿いに進む。若む
した石が続く急坂となり、やがて尾根に
出た右をとると、建設省(現在は国土交通
省)の災害時用の電波反射板の横に出る。
ここからは、姫路セントラルパークの大
観覧車を見下ろし、その奥の桶居山付近
の山々を展望することができる。すぐ先
に十数個の巨石を台状に集積した遺構が
あり、これが旗振り場の跡であるという
(姫路の山々)。太尾地区(城山の西麓)に
は旗振りの伝承が残っているとのことだ
ある(木谷幸夫「姫路付近の旗振り山につい

言を得て、このような記述を残されたの
であろうが、具体的な旗振り場が示され
ていないのは残念なことである。播但線
に沿う地域の調査が必要であろう。なお、
落合氏は、「豪商 神兵 湊の魁」の旗
振りの絵を、渡辺久雄「忘れられた日本
史」に提供されている。

★JR播但線生野駅の南東方向、生野町・
神崎町境には高畑山(983・8号)があ
る。筆者がインターネット検索によって
調べたところ、宮の谷ダムからブッシュ
の山道をたどること1時間半で電波反射
板に達する。その鉄骨には高畑山とあり、
麓の白口では大工山と聞いたという。筆
者は、高畑山は高旗山の可能性があるの
ではと思うが、旗振り伝承については不
明である。標高が高くて麓から遠いこと
は、旗振りには不利な条件である。聞き
取り調査が必要であろう。高畑山が高旗
山とは限らず、焼き畑山、中腹に畑を開
いた場合もあり、旗振りが戦乱に関わる
ものであるケースがあるかもしれない。
★六栗郡一宮町の南部、伊和神社の西方
には、掛保川をはさんで高畑山(562・
0号)がある。須磨岡「はりまハイキ
ング」(神戸新聞総合出版センター、200

て、「歴史と神戸」一六三、平成2年12月)。
旗振り場跡より少し北に2等三角点があ
る。三角点から遺構にかけては周囲に樹
木が茂っていて展望はほとんどない状況
である。木々の間から、西側がほんの少
し見える程度である。北へくだと少し
展望が楽しめる。途中で尾根を離れ、右
手にくだる。山腹道からジグザグの下り
となって、やがて道沿いのトイレの近く
に飛び出す。なお、木谷氏は、日本化学
工場の東の樹木を伐採した境界線に沿う
道を紹介しているが、山頂付近の状況を
見る限りでは、現在ではブッシュが多く、
利用できないようである。

★伝達ルートは、金ヶ崎山―大平山―桶
居山―畑山と推測(大平山からは姫路にも
送信)されているが、畑山からどこに送
信したのかは不明である(前掲の木谷論
文)。つまり、明治初期には金ヶ崎山―
魚橋山(北山奥山)―姫路と伝達されて
いたが、明治27年頃に大平山の信号所の
開設と合わせて、桶居山―畑山のルート
ができ、姫路北部への伝達のために用い
られたものと考えられる。なお、畑山か
ら米相場を受信したかどうかを加西市へ
問い合わせてみたところ、総務部市史編

0年)と「播磨 山の地名を歩く」(同前
2001年)の「伊和三山と宮山」に掲
載されている。後者に「大祭のときには
魔よけの意味の幡を立ててお祭りをす
る」[高畑山は幡を掲げる山]とあり、米相
場の旗振りとは無縁のようだ。一宮町立
歴史資料館の田路氏も同様の見解を示さ
れている(平成14年1月の返信)。
★兵庫県内には、西(姫路・岡山方面)へ
伸びるメインルートから北へ枝分かれす
るルートが、旗振り通信の最盛期であっ
た明治中期ころにはいくつも設けられた
ようである。武庫川沿いの三田(さらに
日本海方面)ルート(本誌63号参照)、加古
川沿いの社・氷上ルート、市川沿いの畑
山(さらに但馬方面)ルートの存在を指摘
してきた。鹿野から北へ掛保川沿いのル
トがないかどうか興味深いところである
(今のところは確認できない)。他にも淡路・
徳島ルート、津山ルート、四国ルートの
存在が文献からうかがえるので、山陽ル
トには多くの分岐ルートが設置されたこ
とがわかる。

(つづく)
(平成13年4月18日成稿・11月23日補訂)
(平成14年5月8日追補)

近江美濃国境の山

新穂山へ

磯部 純

湖北

滋賀県北部の降水確率は午前10%、午後50%。それも、15時には確実に雨が降るとの予報だったので、その時間までに下山するつもりで出かけることにした。

この日に目指す山は「近江百山」に載っている新穂山。奥伊吹の甲津原の北、岐阜県と滋賀県の県境上にある、姉川の清流・中津又谷の源頭にあたる山である。

この山は点名を「大ヶ屋」と言い、一般にはこの山を、オオガヤ・大見山・深ノ谷ノ尾・水呑ノ岳などと呼んでいる。山本武人氏によれば、「1979年刊の『滋賀県の自然』で山を紹介するにあたり、この△1067・0m峰の名前を地元で聞き取ったところ、甲津原では、新

穂山、または奥山と呼んでいるとあったことから、それ以来、滋賀の山仲間の間では新穂山と呼ぶようになった」と言っている。「近江百山」ではこれに倣い、オオガヤと呼ばれている山を新穂山と載せたことである。ここではそれを踏襲して新穂山と呼ぶ。

もっとも、新穂峰北の4等三角点峰ヶツネボラが点名「新穂」、新穂峰の南にある△1040・3m峰の点名「瀬戸山」は、瀬戸山・新穂山・長尾・アrikamiノ岳などと呼ばれていると言うから、この三つの山のどれを新穂山と呼んでもおかしくないのかもしれない。

京都四条大宮を朝7時に出発。奥伊吹

きにケツネボラまでは登ったことがあると言うので、非常に心強く思った。中津又谷林道に入るとすぐ舗装は切れ、ガタガタ道へと変わる。もし、歩くとなれば、古道分岐まで1時間はかかるだろう。その時間をもっといたいので、慎重に車を走らせる。さすが、歩くよりはるかに早い。

しばらく走ると、「近畿圏造林奉仕事業記念碑」と彫られた石碑が立っている林道分岐。その広場に駐車する。あたりの状況から、そこが地形図の林道へアピンの地点だとわかったが、その先さらに林道がのびていて確定できない。頼みの保田君に尋ねると、ここへ来たときは雪



の斜面を適当に登ったとの返事。これを聞いてガクッときたが、これでは地形図で判断するしかない。地形図の破線は谷に沿ってついているので、谷へはどこから入るのかと見渡すと、近くの木にテープが巻かれ、右手へのびている林道の方角に「新穂山」の矢印があるではないか。どうやらこの林道をたどれば川を越えなくてもよいとわかってひと安心。それにして間違って古い地形図を持ってきてしまったので、右手の林道は地形図には載っていない。矢印がなければ、最初からウロウロするところだった。

林道は曲がりくねりながら北へと向かう。ちょうど、地形図の切れ目で、どの

あたりを歩いているのかわからない。「この林道はどこを走っているのだろうか」と地形を見ながら歩いて行くと、やがて林道終点。すぐ側に谷があり、細い道がその谷に入っている。ここに来てやっと新穂峰への破線に突き当たったことがわかったのである。

谷沿いの道を200mも登ると谷分岐。その中央の尾根を登る。しっかりとした道が尾根に刻まれている。あたりは雑木の林。葉は黄色や茶色に変わり、秋の深まりを感じさせてくれる。尾根に取り付いて少し登ると、地蔵尊がまつられた社があった。この地蔵尊は岐阜から甲津原へ嫁いだ西川梅野さんが建立したもので、安全祈願のために昔から峰に安置されている地蔵尊ではないとのことだ。

谷に沿って山腹の道を登って行く。途中、崩れかけた箇所があったが、しっかりした道が残っている。谷を右に見て、左へ廻り込み、右の斜面に取り付くと炭焼き窯の跡がある。あたりは情緒ある雑木の林。そこを登って行くとやがて峰だった。峰には「新穂峰」と書かれた大きな標識が二つ立てられていた。

この峰は滋賀県甲津原から、岐阜県諸





西川梅野さんの建てた地藏尊



ケツネボラの北斜面ブナ林

家へ越える峠である。少し前までは頻りに使われた道だというのが、今では山やくらいか歩く人はいないのだろう。峠に立って東方を見ると、遠く諸家も見下ろすことができ、展望は一気に開ける。が、

近江側の趣ある峠の光景と違って、美濃側では峠の5分程下まで林道が来ていて、鄙びた峠の情緒は全く失われてしまっている。まさに開発の波がここまで押し寄せていたのである。

峠でひと息入れ、北へ尾根を登る。尾根には踏み跡が付いていて、道におおいかぶさるやぶもあまり苦にならない。最近、だれかが登っているのか、真新しい赤のビニールテープが点々と続いていた。しかし、テープは肝心の粉らわしい所にはなく、一本道のわかりきった所にだけ付けられているのでは、何のための印なのかわからない。

20分も登るとケツネボラ山頂。開かれた山頂には4等三角点が埋められていた。標石は磁北の南をしっかりと向いている。点名は「新穂」。山名のケツネボラは、新穂谷の奥のケツネ谷がこの三角点峰まで来ていることによるのだろう。

目的の山はまだまだ先。三角点の写真を撮り終るとすぐ出発。ゆるい下りだが、尾根なりにくく歩いていくと、東にのびる尾根に迷い込みそうになる。ここで方向を確認し、北の尾根にのる。あたりはブナの林に変わり、色づき始めた葉が

実に美しい。踏み跡は消えることなく続いていて、小さなピークを越え、標高点1010mをくだり始めると、それも消えてしまった。木々の間から目的の山を、うねる尾根の向こうにやっと思えることができた。峠から歩いてきたくらい距離をまだ歩かなければならない。新穂山は遠くに高くそびえていた。

方向を定め、踏み跡もない急斜面の小さな尾根をくだり尾根にのると、再び踏み跡が現れた。しかしそれも登りにかかるとササが濃くなり、右往左往の前進。もちろん、踏み跡などどこかに消えてしまっていた。あたりはブナの多い林だが、ナラやシロモジの木もあちらこちらに見られる。背の高いササや木に行く手を遮られ、やぶ漕ぎに集中する。地形図を見る余裕もなく泳ぐようにピークまで登り、木の間から思わぬ方向に目的の山が見えて驚かされる。ここで方向を左へ振る。考えていた以上に東へ向いていたのだ。

このピークからかすかな踏み跡が所どころ現れたが、やぶは相変わらず濃い。それでも、万一のときを思い持ってきた鉈を使うまでもなく、細い尾根を進んだ。

尾根を登り切り山頂かと思うと、さらにその奥にピークが……。最後にやぶをかき分けて登り切ると、新穂山(オオガヤ)山頂だった。

山頂は東西に細長い平坦地。南側は雑木の林で、北斜面はまだ若い檜の植林斜面。すぐ目の前には、標高点1039mのピークが横たわり、その山腹は朱や黄色に彩られていて、まさに秋たけなわだ。ただ、雲がたれ下がってきて霧がかかり、紅葉の色が映えないのが残念でならなかった。

三角点は山頂の東のはずれにあった。標石は苦むして三角点の三の字しか見えていない。向きは南南西で南から20度西へ振っている。標石は少し大きめに感じしたが、腹ごしらえのほうで先で、そのうち、大きさを測るのを忘れてしまった。今でもそれだけが気になっている。

山頂でゆっくりするつもりが、思った以上に寒く、そのうえ雲ゆきも怪しくなってきた。慌しく軽食をとり、引き返すことに決定。といっても、飲む物だけはいしかりと飲んだ。下りは別のルートをとったが、この天気では無理。登ってきたルートを戻ることにする。こんな見通しのき

かないやぶ山では、勘で歩くと変な方向へくぐってしまう。地形図と磁石を片手に慎重にやぶ斜面をくだる。次のササやぶのピークでもうまく右の尾根にのり、無事通過。重くなった足を持ち上げ、標高点1010mの急斜面を登り切って、ホッとひと息。

ここに至って、怪しかった空模様が崩れだし、雨がポツポツ降りだした。15時過ぎに降りだすと予報されていたのに、山の天気は気紛れ、少し早くなったようだ。

まだ小降りなのを幸いに、急いでケツネボラへ登り返し、新穂峠まで一気にくだる。寒かったので、ビールは帰りの4等三角点で飲むかなと言っていたが、新穂山で乾杯したのが正解。あのととき飲んでいかなかったら、飲む時間がなく悔いを残したに違いない。かき分けてくだる木や草が雨で濡れていて、腰から下はビショビショ。すでに雨具の下を着けるには遅すぎ、上だけ着込んで、峠から谷を走るようにくだり、車まで戻ったのだ。

帰路、伊吹町伊吹で新蕎麦に舌鼓を打ち、名神高速道路へ乗ったときには、本

格的な雨になっていた。

家に帰ると、「こんな雨のなか、どこをウロツイテ来たの」と妻からひと言。京都では朝から一日中雨が降り続いていくという。(平成12年10月28日歩く)

▲コースタイム▼

中津又谷奥林道分岐(25分) 地藏尊(15分) 新穂峠(20分) ケツネボラ(1時間30分) 新穂山(1時間15分) ケツネボラ(15分) 新穂峠(30分) 中津又谷奥林道分岐

△地形図▽2万5千Ⅱ横山・近江川合

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



・小型 (20人・24人)
・中型 (28人乗り)
・中2階 (45人乗り)
・大型 (55人・60人)
いずれもサロンカー
からデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

1等三角点峰(5000以上) 548座完登の記録(第34回)

徳之島・沖繩の山旅

坂井久光

平成7年9月9日、合地峰(点名三册山、1293)を目指した。この山には昭和62年5月5日に日本山岳会・南陽市山岳会長の齊藤喜一氏とその友人一行と、南方の三休山(3等・1256)から縦走して登ったことがある。帰路に日が暮れてヘッドランプを点けて下山した思い出多い山である。

6時出発。昨年、山形氏も「点の記」の登路を偵察してきたが、夏草が生い茂ってルートがわからなくなっていると言う。私も必死に探したがわからず、支尾根の突端に登ってルートを開いた。彼を導いて杉の植林地を通り抜け、支稜のコルを直指して登高を続けた。やがてコルで山

道と出合い、精が出たが、先はまだ遠い。その道で、会員の秋村さんが昨年登ったときのテープを見つけたものの、徐々にやぶがひどくなった。谷の源頭をつめ、トラバースして次の谷へと、自然の地形を利用した道だが、尾根筋はひどいやぶで切り開きもすでに自然にかえっていた。いくつもピークを越え、やっと11時30分に山頂へ着いた。展望広大で大朝日岳始め、祝瓶山(2等)や南の三休山は望めたが、飯豊山はガスがかかっていた。30分山頂で過ごし、往路下山、15時40分着同地で車泊。

10日、6時出発。国道7号線に出て南下。新潟から高速度道に入り、米山で休ん

じた。千枚田を見て、曾々木海岸、木ノ浦・霞ヶ浦温泉、飯田と廻り、寝豚(猪温泉)に入浴。昔、弘法大師が傷ついた猪が入浴しているのを発見し、開湯した由緒ある湯だと宣伝してあった。朝市の駐車場で車泊。

12日、8時50分発のフェリーに乗り、軸倉島へ。途中大島・御厨島(共に1等三角点がある)を見て、10時40分上陸。灯台に行き、その前で3等三角点標石を発見。すでに「1等三角点研究会」10周年記念集会(深谷温泉石屋旅館)で、会員の橋本広氏によりスライドで紹介済みであったが、この標石を見て山形氏は驚いた。なぜ1等三角点が今3等三角点標石になっているのか、国土地理院に問い質すと答えて興奮していた。その後、島内の神社や稲神池、碑を見てから、14時30分発の船で帰った。朝市の駐車場でもた車泊。

13日、6時出発。金沢東インターから北陸道に入り、名神の草津バス停で下車し帰宅。長かった東北・北陸の山旅を無事終了した。

となり、何とか来年の平成8年中に完登したいと思った。当時、私は71歳で、体力の衰えは自覚できるほどで、あと何年登山ができるか? 病氣や事故の恐怖もあり、最後のチャンスだと思った。

翌朝28日、志布志港に上陸してバスに乗り換えて鹿兒島へ。新港発18時のマリック汽船の那覇行きに乗船。

29日、徳之島徳港に上陸。バスで花徳に行き山集落へ向かったが、便悪く地元青年の車をヒッチして行った。謝礼千円を無理に渡して別れた。漁港の後方に天城岳がそびえている。この島は二度目で、前回は井之川岳(1等・645)に登った。山麓のナゴロ神社(遺跡)を通り、林道をたどる。天候は快晴で、林道が天城岳の肩を越え、南へ井之川岳に続く山脈に沿ってのびているのが望見できた。道端には野生朝顔(青紫)やハイ

でから金沢東インターで降り、深谷温泉の石屋旅館へ。実母の姉がこの旅館のおかみで、入浴後は心のこもった昼食を2人でいただいた。小憩後、辞して能登自動車道に入り輪島へ。輪島の軸倉島航路の駐車場で車泊。その晩は花火大会があった。

11日は、波浪注意報が出て欠航のため、やむなく能登半島一周のドライブに出か



天城岳山頂

ビスカスがたくさん咲いていた。バツクや蝶も飛び、春か初夏の感じであった。やがて登山口に着いたが、朱書きの看板が立ち、プリキに「山は宝」とか、天城岳賛美の標語が道の両側にたくさん並んでいてうんざりする。山頂直下に里島元蔵老の生前墓が立っていた。常緑樹林の急坂にはユリ科のホウチャクソウ(宝輝草)がいっぱい咲いていた。山頂に木の暮らしいものが立ち、中央に国土地理院の右書きの新しい三角点標石があった。展望は良好で、北に井之川岳が見え、東に山麓の田畑や南シナ海が絵のように美しい光景を呈している。

天城岳の由来看板



90歳の彼は



与那覇岳1等三角点標石

老人で、こよなく天城岳を愛し、自費で登路を開設した。たぐさんの標語をつつて山の貴さを町民に訴え続けた人で、徳洲会病院長の徳田参議院と若い頃からの盟友とか。徳田氏は独学で苦学して医学博士となり、将米は首相になって日本を平和な福祉国家にする大望を抱かれていたことを彼から聞いた。老は耳が遠いので奥さんを交じえての対談や筆談である。

辞してから、近くの山海荘(民宿)で泊まる。

30日、バスで亀徳港に戻り、那覇行きの汽船に乗り、夕刻沖繩の本部港に上陸。近くの民宿で一泊。

31日、バスを乗り継ぎ、辺土名トナ行きに乗り奥間で下車。与那覇岳への舗装道路を登って行った。比地大滝の分岐を通り大園林道に入った。登り下りして歩いていると1財余のハブの標屍体を見た。やがて登山口に着くと「二・八K・六五分」の標柱があり、右側の地道林道に入る。次の林道分岐にも標柱があり、右に入ると間もなく林道終点となる。右手の山道にも大きな標識があった。ゆるい登り下りを繰り返して常緑樹林の細道を登った。午後は雨になり、傘をさして登頂した。

498坪の三角点標石が中央にあり、周囲は林で展望はよくなかった。なお、地形図2万5千分の1にはこの奥に503坪の独峰があり、山道をたどると一峰を越え、次のピークが最高点であったが、何の標示もない。あとで聞いた話だが、ここは自然保護区で標識等はいっさい取りはずされたとか。これで535番目の1等三角点のある、または以前にあった

山に登った。ハブにもヤンバルクイナ(天然記念物の飛べない鳥)にも会わず、往路下山して大宜味村の民宿で泊まった。

4月1日、辺土名に行き、国頭村役場で地図やパンフレットをもらい、バスで名護へ行き、乗り換えて那覇に出た。また乗り換えて首里城公園に行き、復元された首里城や守礼の門を見学した。その夜は那覇の民宿に泊まった。

2日、8時の鹿児島行きの汽船に乗船。新港上陸後、バスで志布志港に行き、サンフラワー1号に乗り、大阪南港に着いた。これで残りは12座となり、北海道の登路のはっきりしない山か、登路のない山ばかりとなった。

500座を登ってからは、残り48座の山名や標高、5万図名等の一覧表を壁に張り、また全国の1等三角点表示の地図も壁に張って登頂後に赤筆で丸を入れた。一覧表もマジックペンで横線を消し消していき、徐々に少なくなるのを喜んだ。私は、何が何でも残りの12山を完登しないと死んでも死にきれないと、臥薪嘗胆の気持ちだった。(次号へつづく)
(文中の太字は今回登った1等三角点の山を示す。)

旧五ヶ谷村中畑から

城山(椿尾上城跡)と菩提山山麓

コースタイム JR奈良駅(バス)→近鉄奈良駅(バス30分)→中畑(20分)→城山登山口(40分)→城山(15分)→遊学社(45分)→矢野原春日宮神社(30分)→由原原野(45分)→正賢寺(45分)→柳茶屋経田下山(バス20分)→奈良駅(徒歩15、5時間)

中村敏文

人々に頭が下がる。

① 旧五ヶ谷村(奈良市中畑など)
JR奈良駅から一日三便の米谷行き初発バスで30分。奈良市東南端の山間傾斜地集落、旧五ヶ谷村の中畑で下車する。

近世から昭和初期まで大和高原への直越え道であった七曲り峠への道を伝い、名取道を下をくぐり、集落はずれから左へ入って傾斜地の集落を抜ける。城山登山口への狭い里道はわかりにくいので最高所の農家で訊くとよい。里道の峠を越えると城山南斜面を廻り、県道福住矢田原線へ結ぶ建設中の新道へ出る。新しい舗装路を少し伝うと左手に城山への登山道が分岐している。眼下の立派な家々を眺めるにつけ、農林業で傾斜地を守った

② 城山(奈良市北椿尾町の東部山地)
城山南斜面を上がる中畑登山道は、山林作業のため拡張して簡易舗装され、20分足らずで北椿尾集落から県道福住矢田原を結ぶ東西道の林道に入る。

林道を西へ数分歩き、北へ分岐して城山西斜面を見て右手の歩幅ほどの山道に入って山頂へ向かう。垂れ下がる草木をかき分けて踏み跡をたどり、一気に上がり切ると、雑木の生い茂った本丸跡と推測される平坦地の城山山頂で、528・7坪の三角点と粗末な丸太造りの鳥居が

城山(椿尾上城跡)二の丸跡付近を歩く

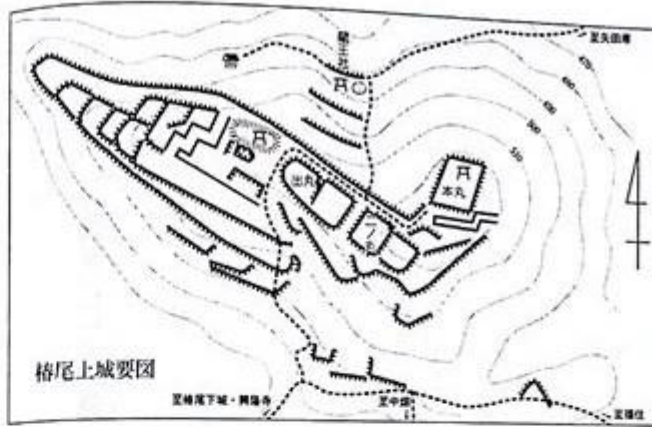


ある。

鳥居の奥に並び立つ小さな五つの石碑には「光吉・光姫・大宮姫大神・高城・高宮」と深く彫り込んである。織田信長の大和の諸城破却令で廃城となり、城跡に土地の人が姫神を祭祀したと思われる。「椿尾山城跡、精華小学校健足クラブ」と読める標柱が残され、木の間に南東方向を見ると、680坪峰(国見岳)が近く、南方には600坪前後の高峰山・大園見が間近に見える。この付近の山々は

登山口の標高が2000〜3000メートルと高いので容易に登れるが、因見岳以外の展望は樹木に遮られてよくない。

③ 椿尾上城跡(城山頂と西側尾根)



山頂の本丸跡らしい平地と、石垣・土塁の一部と二の丸跡という平地は確認できるが、出丸や土塁跡は草木が繁茂して奈良県調査結果の要図に頼るしかない。中世の大和国守護は興福寺が任命されていたが南北朝の争いで乱れ、各地に山城や砦が築かれ小豪族が対立していた。筒井氏は興福寺一条院方衆徒で南北朝時代は北朝方に与して大乗院方とも対立し、応仁の乱では東軍に与して活動した。戦国末期、筒井順慶は筒井城を拠点に大和北部制圧を画策し、片岡・越智・十市氏らと対立していたが、信貴山城・多聞城に進攻し、織田信長に与した松永久秀に攻撃される。筒井城を占拠され窮地に陥った順慶が井戸・椿尾氏らを頼り、大和高原に拠点をもち一族重臣の福住・山田氏を背後に控えた、大和盆地を展望できる城山に椿尾上城を築城したという。東と北側は深い急峻な谷が取り捲き、南は急斜面の中畑へ続く。西側の西端には椿尾氏が守る椿尾下城があって、攻撃されやすい尾根筋には出丸と土塁を構築し、水場を確保した好条件の詰城である。織田信長と石山本願寺との戦いが始ま

り、松水久秀が信長から離反すると、明智光秀の仲介で順慶も織田方に与して筒井城を奪回し、大和北部の諸豪族を追従させた。久秀攻撃の策略も整い、片岡城を攻略すると、織田信忠を大将に久秀軍への総攻撃が始まり、最後の信貴山城攻めでは順慶軍が勝利に導く手柄をたて、久秀は自害する。信長より大和支配を任せられた順慶は郡山城を修復築城して移り、筒井城は破却する。本能寺の変で信長亡き後は羽柴秀吉方について活躍するが、36歳の若さで天正十二年(1584年)に病没する。現在、大和郡山市長安寺町の筒井順慶歴史公園には覆堂が残され、「順慶陽舜坊法印」と刻んだ重文の五輪塔がある。筒井家の菩提寺は奈良市の伝香寺で国宝指定の本堂が順慶の遺徳を表している。

④ 竜王社から春日宮神社(矢田原)

城山からの下山は中畑バス停へ30分余り、一方尾根伝いに林道を北椿尾町へくだり椿尾町バス停へ1時間だがいずれもバス便が少ない。山頂尾根から北側中腹を10分もくだる

と竜王社の小社がある。竜王社から東へ向かい、谷を越えて上がると県道福住矢田原線へ出る。竜王社から2.5キロ程で矢田原の氏神春日宮神社へ着く。春日氏と春日宮天皇(施基親王)を祭祀している。神社から矢田原口バス停へは20分で行けるが、県道奈良名張線のバスがないので、里路を北へ30分余り歩いて春日宮天皇陵である田原西陵へ向かう。

⑤ 田原西陵(奈良市田原春日野町)

県道から真北へ一直線にのびる参道を行くと、鳥居奥に外周1000メートル、直径40メートル、封土高さ10メートルの円墳御陵がある。天智天皇の第七皇子で田原東陵の光仁天皇の父君にあたる施基親王の御陵で、親王は天武天皇以来永らく天武系の天皇に隠忍自重して仕えた不遇な方である。光仁天皇が即位すると父君に春日宮天皇、母君の紀操姫に皇太后の追称を贈り供養する。皇太后紀氏吉隠陵は桜井市吉隠の486メートル高い山中にある。御陵の近くは県立茶業試験場があるだけの閑静な地域で、丘陵を掘削して建設した「奈良県ヘリポート」も開港休業のようである。関西空港へ30分といわれた

が、奈良市街から遠いのが批判的である。田原地域は大和茶の産地で茶畑の中に太安万侶の墓があるように、よく手入れされた大小の茶畑がいたる所にある。田原春日野の集落へ入り、菩提山を右に仰いで菩提山川沿いに正暦寺へ向かう。

⑥ 正暦寺(奈良市菩提山町)

田原西陵からほとんど下り道40分ほどで菩提山中腹の本堂下へ着く。石段下には鎌倉時代の古びた十三重石塔が並び立ち、その間に往古の大伽藍跡に散乱していた一三〇体を越える石仏がある。本堂への三三段の石段は親世菩薩の御誓願にちなみ、四八段の石段は阿弥陀如来にちなんだ数である。広い境内を緑で包む楓・松・檜などの樹木も千本を超え、全部信者の寄付という。大正五年再建の本堂に安置した金銅薬師如来像と善光朱印經三〇巻は国の重文で、江戸末期再建の塔頭、福寿院も重文指定である。鐘楼は江戸末期の再建で、その他の建物は近代に増築したものである。

正暦寺は正暦三年(992年)に関白九条兼家の子、兼俊僧正が一条天皇の勅命で造営した古寺で、菩提山竜華樹院と号する菩提山真言宗大本山である。奈良の東山一帯は鹿野苑・誓多林・大慈仙・忍辱山・菩提山と、インドの仏跡地にちなむ地名をつけた仏教の霊地である。当寺の創建時代の様相は不祥であるが寺伝や古文書によると、八六坊もあった大寺も治承四年(1180年)の平家の南都焼き打ちで全焼したという。その後僧舎八二坊・寺祿一〇〇石まで復興していたが、江戸初期に殿堂僧舎を焼失し、寺祿三〇〇石・僧舎四〇院に縮少。以後徐々に衰退した。

現在の正暦寺は往古の偉容はないが、山城のような石垣、菩提山川を挟んで残る僧坊跡らしい平地と、仏の霊地にふさわしい雰囲気がある。紅葉する樹木が多いので秋の正暦寺は優れた観光地となり、予約すれば法話を聴いてお斎(食事)もとれる近代設備ができています。正暦寺から清流の菩提山川に沿って30分くだると柳茶屋バス停に着くが、バス回数の多い下山まで県道を30分歩いてJR奈良駅行きのバスに乗る。

姫路城に宮本武蔵を訪ねて

松永恵一

宮本武蔵の伝説

「真っ暗だ——開かずの間といはれる天守閣の高いところの一室。ここには暦といふものがない。春も秋もない。またあらゆる生活の物音も聞こえてこない。ただ一穂の灯し火とそれに照らされる武蔵の青白く、頬の削げた影があるだけだった。」

(吉川英治著「宮本武蔵」光明蔵の章)

心の優しさこそ強さに結びつくことを気づかせようとする沢庵和尚に捕らえられた武蔵は、姫路城天守閣の開かずの間に3年間幽閉された。精神修行を積み、その後、城主・池田輝政から宮本武蔵の名を授かり、武者修行へと旅立っていく。秀吉の義兄木下家定が城主であった時

代のこと。武蔵は名前を隠し足輕奉公をしていた。その頃、城内では天守に妖怪が出るという噂があった。ある夜、武蔵は籠灯を持って天守に登っていった。三階の階段にさしかかった時、ものすごい炎が吹きおろし、ガラガラと地震のような音がした。「妖怪め」腰の志津三郎兼氏に手をかけると、あたりはもとのしじまに返った。四階の階段を上りかけるとふたたび炎を吹きおろし、天守がグラグラとゆれた。「小癩な妖怪」と少しも動じることなく天守閣の最上階へ上がった。物音一つせず不気味なほど静か。武蔵はどっかと床に腰をおろし、夜の明けるのを待っているうち、ついうとうとと眠りに落ちた。「武蔵よ」呼ぶ声に、ハッと

菱の門から見た姫路城天守閣



目を覚ますと、目の前には十二単衣の美しい姫が立っていた。「われは姫路城の守り神、刑部明神である。近ごろ妖怪が住みつき、人々をおびやかすので退治したいと思っていたが、今夜武蔵が退治に来たので、妖怪は恐れをなして逃げ去った。褒美にこの宝剣を授ける」との託宣であった。郷義弘の薬物が残されていた。後、本多忠政、忠刻親子に姫路藩剣道指南筆頭として七百石で迎えられた。

播州血風敷

上山里にお菊井戸と呼ばれる古い井戸がある。時は戦国時代、小寺加賀守則職が在城していた。執権の青山鉄山は、主家の乗っ取りを企てた。情勢を察した忠臣衣笠元信は、愛人のお菊に内情を探らせた。お菊は鉄山の息子小五郎に取り入り、増位山花見の宴で城主則職を毒殺するという計画を聞き出した。元信は、鉄山の陰謀を阻止することができた。

一方、お菊の動きは鉄山の家臣町ノ坪弾四郎の察するところとなった。弾四郎は以前からお菊に好意をもっていたので、「自分のものになれ」と言い寄った。しかし、お菊は聞き入れず、弾四郎に折檻される。あくまで言うことを聞かないお菊を憎らしく思うようになった弾四郎は、お菊が預かる小寺家重代の家宝「毒消しの皿」十枚のうち一枚を隠し、その罪をお菊におわせ、ついにお菊を切り殺し、庭の井戸に投げ込んだ。

それ以来、夜ごと、この井戸の底から悲しげな女のか細い声で、「一枚、二枚、三枚、四枚、五枚、六枚、七枚、八枚、九枚……」と皿を数える声が聞こえるようになった。

大工棟梁、桜井源兵衛

関ヶ原の戦い後、播磨に入った池田輝政は慶長六年(1601)から大規模な新しい城づくりに取りかかり、慶長十四年(1609)に連立式天守を誇る城が完成した。大工棟梁として指揮したのが桜井源兵衛である。城普請の終わったある日、源兵衛は妻を連れて城を案内した。大天守を見上げた妻は源兵衛に言った。「とてもすばらしいお城ですが、お城が裏にすこし傾いて見えます……」打ちひしがれた源兵衛は八分髪をくわえ、飛び降り果てた。姫路城の傾きを伝える俗謡が残る。

東かたむく、姫路の城は花のお江戸が恋しいか
実際、大天守閣は巽(東南)の方向に傾いていた。これは地盤の沈下によるため、源兵衛の設計に誤りがあったわけではなかった。昭和の大修理では、地盤沈下を防ぐため基礎を鉄筋コンクリートで強化している。恩賞に浴するどころか、城の弱点を熟知り尽くした大工棟梁源兵衛の哀れな最後。人々は深い同情の念を寄せ、清水門外に立つりっぱな碑石が、その墓であると言いはやした。

千姫ものがたり

二代将軍秀忠の嫡女千姫が大坂城の豊臣秀頼へ嫁したのは、慶長八年、7歳のときであった。それより十二年後、元和元年5月、大坂城は落城し、千姫は石見国津和野の坂崎出羽守に救出された。江戸へ下る道中警固を命ぜられたのが伊勢桑名の本多忠政の嫡子忠刻であった。忠刻は眉目秀麗、剣を宮本武蔵に学び、文武両道の爽やかな人であった。一目で恋におち、ほどなく結ばれた千姫。結婚の翌年元和三年、本多忠政の姫路転封にともない、千姫と忠刻も姫路城に移った。化粧料で建てられたという化粧櫓や、侍女達の部屋が並ぶ長局(百間廊下)は、「西の丸」で現在もその名残を留めている。勝姫と幸千代の二子に恵まれ幸せな日々を過ごした。幸千代の誕生を祝した月見連歌の宴。

初秋の風を懐にまきとりて 忠刻
軒におふ竹の葉の露 お千
幸せな日々は続かず、幸千代はわずか3歳で早世、夫の忠刻も帰らぬ人。千姫30歳、結婚後11年目のことだった。名残なき千姫姫路城に別れを告げ、娘の勝姫と江戸城へ戻り、天樹院と号した。



「好古園」より姫路城を望む

コース概観

天下の名城、世界文化遺産・国宝姫路城。白鷺が舞うようだと いわれる優美な姿。別名、白鷺城。威風堂々として気品あるたずまい。天守閣にいたるまで迷路のような道や敵を欺く罫や鉄砲狭間、石落としなどの仕掛けの数々。青空にそびえる天守閣群。四〇〇年の時を経た今もなお往時の威厳と美しさを残す。日本の風景を求めて、秋の一日訪ねてみた。



順路に従って進むと千姫ゆかりの西の丸。渡櫓から入る。細長い回廊のような建物。千姫お付きの女たちが住んだ長局。百間廊下と呼ばれる細く長く延々と続く廊下、石落とし(袋狭間)、雨水抜きを見る。千姫が身支度や化粧直しをした化粧櫓。畳が敷かれ貝合わせをする様子が再現されている。千姫は毎日三の丸の屋敷から登ってきて男山八幡宮を拜み休息したという。化粧櫓の下に石には「千姫や春や昔の夢のあと」と刻まれている。この門の西面の唐破風の棟に十字の鬼

JR姫路駅下車。まっすぐ北にのびて

お城にいたる道は「日本の道百選」に選ばれた姫路市のシンボルロード。標高45・6mの姫山に構築された、今にも舞い立とうとする白鷺を思わせる優美な城が正面真ん中に収まる。かつて駅の場所に飾磨門があり、市街地は堀と石垣の総構えですっぱり包み込まれていた。

大手門をくぐる。駅前雑踏から一転歴史と物語の舞台へ。城門は明治に入って鎮台が置かれた折に取り払われ、今の建物は昭和十二年に新たにつくられたもの。掖門附高麗門で、切妻・瓦葺。この付近は、桐一門・桐二門・桜門と三つの門によって守られていた。桐二門の場所にあたる大手門を入ると芝生公園。眼前には白亜の城郭建築群が、緑の小山の左右と天空に藩政時代の姿そのままに広がる。

明治六年(1873)明治政府による廃城令によって、姫路城も破却されることになり、公示入札された。三の丸は大坂鎮台歩兵連隊用地として、石垣を残して取り壊され、天守などは神戸清一郎氏が23円50銭で落札。風呂屋の焚材となる運命となった。しかし、巨大な建築物を解体することは容易でなく、神戸氏は権

利を放棄してしまふ。

そのころ姫路城を後生に残すべきだと立ち上がったのが、当時陸軍省第四局長代理の中村重遠大佐だった。中村大佐は陸軍卿山形有朋に働きかけ、明治十二年(1879)に保存が決定した。「菱の門」左手に中村大佐顕彰碑が建つ。

複雑な縄張りによってつくられた要害。螺旋状に三重、内・中・外濠をめぐらせている。海抜92mの大天守と三小天守を渡櫓でたくみに連絡した連立式天守閣。千鳥・唐破風の配置の妙と均衡の美しさが白漆喰総塗籠の外壁と相まって類なく荘重優雅。往時のままの威厳と美しさを誇り、大天守など八棟が国宝に、七四棟が国指定重要文化財に指定されている。

姫路城と好古園との共通入場券を購入する。まっすぐ進み堀を左に入り菱の門をくぐる。二の丸の入口を固めた城内で最も大きな門で、伏見城からの移築とも言われ、桃山時代の様式を色濃く残している。左右の柱の上に菱の紋が張られている。菱の門を入ると、「い、ろ、は……」天守に近づくと「水一、水二、水三……」の順に名付けられた門が続く。

瓦がある。秀吉に城を譲った黒田孝高はキリシタン宗に帰依していた。ほの門をくぐった所にある油壁は、秀吉時代の壁で鉄砲の弾もはじき返すという。石垣の中に姥が石と呼ばれる金網に囲まれた半円形の石臼がある。築城には大量の石材が必要で、ほの門の右端の柱の礎石には灯籠の台座が使われ、備前門の石垣には古墳の石棺が組み込まれている。

ほの門を過ぎてくると天守の周りをまわる。塩櫓は、土間や壁に塩分が染み込んでいる。備前丸(本丸)に着く。池田輝政屋敷跡の碑がある。城主の御殿は、本多忠刻が藩主になった際に三の丸に移された。大天守と西小天守を見上げる。大天守は外観五重で内部は六階、地下一階。西・乾・東の三つの小天守が渡櫓で繋がれ、高くきれいに積み上げられた石垣の上に偉容を見せている。

鉄板を鎮めて止めた頑丈な門、水五門より天守閣に入る。大天守は東西二本の心柱と189本の筋交い柱で支えられている。心柱は六階まで貫き長さ25m。昭和の大修理で取り替えられた西心柱は、元の建築様式通り三階部分で継がれた。兵庫県神戸市川町笠杉神社の神木の樹と、

木曾園有林の櫓が使われた。

武器掛け・石打棚などを見学しながら天守閣最上階へ。四方に廊下が設けられた板張りの間があり、中央に刑部社がまつられている。姫路市街を眺めてみよう。絶景かな、絶景かな！

腹切丸の通称を持つ帯郭櫓、お菊井戸を見学する。城外の姫路城のすぐ西側に広がる日本庭園「好古園」に行く。時間が許せば、旧陸軍の兵器庫を改造した赤レンガ造りの姫路市立美術館も訪れたい。

▲コース▼

- JR姫路駅―大手門―入口―菱の門―西の丸庭園―西の丸長局(百間廊下)―化粧櫓―乾小天守―大天守―搦手口―帯の櫓―お菊井戸―菱の門―好古園
- ▲地形図V2万5千II姫路北側・南部
- ▲費用VJR大阪駅―姫路駅1450円
- 姫路城・好古園共通券 大人720円
- ▲問い合わせ先V
- 姫路城天守閣 開かずの間 特別公開
- 平成15年5月5日(祝)まで
- 観光振興課 0792(21)2511
- 好古園 0792(89)4120
- 市立美術館 0792(22)2288

「山のレポート」

山の地名を歩く⑥

「野と原」

西尾 寿一

「野原」という表現は、40年くらい前までごく普遍的なものだったが、現在ではあまり使われなくなった。つまりそのような土地が少なくなったのである。ひととくに野原というが野と原は違う地形語なのである。

野は山から続くゆるいスロープの扇状地が多い。原は河原などと同じように平坦な未開発地で、雑草の生えた所だ。盆地の底や山間の小広い平地もあり、高い所のものは高原と言われている。つまり原が高い場所に存在するのだ。

その野と原とが合流して「野原」という場合には、両者の条件が満たされた場所ということになる。そんな未開発の土地も、戦争に負けて外国からの引揚者たちが開墾のため入植したので、ほとんどなくなってしまった。なかには1000年以上近くの高原状の土地に入植したが、作

物はおろか牧場にもならず、放置された所もたくさんある。

そのような場所は軍隊の演習場として利用された。そして低い所の野原は畑から次第に住宅地として開発の波にのまれ、消滅したといってもよい。

近頃のアウトドアブームでも野や原へ行く話を聞かない。昔は遠足といえどもばら野山が対象だった。今日でもテレビで行楽の人数を伝えるのに「野山への人数は何人程度」などと表現するが、実際のところ野山ではなく、遊園地や行楽地であったりする。

青少年のキャンプやレクリエーションも高原や湖・池の場合が多く、キャンプ場も昔より奥山へ移っていった。

「野や山」という表現は昔から山が裾を長く引く末端がゆるやかなスロープをつくり、人がこの部分を利用して生活するのに適していたためと考えられる。その傾斜地の末端には川が流れ、野を分けて流れ落ちる溪流が合流している。野を登って行くと林や森があり、さらに登ると山に続いていく。川から段階的に立体化して続く土地は、川と山の両方の自然の恵みに浴している。川と山と野があれば持

と農耕が同時に可能であり、森の深い恩恵もある。

このような結構づくめの野はやがて開発の波にのまれてゆくことになる。

野や原のつく地名の多いこと、古いことで全国有数の京都・奈良の例をとって概観してみよう。

平安の都が造営される以前の京都盆地は野や原がいたる所にあった。まず川沿いの原が開拓され、都城や市民の住宅・市場がつくられ、原が消滅する。続いて四辺の山麓に社寺が建造され、野が利用される段階となる。このときの地名が残されている。これが嵯峨野・化野・鳥辺野・大原野などであった。このうち化野・鳥辺野は狛送の地であったが。

これらの地名は現在も使用され、高級住宅地に変わっているが、当時は薪炭や食料の供給地であり、貴人の隠遁する場所でもあった。

奈良でも吉野が圧倒的な比重で存在するし、秋篠も「阿騎の大野」であり「蜻蛉野」がある。以上の地名は「野」がいかなる地形の部分に付されたかをみればその用法が納得できる。ちなみに関東の

習志野は元「ナラ野」が明治天皇によって命名されたと伝えられている。これも地名の好字化の流れの一端である。

原の実際には洛北の「大原」がある。これはやはり野に開かれた盆地の一部分を表現している。京都・奈良とも「田原」が多いのが注目される。宇治田原・田原本が代表選手だが、田原は全国にたくさんある。これは一見して田の多い原である意にとれるが、地名学者の池田末則氏は、土地の端んだ所だと言う。「丘陵もしくは平地のタワンだ所、このタワンだ所が拓けると、タワ原となる。タワに「小」の美称を冠したオタワは「音羽」となる（地名風土記）といわれる。

また、九州の有名に田原坂は「田のある坂」というよりもタワハラ坂と考えるべきで、古い地形語である」という。このような説とは別に当然のこと田原の源意を知らずに漢字の意をそのまま理解した田原が存在したことも考えられるから、その地名（田原）がどの年代に付されたかによって判断が分かれると思う。

関東以北には野や原は多い。代表的なものに阿連ヶ原があり、高原がある。地図を精査すればそれこそ無数に出てくる

と思うが、同じ地形語で別の表現のものも増えてくる。

東北では原に相当するものに「平」がある。八幡平・迷ヶ平など京畿などからみると実に大規模なものである。高原も規模雄大なものがありこの言葉は歴史的に新しいもののように思う。牧場などの草原もたくさん見られる。

北海道では、原野・平原・広野・沃野・荒野などと日本放れた風景があり、大規模な湿原も見られる。サロベツ原野・釧路原野などの原野は歴史の浅い言葉である。西国の古代ではヌタやビシヨ・シル・ジュルなど擬音が使われて規模の小さいものであったようだ。

火山の規模の大きいものには巨大なカルデラを発達させたものがある。阿蘇のような所ではカルデラの底に町がつけられたり、広大な草原は草千里と呼ばれて特異な景観をつくっている。

野や原もその実態をいかにして他者に伝えるかについて腐心した形跡がありありと見えて、いじらしいくらいである。

山の本紹介 新刊

「歩きま専科」

京滋の1000山



・京都新聞出版センター
・山本武人著
定価1333円＋税

●京都新聞夕刊に1999年11月5日(金)から2001年12月28日(金)まで連載された99回のロングラン企画をまとめて本にした。

●コースガイドは簡明でわかりやすく、カラー写真付き、カラーマップは詳細である。コンパクトな京滋の山ガイドブックとして活用できる。

●京都市内29山／京都府南部2山／京都府北部24山／滋賀県湖南・湖東26山／滋賀県湖北・湖西19山／付録に「役立つ「登山豆知識」あり。

●店頭で販売中

駒ヶ岳と池原山

中級コース(★★★)

慶佐次 盛一

今年の干支の午にちなんで、朽木の駒ヶ岳を紹介しよう。駒ヶ岳だけなら、福井県側の上中町の森林公園から遊歩道があるので簡単に登れるが、それだけでは時間が余る。滋賀県側の朽木村から駒ヶ岳に登り、江若国界稜線をたどって池原山へと足をのばせば、程よい一日コースとなるだろう。

私たちはJR湖西線安曇川駅からタクシーを利用して現地に入り、帰りは朽木村の村営バスを利用したが、村営バスは便数が少ないうえに定員は9人。大人数の場合はアプローチの手段を練る必要がある。

道標がないので読図に強いメンバーも

きな仲間が、後日再び訪れて幹廻りを計測したところ、4ヶ所近くも違ったそうだった。

支尾根の稜線に出ると明るい雑木帯となり、江若国界稜線の690ヶ所の地点に登り着いた。はっきりした道があり、ブナ・ミズナラ・カエデの見事な紅葉を楽しみながら、駒ヶ岳へとゆるやかな起伏を越えて進む。

河内越は確認できないままやがて道標が現れ、上中町の森林公園からの遊歩道が合流した。すぐに駒ヶ岳(寺山・78



駒ヶ岳・池原山付近略図

必要だが、稜線のササやぶは全て枯れているから、今なら歩きやすいだろう。

安曇川駅から、朽木村の木地山集会所へとタクシーを飛ばす。安曇川はいい天気だったが、進むほどに前方に虹がかかり、11月のこのあたりはやはり時雨れているようだ。

ダム建設の計画があるという麻生川沿いを走り、約40分で小雨が降る木地山集会所の前に着く。村営バスの停留所でもあり、女性1人を含めた9人のメンバーは、集会所の軒先を借りて雨具を着けた。

犬がけたたましく吠え、不審に思った在所のご年配の男性が顔を出す。駒ヶ岳への来意を伝えると、ご親切にも取り付きを教えてくださいと、麻生川を越えた畑地の、害獣除けの電線が設置された扉まで開けてくださった。

集会所の前の麻生川の橋を渡り、扉を開けていただいた畑地を横切り、東谷の丸太橋を渡って左岸の細い道を進む。

周囲は植林帯で、小雨のせいか東谷の流れも勢いがいい。飛び石で右岸へと移り、細々とした袖道を伝った。この細い袖道をたどり、東谷をとことんつめて江

0ヶ所の頂上に着いた。岩の上に3等三角点が目まり、いつしか時雨もおさまった山頂からは琵琶湖が見下ろせ、遠く伊吹山が望める静かな山頂だった。

駒ヶ岳でしばらく暑い、次の池原山を目指して、元の江若国界稜線を支尾根から登った690ヶ所の地点まで戻る。さらに池原山の分岐点の744ヶ所のピークへと稜線を進んだ。

ゆるい起伏が続き、朽ちた階段が所どころに残っている。稜線のすぐ左下に地形図にない大きな池が見える所は、等高線が大きく広がる地点であらう。

雑木の稜線も、植林が目立ち始めると744ヶ所の分岐ピークに着いた。ここから江若国界稜線から離れて、池原山へと稜線をくだるのだが、踏み跡が残っているくらいである。

そんな稜線をくだっていると、北側に百里ヶ岳が見える。標高を150ヶ所ほど下げて、少し登



駒ヶ岳山頂

若国界稜線の河内越に出て、そこから駒ヶ岳に登る計画だった。

進むにつれて踏み跡は消え、水量も衰えて傾斜がきつくなり、いつの間にか東谷から離れて東寄りの支谷へ迷い込んでいた。

あたりは植林帯で、左の植林の斜面に登り、支尾根から江若国界稜線に出ることにした。急斜面のうえに小雨で濡れているので足が滑って非常に登りにくい。植林の幹にすがりながら登っていると、大きなブナの木が一本現れ、一同驚きの声を上げた。植林時にも、あまりにも立派なので伐採を免れたのであろう。物好

り返したピークが池原山(605ヶ所)だった。3等三角点が目まっていたが、北側は植林で南側はブナなどが生えて展望はなかった。

池原山から麻生川への下りは植林帯のなかによく踏まれた踏み跡があり、幹に記された赤いペンキの矢印を追いながらくだると平落さんの家屋跡(地形図の家屋)に出た。

麻生川沿いの車道を南へ進むと熊ノ畑バス停で、村営バスで朽木学校前に行き、京都バスの最終便に乗り換えて京阪出町柳駅に帰った。

▲コースタイム▼

木地山集会所(1時間50分) 江若国界稜線(40分) 駒ヶ岳(45分) 744ヶ所ピーク(25分) 池原山(40分) 熊ノ畑バス停△地形図▽2万5千〃古屋△問い合わせ先▼
朽木村観光協会

☎0740(38) 2397
京都バス ☎075(871) 7521

駒ヶ岳と池原山

中級コース(★★★)
慶佐次 盛一

今年の干支の午にちなんで、朽木の駒ヶ岳をご紹介します。駒ヶ岳だけなら、福井県側の上中町の森林公園から遊歩道があるので簡単に登れるが、それだけでは時間が余る。滋賀県側の朽木村から駒ヶ岳に登り、江若国界稜線をたどって池原山へと足をのびせば、程よい一日コースとなるだろう。

私たちはJR湖西線安曇川駅からタクシーを利用して現地に入り、帰りは朽木村の村営バスを利用したが、村営バスは便数が少ないうえに定員は9人。大人数の場合はアプローチの手段を練る必要がある。

道標がないので読図に強いメンバーも

きな仲間が、後日再び訪れて幹廻りを計測したところ、4ヶ所近くもあつたそうだ。

支尾根の稜線に出ると明るい雑木帯となり、江若国界稜線の690級の地点に登り着いた。はっきりした道があり、ブナ・ミズナラ・カエデの見事な紅葉を楽しみながら、駒ヶ岳へとゆるやかな起伏を越えて進む。

河内越は確認できないままやがて道標が現れ、上中町の森林公園からの遊歩道が合流した。すぐに駒ヶ岳(寺山・78



駒ヶ岳・池原山付近略図

必要だが、稜線のササやぶは全て枯れているから、今なら歩きやすいだろう。

安曇川駅から、朽木村の木地山集会所へとタクシーを飛ばす。安曇川はいい天気だったが、進むほどに前方に虹がかかり、11月のこのあたりはやはり雨降っているようだ。

ダム建設の計画があるという麻生川沿いを走り、約40分で小雨が降る木地山集会所の前に着く。村営バスの停留所でもあり、女性1人を含めた9人のメンバーは、集会所の軒先を借りて雨具を着けた。

犬がけたたましく吠え、不審に思った在所のご年配の男性が顔を出す。駒ヶ岳への来意を伝えると、ご親切にも取り付きを教えてくださいと、麻生川を越えた畑地の、害獣除けの電線が設置された扉まで開けてくださった。

集会所の前の麻生川の橋を渡り、扉を開けていただいた畑地を横切り、東谷の丸太橋を渡って左岸の細い道を進む。

周囲は植林帯で、小雨のせいか東谷の流れも勢いがいい。飛び石で右岸へと移り、細々とした袖道を伝った。この細い袖道をたどり、東谷をとことんつめて江

0級の頂上に着いた。岩の上に3等三角点があり、いつしか時雨もおさまった山頂からは琵琶湖が見下ろせ、遠く伊吹山が望める静かな山頂だった。

駒ヶ岳でしばらく憩い、次の池原山を目指して、元の江若国界稜線を支尾根から登った690級の地点まで戻る。さらに池原山の分岐点の744級のピークへと稜線を進んだ。

ゆるい起伏が続く、朽ちた階段が所どころに残っている。稜線のすぐ左下に地形図にない大きな池が見える所は、等高線が大きく広がる地点であらう。

雑木の稜線も、植林が目立ち始めると744級の分岐ピークに着いた。ここから江若国界稜線から離れて、池原山へと稜線をくだるのだが、踏み跡が残っているくらいである。

そんな稜線をくだっていると、北側に百里ヶ岳が見える。標高を1500級ほど下げて、少し登

駒ヶ岳山頂



若国界稜線の河内越に出て、そこから駒ヶ岳に登る計画だった。

進むにつれて踏み跡は消え、水量も衰えて傾斜がきつくなり、いつの間にか東谷から離れて東寄りの支谷へ迷い込んでいた。

あたりは植林帯で、左の植林の斜面に登り、支尾根から江若国界稜線に出ることとしたが、急斜面のうえに小雨で濡れているので足が滑って非常に登りにくい。植林の幹にすがりながら登っていると、大きなブナの木が一本現れ、一同驚きの声を上げた。植林時にも、あまりにも立派なので伐採を免れたのであろう。物好

り返したピークが池原山(605級)だった。3等三角点があり、北側は植林で南側はブナなどが生えて展望はなかった。

池原山から麻生川への下りは植林帯のなかによく踏まれた踏み跡があり、幹に記された赤いペンキの矢印を追いながらくだると平落さんの家屋跡(地形図の家屋)に出た。

麻生川沿いの車道を南へ進むと熊ノ畑バス停で、村営バスで朽木小学校前に行き、京都バスの最終便に乗り換えて京阪出町柳駅に帰った。

▲コースタイム▼

木地山集会所(1時間50分) 江若国界稜線(40分) 駒ヶ岳(45分) 744級ピーク(25分) 池原山(40分) 熊ノ畑バス停 ▲地形図▽2万5千1:25,000 古屋 ▲問い合わせ先▼ 朽木村観光協会

☎0740(38) 2397
京都バス ☎075(871) 7521

(重山シリーズII 近江長岡・長浜)

伊吹展望最適地

みしまいけ

よこやま

三島池と横山

一般コース(★)

長宗 清司

滋賀県最高峰の伊吹山は、どこから眺めても堂々とした美しい山姿である。JRの車窓から、また、高速道路の車中から雄大な山容がしばらく楽しめる。

今回は、伊吹山を終始眺めながら歩くコースである。岐阜・滋賀県境に近いJR近江長岡駅からスタート。駅前から突き当りの道を右へ、すぐ左折する。天野川にかかる橋を渡り、山東町役場をすぎ、次の二股道を左へ入ると、右前方に岩と松の小山があり新幹線の高架が横切っている。ガードをくぐり大小ある二股道を今度は右の細道に入り、このまま成り行きで三島池畔に出る。

三島池は周囲約780m。楕円形の池

で、平常は水深1m内外だが、4月中旬から8月にかけて貯水され深さ1・5m以上に達する。水源は湖北を流れる姉川の伏流水。池の東側には公園施設「グリーンパーク山東」が整備され、テニスコートや宿泊施設がある。最近では、梅花の季節に盆梅展が開催されている。

この池にはいろいろな生物が生息していて、コイ・フナなどの魚類のほか、水生昆虫や貝類も多く棲んでいる。野鳥は年中見かけるが、特に冬鳥ではマガモがここを自然繁殖南限地として、例年10月上旬から下旬にかけてやって来て、訪れる観光客を楽しませてくれる。池中には日本一大きい石灯籠が建ち、背景の雄大な伊吹山にマッチして美しい景観の一部を占めている。池の西側には伊豆の三嶋大社を勧請した三島神社がある。

ここからは、田園地帯の広がるなかを、右側に伊吹山の全貌を眺めながら歩く。市場集落から西の臥竜山系の山裾に向かって朝日集落へと野道を行く。バス道に出てすぐ観音坂トンネルの手前から本道を北にはずれ、観音寺の参道に向かう。

観音寺は伊富貴山観音護国寺という。通称大原観音寺といい、伊吹四ヶ寺の一



観音寺

面観音像は行基作とされている。また、この寺は秀吉と石田三成との出会いの場としても有名である。それは、秀吉が鷹狩りで立ち寄った際、寺の小僧をしていた石田三成が茶を献じた心遣いに感銘し、すぐさま家来に登用したという「三碗の才」の話が発端である。



三島池・横山付近略図

山頂へは、観音寺の境内から登る。山頂付近は元々城跡である。小谷城主浅井長政の支城が置かれていた。遺構・曲輪・土塁跡が山城の名残を留めており、南にくだると天守跡や井戸跡・鐘楼跡もある山塊である。姉川の合戦で

三島池から伊吹山を望む



つに数えられ、寺伝では(770~781年)伊吹山中の弥高山の尾根にあったが1347年に現在地に移建された。本堂は県の指定文化財で、木造の伝教大師坐像は国の指定文化財である。本尊の十一

織田方が占拠し、秀吉が守護した。信長も何度か訪れたであろう、この山は四周見晴らしがよく、目前に迫る伊吹山は圧巻である。湖北の山々や琵琶湖も遠望できる。

城跡から右の尾根道をくだると、公園に出る。この石田町は石田三成の出生地で、ゆかりの供養塔や屋敷跡がある。

(平成12年2月13日歩く)
(平成14年2月8日歩く)

▲コースタイム▼

JR近江長岡駅(40分)三島池畔(1時間)観音寺(20分)横山(1時間)石田町バス停(バス)JR長浜駅
△地形図V2万5千II関ヶ原・長浜
△問い合わせ先V
山東町観光協会
0749(55)2040

湖国バス(長浜)

0749(64)1224
グリーンパーク山東

0749(55)3751
石田三成公館 0749(62)8285

五僧から

横根三山

中級コース(★★★)
西尾 寿一

横根という名称は山名ではないが、地域を示す適切な表現である。最初はとりつく島もない難解なものに思われたが、地形・地質を詳細に検討すると、自然に納得できるものだった。

三角点の点名が「西横根」であることは、本物の横根はその東の県境上にある760㍎峰となる。その峰は実際には県境線上から西にずれていることをもって「横根」となる。つまり、県境(主脈)のタテ軸に対して横に張り出した根(嶺・峰)なのだ。ミネのミは美称とするとネが本体で「横嶺」となり、実際の地形と完全に一致する。

現在760㍎峰を東横根と言っている

利用したルートで昔は小屋があったと聞いている。

鞍部から県境尾根は横根の東をトラバースして行くが、頂上へは右の急斜面を直登だ。

頂上は小広い低木帯で、御池岳の好展望台、昼食をとりながらあきもせず眺める。御池岳の手前に大鐘を伏せたような鈴ヶ岳が立派な姿に見える。

西横根へは急激な下降と急登が待っている。これが三山に共通しているスタイルで、よいアクセントになっている。急登の左側が伐採され、丸裸になっている



人もいるが、本来は横根そのもので西横根のさらに西の最高峰である764㍎独標を含めて横根三山と考えてもよい。

周辺が石灰岩地帯なのに横根三山はそうではなく、谷に水が流れ流が流れる。尾根にも岩場が見られ春には花が咲き乱れる、実に美しく気分がよい山だ。三山の水を集めて北へ流れる横根谷(滝谷)の出合は横根橋であり、「横根」はこの山塊一帯を表わしていることに疑問の余地は少ない。横根谷は滝場があるが、困難ではないので横根へのよいルートとなる。

今回は五僧から県境尾根に取り付き、三山を一周して横根橋へくだるコースを紹介する。

車使用はさけられないので、五僧か、林道入口の基地の一角にある広場に駐車する。

五僧は荒廃して昔日の面影はすでになく、歴史的な峰を保存する動きはない。

いきなり尾根に取り付いてもよいが、村の中を流れる小川をヘイシヤク谷といひ、谷沿いの道を行くと立派な氏神さんで終点だ。社の奥をつめると二俣になり左をとると県境尾根に出る。

所からはさらに展望がよくなるので急登の苦しみも相殺される感じだ。やがて伐採地が終わっていくつかのコブを過ぎると二次林のなかに三角点がある。やぶのなかにやっと見つけた頃とは違い、露出しているのは登る人が増えた証だろう。

三角点からの展望はないが、南へ派生する急峻な支尾根に赤テープがあり、権現谷林道から登る人もいられるらしい。このルートは安直であるが、おもしろ味に乏しいと考える。横根の良さは三山の縦走か横根谷を使うのがベストだろう。

山頂付近は今も昔もシャクナゲの海である。西へ縦走を開始するがテープがなくなり、厳しくなってくる。いくつものコブが連続し、やぶが張りついている

が、特に鞍部から西では細い岩稜となる。多少岩登りを楽しみたい人にはこたえられない所だろう。が、逆に中高年ハイカーには少々手強いので無理はしないほうがいい。

細い鋸歯状の岩上に立てば、鳥帽子岳から茂里の尾根、ソノドの美しいスカイラインが

横根から西横根を見る



鞍部から南へは急登につぐ急登で、ピークに登りつくくと背後に霊仙山・鍋尻山など石灰岩の山が視野いっぱい飛び込んでくる。700㍎独標付近は岩場のアツブダウンが続くが、春は桜・タムシバ・イワウチワなどが咲き乱れて気分は最高である。踏み跡も適度に横根の手前の鞍部は特にすばらしい。ここから横根谷の登降はよいルートになる。炭焼きの人が

一望だ。岩場の間から山桜・タムシバ・ツツジが枝をのびし、岩下にはイワウチワのピンクの花が風にゆれている。

岩場を十分楽しんで764㍎最高峰に登り着くと下降路の選択となる。ツツロ坂を目指すより、北へ派生する目立たない支尾根をくだるのが最も楽だと思う。この尾根は昔から炭焼きの人が使ったらしいが、今日でも有効なルートである。しかし下部で扇状に広がるので多少ルートの読みを必要とする。古いテープも若干残っているがテープに頼るより、コンパスを北に固定してしまおうほうが簡単である。十分にくだってから横根谷側へくだれば、谷沿いのよい道に出合う。

あとは道なりに鼻唄でもうたう気分であらう。権現谷林道へは近い。横根三山は鈴鹿北部でも特異な存在で、中級者に好まれる要素も持っているようだ。(平成14年4月歩く)

▲コースタイム▼

五僧(2時間30分) 横根(30分) 西横根三角点(40分) 最高峰(1時間30分) 横根橋(30分) 五僧

△地形図V2万5千II 篠立

2等三角点のある山

黒鉄山と石堂丸山

山形 歳之

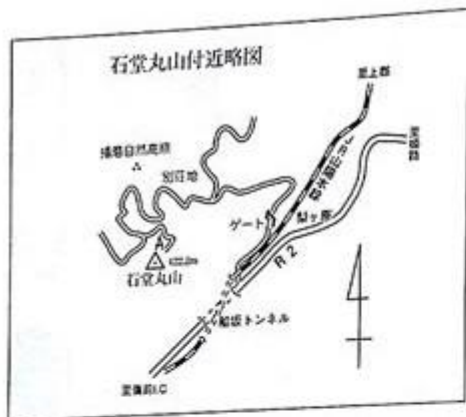
黒鉄山(2等・点名西有年)

初級コース(★)

赤穂市の北西にある山で、いかにもたくましい名前をもっている。かつて鉄鉱石でも産出したのかもしれないが、今も南麓は大きく採掘され、荒々しい肌を露出している。

地形図には登路が記載されていないので、「点の記」のルートを目指して北麓に車を走らせたが、全く道が見つからない。南に戻り、湯ノ内の新幹線沿いに入ると、黒鉄山登山口の標示が目についた。

新幹線をくぐり、北側沿いの道を400mほど進むと、山に向かう林道がのびて



いる。道が悪そうなので分岐点近くに駐車する。登山道らしい道もあったのでこれをたどると、堰堤の所で行き止まり。林道が出来るまでの仮の道らしかった。

堰堤を越えて林道に出る。林道は高度を上げ、大きく曲がると赤い鳥居の所で終点となる。その脇から幅広の登山道が始まる。水のない沢の林のなかに小さい社が見える。道はガラ石の上に落ち葉が積る急坂で、歩きづらいことおびたしい。

やがてひと汗かかされた頃、稜線に登り着いた。所どころに立つ文字の消えかけた道標は先端が斜めに切断され、文字が読めなくても方向は確認できた。

稜線の道は歩きよく、下から見えていた反射板に到着後、さらにフェンス沿いに黒鉄山(430.9m)山頂に向かうと、林のなかに古い測量棒が立ち、標石が入っていた。展望はない。

20mくらい離れた所にテール状の何かの基盤があり、そこからは小豆島・家島、そして赤穂の町が広がっていた。

この山は植林がなく、椿混じりの照葉樹林帯で、所どころに椿が花を咲かせていた。

あるので、大石神社や赤穂城を見学して行くのもよい。

(平成14年1月19日歩く)

▲コースタイム▼

林道入口(20分) 林道終点(40分) 稜線(13分) 黒鉄山

△地形図▽20万Ⅱ姫路 5万Ⅱ播州赤穂 2万5千Ⅱ備前三石

石堂丸山(2等・点名三石)

初級コース(★)

石堂丸山(422.2m)は立派な山だが、播磨自然公園と名づけられた別荘地になっていて、山中を車道が走っている。公営か民営か知らないが、入口に管理事務所があり、自由には山に入ることができない。

山陽自動車道の備前インターで降り、国道2号線を(姫路方面へ)北上する。梨ヶ原の手前で左の播磨自然公園の道に入る。山の登りになると、すぐゲートがある。

ゲートで「三角点を調査します」と「点の記」を見せると、入山許可証と場内の配置図をくれ、三角点に一番近い車道の終点を教えてくれた。以前は歩いた

黒鉄山の2等三角点



静かな景色のなか、凄まじい轟音を立てて新幹線が走り抜けてゆく。その音は恐ろしく早い山頂まで響いてくる。無人の郊外では異常な騒音を出しているのだと実感した。

登山口の林道は中間にロープが張られているので、入口あたりに駐車したほうがよいだろう。

赤穂といえは四十七士。無料駐車場も

(登山)ものだが、6mもの車道歩きでは登山の気分も出ない。

山頂下の車道終点に駐車する。そばに建設省の中継所が建ち、近くにも別荘が見える。終点からのびる踏み跡道をたどると、石仏のまつられた所に到着した。まだ背後のやぶのほうが高いので踏み込んでみると、ポールと古い標柱があった。大石の散らばるなかに新しい標柱が入っていた。展望はなかった。

下山は「点の記」通りに中継所に向かったが、わずか100m足らずの距離に全く踏み跡もなく、やぶを分けてくださった。こんなに民家に近いのに人の訪れた様子もなく、一般の人々には関係のない山頂であった。

立派な名前もあり、開発されなければ登山の山としての資格は十分あるのだが、山やのひとりとしては残念なことである。

(平成14年1月19日歩く)

▲コースタイム▼

車道終点(5分) 石堂丸山

△地形図▽20万Ⅱ姫路 5万Ⅱ播州赤穂 2万5千Ⅱ備前三石

未だ知られざるリトル比良

見張山と城山

初級コース(★)

柴田 昭彦

リトル比良については、角倉太郎・阿部恒夫『比良―研究と案内―』(山と溪谷社、昭和40年)に清水友三郎氏(リトル比良研究家、元・江若鉄道北小松駅長。地元の出羽郡で登山道の整備に貢献した)の資料を活用した詳細な地図と解説があり、その成果を取り入れて、中井一郎『比良山系』(昭文社、昭和42年)、角倉太郎『比良連山』(日地出版、昭和44年)が出て、この山域は調べ尽くされたかのようであった。その集大成として、今の登山地図『比良山系』(昭文社)がある。

リトル比良は近年、林道開通や砂防工事等によって大きく様変わりしている。今回、『比良山系』(2002年版)の

ここから登山道に入る。駅の北方のガード下(神地区)の案内地図と堰堤下で確認したら、この谷が見張谷だった(登山地図には東谷とあった)。

後日、遊歩道の先をたどったら、天頂山と刻んだ石碑のある所に出た。『高島町史』(昭和58年)に江戸時代の遊覧の地、花香山として紹介され、別名は鏡研山、江戸中期に天頂神師が庵室を構えたことから天頂山ともいうとあった。登山地図の天頂山は間違いだらう。地図にある花香山を通過する道は、林道と遊歩道を合併して描いたものようだ。変電所の建設によって従来の登山道が消えて久しいが、道の表現に工夫が必要である。新町の南を流れていた小田川(地元では「おたがわ」と呼ぶ)も工事で、和田打川(「わたうちがわ」と合流するようになり、さらに平成14年からは旧小田川は無名の水路に格下げとなった(高島町役場建設課による)。

登山口から最初の鉄塔に出る。ここには大きな台石が坐っている。尾根筋を行くと下り道があるが、右の尾根を進むとすぐ二番目の鉄塔に出る。その上で分岐があり、左をとると再び分岐点。道標に

地名について考察しながら、見張山を巡るコース、城山(打下城址)から長法寺(寺跡と城址)を巡るコースを紹介することにしたい。

実は、『比良山系』の問題に直面したのは、この登山地図だけを持って、JR近江高島駅前から見張山に登ろうとしたことに始まる。まさか、駅的位置が300坪も北にずれて記載されているとは思ってもなかったから、駅前の城山台(近年の造成で登山地図にない)の案内図は見逃してしまい、日吉神社の場所もよくわからず、駅から線路沿いに南下して、谷川沿いに登ったら、城山国有林とある地点で堰堤に遮られてそれ以上進めなくなりました。

地図がおかしいとようやく気づいて、駅前から西へ広い道を進み、二つ目の辻で右折し、左手に鳥居が見えたので民家の手前の細い道を抜けて日吉神社に着いた。石段の左側の舗装道から整備された遊歩道を上ると大きな壁画が現れてびっくり。「高島町案内図」にある山王谷ふれあい広場のようだ。現地の看板にも山王谷とある。階段を上ると展望台になっていて眺めがよい。しかし、登山地図に

従い、右へ登れば見晴らしのよい三番目の鉄塔に出る。背後の道をたどると次第に急坂となり、看板のある所が正面の尾根道と左の捲き道の分岐点。尾根道をとり、しばらく登ると、城山方面からの道と出合う。ここにも道標がある。右へ登れば見張山の山頂に出る。捲き道から鉄塔二つを経て山頂に出ることもできるが、道幅が狭くて路肩も弱く、歩きにくい箇所がある。

山頂には三角点があるだけで、見晴らしもないが、地元での通称である見張山の由来は、登山口の見張谷堰堤付近の小路地名の「見張」による。近江高島駅の北側(神の東)が小字「郭内」、駅あたりが「大門」であることを考えると、大溝城(高島総合病院の東)あるいは打下城に關わって、見張場所が設置されたのかも知れない。山頂付近の小字は「音羽山」で、これは三角点の点標名であり、麓の音羽の集落名に由来するものであろう。

見張山から鳥越峠までの縦走路は古くからの道で、静かなムードが楽しめる。打下区の地名表示板がある。なお、打下の語源は、武器や築城石のうちおろし説があるが、比良八荒と言われる強風の打

鉄塔から長法寺跡への苔むした道(左に空窓が覗く)



は見張谷とあったはず。どういうことだろう。ともあれ、右手に見えた林道をたどればよいようだ。地図では少しのぼすのに登り口は現れず、おまけに道は下りだ。変だなあと思いながら歩くと、左手に火の用心という巡視路の入口が見えたのでひと安心。

ジグザグの道は整備された遊歩道で、堰堤の上あたりに来ると道標があって、ちろろしであらう。まず、最初は「ろくわ石」。南側に鶴川の「ダキワ谷」のほうへ下る急坂がある。岩の表面に六つの輪の形が見え、筆者は「六輪石」ではないかと思ったが、地元で確認したわけではない。だれか調べてほしいものである。

従来の登山地図では「ダキワ谷」の記載がなく、その位置には「金くそ谷・山崎川」となっている。「鶴川ダキワ谷シン垣調査概要」(高島町教育委員会、平成5年)にあるとおり、見張山頂のすぐ西から南下する谷は「ダキワ谷」なのに、登山地図には過去35年間、異なる名称で記されてきたのは不思議である。実は、その東に、だき岩谷の記載が見える。

筆者は鶴川地区の河川名について、現地での聞き取りや文献により、登山地図にある記載がかなり事実と異なることを知ることができた(以下、正しい呼称を「」で表示する)。



見張山と城山付近略図

ざとは、金養の北西600m付近一帯の山腹を指すという。まむし川は「坂畑川」であり、左俣が「引尾谷」、右俣は引尾谷とあるが流路が変で「坂畑谷」が正しい。坂畑谷は「長法寺谷」である。マムシ川(坂畑川)というのは、山崎・金養と坂畑の間の小字地名である。金養で地元の人に聞いたところでは、「ダキワ谷川」の西200~1000mあたりを南に流れる農業用水路のことをマムシ川と呼んでいるという話だった。つまり、河川として表示するほどのものではないということである。

坂畑川は間違った流路が描かれている。登山地図では、河川名が東に一つつずき、ずれているため、坂畑川の架空の流路を記入しないと辻褄が合わなくなったのであった。

さて、ろくわ石から先、こうだ谷、寒風(冷たい風の通過地)、鉄砲岩(撃ち所?)を経て、南側の展望が開け、上の鼻打(鼻は先端、打ちは内側の意味だろう)に出て、しばらく行くと反射板を通過して鳥越峰(山頂は少し北に入る)、そして、道標分岐に着く。ここからは有名なリトル比良コースである。

変である。

岳山(嶽山)……「だけやま」と読んでも間違っていないが、高島町では「だけさん」と呼ばれている。厳密には「嶽山」がよい。

次に、長法寺跡と打下城址を巡るコースを紹介しよう。日吉神社の鳥居前で、左手(南)の民家の右側に入り、流れを渡ってすぐ右の山王川沿いの山道に入る。道標があり、堰堤を右に見てそのまま山腹の道をたどる。

道が登りになると左に打下城址への登り口が現れる。ジグザグの急坂を登り切ると、鞍部に着く。左をとれば城山で、打下城址(邪に解読板が立つ)がある。右をとれば長法寺跡方面で、下の鼻打を経て、分岐で左をとり鉄塔に上がり、南に下った後、三つ目の鉄塔の手前に鶴川方面との道標分岐がある。

鉄塔の先の赤布に注意して入ると、苔むした道となり、左側に空堀が残り、左手が岩跡である。そのままくたると長法寺の寺域に入り、道なりに本堂跡に出る。ここに解説板がある。9世紀創建、16世紀衰退と伝わり、約700年間の繁栄を見た。右に石段があり、左に沿った道を

行くと、右手にナイロンひもの目印がある。少し下で右に石積みみの連なる道があり、西側の平地には僧坊跡や溜池跡などがあった、寺域の広さがわかる。「高島町歴史散歩」(平成13年)の解説と地図が参考になるだろう(JR近江高島駅案内所で入手可能)。

本堂跡から目印を逃さずに、谷を左へ迂回するようにして渡って進むと、道標分岐に出る。削平地が残るだけの長法寺城址に立ち寄ったあと、蓮池から七町坂・七廻り(七曲り坂)を経て登山口に出て、石仏の前の道を北西にたどり、線路沿いにJR近江高島駅へ帰る。

(平成14年7月13日・21日
8月3日歩く)

▲コースタイム▼

- JR近江高島駅(20分) 見張谷堰堤(1時間10分) 見張山(1時間20分) 鳥越峰(40分) 岳山(1時間10分) 音羽バス停(20分) JR近江高島駅
- JR近江高島駅(1時間) 打下城址(1時間) 長法寺本堂跡(1時間5分) 登山口(15分) JR近江高島駅
- △地形図▼2万5千〃勝野・北小松

左は岩阿沙利山(岩砂利と阿栗梨から生まれた山名であろう)、右は岳山方面となる。ガイドでは「比良・朽木の山を歩く」と「大阪周辺の山250」(山と渓谷社)を推薦しておく。なお、付近の主要な地名について、望ましい表記を次のように整理しておこう。

鶴川……集落は「うかわ」だが、河川は「うかがわ」と読む。地元では、境界を流れることから、鶴川の「う」と小松の「こ」をとって「うかがわ」と呼ぶ。現地、鶴川橋の横には河川名を「うかわ」と表示するが、高島町役場建設課で、「うかがわ」と読むと聞いた。

鶴川越……鶴川集落に越える峠。

八王子……鳥越峰の西にあるが、登山地図にかかわる山王七社のひとつは「八王子」である。

鳥越……鳥越と記載しているガイドもあるが、鳥越峰の北にあり、「高島町史」にも「鳥越」とある。「とりこえ」が正しいと考える。

オウム岩……おうむの嘴に似ているのが由来だから、人名のようなオウム岩はおかしい。現地の道標にあるオウム岩も

特選コースガイド⑩

大峰

大峰前衛の静かな展望の山

てんなさん たきやま

天和山と滝山

中級コース(★★★)

金谷 昭

大峰主峰八経ヶ岳より西に派生した尾根の高まりに過ぎない両山だが、山頂近くまで樹林におおわれている山の多い大峰前衛にあつて、この二つの山はともに頂上からの展望に優れている。

天和山の山名は天川村の和田を麓にする山ということで、一字ずつをとったところからきている。滝山はこの山から流れ出す流が、名瀑と言われるほど見事であることから、南麓の大塔村からの命名であるが、この流は篠原の宮の流を指すのであろう。

登山口の和田の発電所へのバス本数は少ないが、近鉄下市口駅発の初発に乗れば京阪神から日帰り可能である。なお、

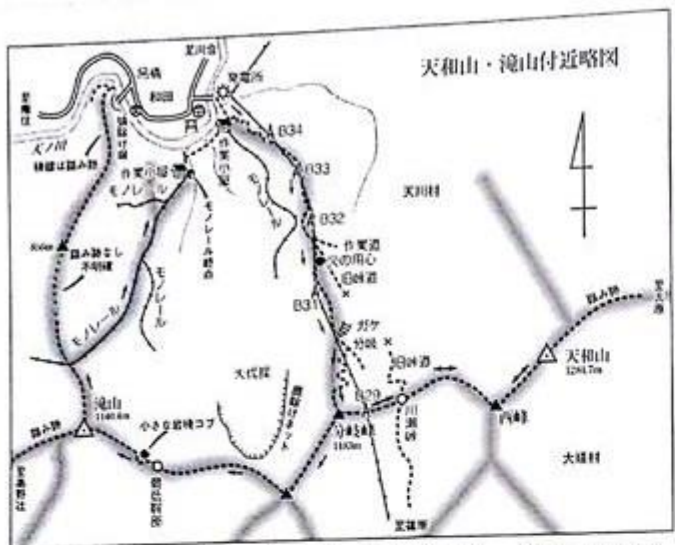
マイカーの場合は、発電所周辺に駐車場所はなく、少し離れた小学校の駐車場は休校日に了解を得られれば可能であるが、それ以外は1ヶ月前の和田集落の西はずれの道路脇の空き地しかない。

天和山へは川瀬峠の旧道を利用して登る。発電所への橋を渡り、さらに右にある小さなコンクリートの橋を渡った杉林の所から川瀬峠への峠道が始まる。昔から入馬により踏み固められ、また送電線の巡視路を兼ねているのでよく維持管理されている。取り付きから急傾斜の地形にもかかわらず巧みな折り返しで、ゆるやかに登っていく。すぐ右に出てくる作業用モノレールを見送り、しばらく行くと今度は左に簡易水道のタンクが出てくると、間もなく最初の送電鉄塔(B34)に達する。

鉄塔からは杉植林の木の間越しに麓の和田が少し望める程度である。次の鉄塔(B33)からは杉に代わって檜植林となり、展望はきかない。ここを過ぎると、取り付きで分かれたモノレールが再び右から出てくるが、これもやはりすぐ檜植林のなかに消えていく。間もなく第三の鉄塔(B32)が現れる。

根道を行くこと。ここがキーポイントである。

右側は若木の檜植林、左側は杉植林の尾根稜線は、上部に第四の鉄塔(B31)を望みながらの急な直線登りとなる。こ



のあたりに来ると左側が開けて背後の山だけでなく、これから登る稜線の展望がきくようになる。

第四の鉄塔を過ぎると道は尾根をはずれ、左側の杉林の山腹を捲くようになる。しばらくすると、道は突然小沢のガケに出合ふが、頑丈なワイヤーロープと麻ロープとが張っており、トラバースには特に危険はない。

ガケを過ぎ、しばらく行くと左に作業道を分岐すると、道は山腹を折り返しつつ元の尾根にのるようになる。尾根稜線をたどって行くと、分岐峰(1183.3m)に達する。なお、その手前左にショートカットの捲道が分岐するが、わずかの登りをカットするだけなので、分岐峰を経由したほうが道はわかりやすい。分岐峰より左に折れ、主稜線を少し下がると送電鉄塔(B29)が出てくる。さらに下がると作業小屋が出てきて、間もなく川瀬峠に降り立つ。篠原への峠道は巡視道を兼ねて今も生きてい

天和山頂上より大峰連峰



この鉄塔付近は伐採され、下の和田集落と、その背後の白石山や武士ヶ峯を見ることができ、小休憩によい所である。

この鉄塔を過ぎると左に明確な作業道が分岐し、さらに20m以上で幅の広い踏みしめられた道が左山腹を捲くように分岐する。この上の道が地図記載の昔からの峠道であるが、途中で間伐材の放置によって完全に廃道となっているので、右の尾

る。しかし、和田へは入口にテープが付いているものの途中で完全に廃道となっており、尾根は激しいやぶ、谷は悪場の連続で絶対に入ってはならない。

峠付近は檜林で、低いササのなかをしっかりとった縦走路をたどって行くと、ブナを交えた好ましい雑木林となってくる。稜線がやや右に振れると、東西一峰よりなる天和山頂上展望になる。登りつめた西峰から少し下がって登り返せば天和山頂上である。

狭い稜線頂上の東端の疎林のなかに3等三角点標石(1284.7m・点名川瀬峠)が置かれている。ここでは展望がきかないが、頂上より少し南面におけると、カヤトを交えた樹木のないササ原で、東面と南面の大展望が広がる。大峰山脈の北は尖峰バリゴヤ谷の頭を控えた稲村ヶ岳から行者遍岳・弥山・主峰八経ヶ岳。南部の雄積連ヶ岳等の千両役者を見渡す特等席である。新緑、紅葉、および積雪期の午後の斜光線により照らし出された景観は、まさに息をのむほどである。

去り難い思いを胸に滝山への縦走に入る。天和山は比較的登られているが、滝山は登山者が少ないだけにテープも皆無

新ハイキング・アミューズトラベル共同企画 台湾最高峰 玉山(3952m)登頂4日間



海外登山の入門編として、台湾の最高峰玉山に4日間登ります。玉山は台湾の人々にとって日本の富士山のような存在の山、山中の小川に一拍して標高3952mの玉山山頂からの御来光を目指します。登山道からの眺めは変化に富んでいます。深い峡谷や神秘的な白木林(白骨化した樹木の林)、屹立する岩峰群はどれも三千メートル級の高峰です。登山道はとても整備されていますので、日頃から山に親しまれている方なら是非お薦めの山です。山中の積雪山荘では、スリーシーズン用の寝袋やマットをご用意ください。また、夕食と朝食を一回づつとガスバーナーや鍋などの調理器具も必要になります。ガス缶は飛行機で運ぶ事が出来ませんので事前に予約を承ります。山荘ではスタッフがお客様を導きますが、参加人数や希望者数などにより十分に差し上げられない事がございます!

期日 12月4日(水)~7日(土)
代金 121,000円
新ハイキング関西共同企画
添乗員 板井克己(アミューズトラベル大阪支店)

- 食卓/朝2食、昼3食、夕2食付
- 男高/30名様(最少催行人員:15名)
- 一人部屋追加料金/12,000円(山荘を除きます)
- 利用航空会社/キャセイパシフィック航空、エバー航空、シンガポール航空、中華航空
- ★1日80名の入山規制がありますのでお早めにお申し込み下さい。
- ★標高3300m以上の場所に宿泊しますので高山病への注意が必要です。

1	各地発、空路、台北へ、到着後、専用車にて嘉義宿泊へ。
2	嘉義、専用車にて阿里山を経由し、上東埔へ。標高2680mの塔塔加(タタカ)鞍部登山口まで約2.4km 気持ち良い林道を歩きます。モノレール断崖、西峰展望台を経て、幅の広い雄やかな登山道を約6時間で標高3402mの積雪山荘へ。 積雪山荘泊
3	早朝、出発。ジグザグの登りを繰り返して、約2時間半で標高3952mの玉山山頂です。頂上からの御来光を拝んだ後、山荘に戻ります。後、往路を下山、専用車にて台中へ。 台中泊
4	専用車にて台北へ、午後、空路、帰国の途へ。

ネパール



- ・シャンボチエバノラマゴ エベレスト展望トレック
- ・ヒマラヤ大展望ブーンヒルトレッキング
- ・アンナプルナ展望トレック
- ・世界で一番美しい谷ランタンヘルトレッキング
- ・エベレスト・ゴキョピーク登頂トレック など

ニュージーランド



- ・マウンツックハイキング
- ・ミルフードトラックハイキング
- ・ルートバントラックとベン・ローモンド山
- ・三大国立公園ハイキング
- ・北島の名峰登頂 & ハイキングと温泉 など

その他、トレッキングコース多数あります!お気軽にお問い合わせください!

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社

アミューズトラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル7階

☎ **06-6456-3366** ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: osaka@amuse-travel.co.jp
FAX **06-6456-3377**

に近い。先の1183分岐峰に戻り、南に向かう。尾根は左の篠原側は雑木林、右の和山側は杉植林となっており、その境界の踏み跡に行く。いったんくたつて登り返したピークでは右に折れ、少しくだと、右の天川側は大伐採地となり、鹿除けネットを前にして殺風景だが、北面の展望が広がる。

それもしばらく行くと右側は檜植林に変わるが、左の篠原側はブナの巨木を交えた雑木林が続いている。最低鞍部より小さなコブが出てきてやせた岩稜となるが、篠原側を捲いて越す。これより滝山頂上に向かつて最後の急登が始まるが、距離はそう長いものではない。焦らずにゆっくり登ろう。稜線に出て右に折れるとすぐ滝山頂上である。

頂上はやせ尾根の尖峰で、20年前には360度の大展望であったが、現在は残念ながら植林がしのび寄ってきている。それでも木の間越しに周囲の山々を望むことができる。特に天和山で得られなかった西側の展望が広がり、三角錐の唐笠山とその背後の奥高野の山並を見ることが出来る。3等三角点標石(1140・4号・点名和山)を取り囲む狭い頂上には、

天和山のベタ打ちの山名板に比して三枚しかなく、登山者の少ないことを物語っている。

最後の展望を十分楽しんだ後、下山する。頂上から狭い稜線をくたつて行くとモノレールが出てくる。レールは最初左に分岐するが、少し行くと右に小さな電波塔の所で、北にのびる尾根と分かれて、右(東)山腹を急傾斜で降りていく。モノレールに沿っておれば間違いないく下山できるが、何分、資材運搬用のため大変な急勾配に設置されており、場所によっては横になっての下降となる。膝を痛めぬよう、ストックなどを使いながら、ゆっくりと降りよう。モノレールは途中で右からと終点近くで左からレールが合流して最後は作業小屋の中で終わっている。

小屋から踏み跡が右におりており、たどって行くと小さな谷を横切り、河原近くにおり立つ。踏み跡はやや不鮮明になるが河原に沿って上流に行き、さらに小さな谷を横切って行くと登山口の右にあった作業小屋の中を通って、発電所の橋に出られる。

なお、滝山頂上より北にのびる杉林の尾根をたどって和山の西はずれの吊橋に

おりられる。モノレールの道より傾斜はゆるいが、標高点8566付近までのルートファインディングが難しい。また、モノレールの道を登りに使うのは疲労が酷くおすすりできない。

(平成13年12月8日歩く)
(平成14年6月1日歩く)

▲コースタイム▼
和田発電所(20分) 第一鉄塔(10分) 第二鉄塔(15分) 第三鉄塔(15分) 旧道分岐(15分) 第四鉄塔(30分) 1183分岐峰(10分) 川瀬峠(35分) 天和山(30分) 1183分岐峰(45分) 最低鞍部(20分) 滝山(10分) 尾根分岐(55分) モノレール終点作業小屋(20分) 和田発電所

▲地形図▼2万5千II南日裏
△交通▼
奈良交通バス ☎0742(20) 3100
天川タクシー ☎0747(63) 0015
(往路) 近鉄下市口駅8時45分発中庵住行きバス、ただし繁忙期のみ、他の時期は8時20分発にて川合でタクシー利用(復路) 和田17時18分発下市口駅行きバス

一統・近江側から登る鈴鹿の山々
 鹹川林道から

サクラグチ・能登ヶ峰

健脚コース(★★★)
 磯部 純

サクラグチは野洲川ダム湖の東南にそびえる山で、北岳・奥足谷山・足谷の頭などと呼ばれている。また、能登ヶ峰(三角点の点名から野登ヶ峰と書かれることもある)は鮎河集落の東にあり、山頂にササ原が広がる鹿の楽園として知られている山である。

岩野さんの例会では、この二つの山へそれぞれ別の例会で登っているが、尾根をたどり、二つの三角点峰を回遊するのは平成13年4月の例会が初めてで、その後、平成14年6月にも同じルートを紹介している。今回はこの回遊ルートを紹介する。

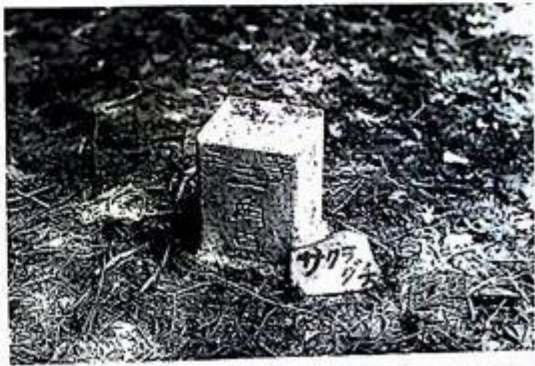
間違いやすい地点は三ヶ所だけで、あ

とは尾根を忠実にたどれば迷うことはない。と言っても、地形図を読めない人には手強いルートなので、経験を積んだ人といっしょに歩いてもらいたいものである。

鮎河集落の南を流れる鹹川の右岸の道を東へ入る。鹹川ダム湖東まで走り、右手にある広場へ駐車する。20台程駐車できるスペースがある。林道を東へ歩き、地形図にある道脇の標高点371mの手前、尾根が道までのびている地点から檜の林へ踏み込む。もちろん、道はない。しばらくは浅い谷に沿って山腹を歩いて登るが、方向を右に変え旧斜面を登ると尾根への。尾根は東側が自然林の斜面で、西側には檜の林が上へのびている。その尾根を、林の境界に張られている金網に沿って登ることになる。

尾根がゆるくなると西斜面は伐採地で、いっぺんに風通しがよくなる。斜面にはトリカブトが群生し、その間に小さな花を付けたスマレが顔を覗かせている。ここからは雑木の林が続く。芽吹いた葉の間に黄色い花を付けているのはシロモジだろうか。その急勾配の尾根を登り切ると、そこは南面が開け、振り返ると間

サクラグチの三角点標石



近に鹿の楽園が黄金色に見えている。主尾根を東へ向かう。広い二次林の尾根にはいたる所にトリカブトやバイケイソウが芽吹いている。時期が合えば、カタクリの花も見られるだろう。

ピークを一つ越えてくると、春には前方の斜面が一面黄金色に彩られる。シロモジか、アブラチャンのどちらかなのだろうか、その色は旺盛としか言いよう

がないほどだ。

シロモジ・ナツツバキの群生する斜面を登り、バイケイソウの尾根を東へ進むと、やがて杉の林になり、その斜面を登り切るとサクラグチ(918.8m)山頂だった。

数年前には標石が消失したと聞いていたが、山頂には真新しいきれいな標石が



758m南斜面の疎林で休憩する

埋められている。字体は細く、三等の字は左から右書き。三角点から東へのびる尾根を進む。ゆるい尾根をくだり、細尾根へのり、小さな傾斜を登ると前はガレ場で、展望が一気に開ける。天を突くような鎌ヶ岳の鋭峰が左にあり、高円山・宮指路岳・仙ヶ岳がそれに連なり、仙ヶ岳東峰の肩に野登山の電波塔が顔を見せている。右手手前には御所平が横たわっている。方向を北東へ振り、尾根をくだるとバイケイソウの群生する林に変わる。このあたりで食事にするのがよいだろう。あ

まり広くないが、静かな林である。大河原橋への尾根を左に見て、方向を東南へ変えるが、地形図で見ると以上にアツブダウンがきつい。小さなピークを二つ越えると横谷山、標高点873mのピークである。他の山から見ると堂々と見えているこのピークも、いざ山頂に立ってみると何の変哲もないつまらない山頂だった。

横谷山から所どころ道跡が残っている尾根を南へくだる。木々の間からすぐ目の前に宮指路岳の大岩や仙ヶ岳・御所平が迫ってきている。途中、尾根が切れたと思われる箇所があるので、左手の小さな尾根へとのり換える。わかりにくい尾根にうまくのってくたてて行くと、尾根が広くなる。このあたりが間違いやすい一つ目の地点で、直進すると鹹川上流域へくだってしまうので注意が必要だ。地形図を確認し、檜と雑木の境界斜面を南へくだると、着いた鞍部がカタコシと呼ばれる峠である。その昔、鹹川から田村川、さらには宮指路岳の北の大峠へ向かう道があったと聞いているが、今では全く道の痕跡すら残っていない。

峠から大きくUターンして能登ヶ峰へ

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

- 近鉄**
- ▽近鉄・南海・朝日合同企画「二上・生駒山麓ハイキング」 11月3日(日)小雨決行(中止の場合は12月8日(日)又は15日(日)に延期)(集合 河内国分駅 8時30分・9時40分(コース) (Aコース) (一般向) 河内国分駅→明神山分岐→関屋地蔵尊→祖先霊拝会塔→伏見所→明神山神社(願望台)→鎌窪橋→大和川河川敷→三笠山→紅葉の竜田川河川敷→竜田川駅(約18分) (Bコース) (ファミリー向) 河内国分駅→明神山分岐→関屋地蔵尊→祖先霊拝会塔→伏見所→明神山神社(願望台)→鎌窪橋→近鉄王寺駅(約12分) 参加自由・無料(拝観料は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
 - ▽駅長お薦めフリーハイキング「枚岡神社から難波山への社寺巡り」 11月9日(日)雨天決行(集合 枚岡駅 9時30分・10時30分(コース) 枚岡駅→枚岡神社→専宗寺→山科上原群→郷土博物館→楠公院→一本松古史跡公園→往生院→権現寺→大貫世社→西教寺→地蔵寺→醍醐寺→醍醐神社→安養寺→難波山稲荷神社→難波山つ目の地点。登り切ると静かなコナラ・シロモジの疎林になる。ここはピークの南斜面に当たり、何とも言えない情緒が感じられる林である。
 - この林を西へ進み、いくぶんか南へ振って進むと、あたりの様相は一変する。高い木がなくなっただかと思つと、南に膝までのササの斜面が現れる。草原を思わせるようなササ原だ。そこには何本も獣道が走っていて、ササ原にはいくつものこもりしたアセビの木が点在している。この斜面をくだり、南の尾根へのりかえる。もし、南の斜面に合わずに西の丘に登ってしまうと、その西はずれには大きな松の木が立っている。西へ来過ぎたことがわかる。そこで方向を南に振り、ササの斜面をくだればよい。ここが間違いやすい最後の地点である。ここさえクリアできたら、後は尾根をはずさないように歩くだけ。
 - 西へのびるアセビの尾根を登り、標高点696mを越え、もう一つのピークを登り切ると、目の前の谷が鹿の楽園と呼ばれているササ原。風の強い日など、目の前に広がるササ原は音を立てて吹く風になびき、すばらしい光景を目の当たりにできる。
 - ササ斜面を登り、尾根を西へ向かう。散らばって歩けば、鈴鹿の手形(鹿の角)を拾えるかもしれない。尾根を西へ進み、左手檜林の尾根を登り返し、左へ向かうと檜林のなかに能登ヶ峰(759.7m)三角点が立っている。展望は全くなく、ピークとは思えない薄暗い山頂だ。下山は一般路を西へくだり、鎌川左岸の林道へ出てもよいが、岩野さんのルートはこの三角点から北へのびる尾根をくだる。檜林を北へ戻り、急斜面をくだって北西へのびる尾根へ。さらに、次の小ピークから真北へくだる尾根へ。すると、尾根にはわずかが踏み跡が残っていて迷うことはない。急な尾根をくだり河原へおり立つと、すぐ目の前が駐車した広場である。
 - (平成13年4月22日歩く)
 - △コースタイム▽
鎌川林道広場(1時間20分) サクラグチ主尾根(35分) サクラグチ(1時間10分) 横谷山(30分) カタコシ峠(2時間10分) 能登ヶ峰(1時間) 鎌川林道広場
 - △地形図▽2万5千1土山・伊船
- ▽近鉄自由・無料(拝観料は別途)、難波山駅0729(81) 214
- ▽ほのぼのツアー「秋のみたらい深谷ハイキング」 11月10日(日) 17日(日)雨天中止(集合) 近鉄ササビスネット阿倍野橋営業所前8時40分(コース) あべの橋駅(徒歩) 下市口駅(バス) 天川村役場前→みたらい深谷→洞川温泉(バス) 下市口駅(電車) あべの橋駅(約7分) 参加費大人4130円小人2310円、各定員120名(電話申込制)、近鉄ササビスネット阿倍野橋営業所06(6624) 0026、あべの橋駅営業所06(6624) 6635
- ▽近鉄・京阪ジョイントハイキング「且根神社、木津川流れ橋から八幡へ」 11月16日(日)雨天中止(集合) 太公保駅 9時30分・10時(コース) 大久保駅→且根神社→雙葉神社→木津川流れ橋→四季彩館→川口天満宮→松花堂庭園→正法寺→エジソン記念碑→石清水八幡宮→京阪八幡市駅(約15分) 参加自由・無料、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566、京阪電鉄ハイキング担当06(6775) 3702
- ▽近鉄万歩ハイキング「白屋岳へ登ろう」 11月30日(日)雨天中止(集合) 大和上市駅 9時30分(コース) 大和上市駅(バス) 白屋→白屋岳→郷ノ口→武木(バス) 大和上市駅(約10分) 参加自由・無料(解放・約7分) 参加自由・無料、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
- ▽近鉄・南海・朝日合同企画「二



能登ヶ峰麓の菜園

の尾根を登る。尾根は植林地帯もあり、あまり気持ちのよい尾根ではない。時折、右に左に現れるミツバツツジの色だけが目を和ませてくれる。小さなアップダウンを繰り返した後、標高点758mの登りにかかる。このピークにそのまま登ってもよいが、その後のルートがわかりにくいので、急斜面の途中から南の腹を控いて登っていく。ここがわかりにくい二

近鉄

上・葛城・金剛山麓(大阪側)ハイキング」12月1日(雨)小雨決行(中止の場合は12月8日(日)又は15日(日)に延期)〈集合〉(Aコース)上ノ太子駅8時30分、9時30分(Bコース)葛志駅9時30分、10時30分(Cコース)(Aコース)(一般回)上ノ太子駅・壺井八幡宮・通法寺跡・源氏三代の墓・泥掛け地蔵・薬室山公園・近つ飛鳥風土記の丘・府立近つ飛鳥博物館・平石城址・高貴寺・持尾城址・弘川寺・金山古墳・建水神社・楠公誕生の地(約20分)(Bコース(ファミリー回)・葛志駅(バス)近つ飛鳥風土記の丘・府立近つ飛鳥博物館・平石城址・持尾城址・高貴寺・持尾城址・弘川寺・金山古墳・建水神社・楠公誕生の地(約13分)参加自由・無料(バス代、拝観料等は別途)営業推進本部大阪ハイキング係06(6775)3566

営業推進本部大阪ハイキング係06(6775)3566
▽駅長お薦めフリーハイキング
山焼ける紅葉の借貴山へ」12月8日(雨)雨天中止(集合)恩智駅9時30分、10時30分(Cコース)恩智駅・借貴山のどか村・朝霧橋子寺・高安城跡・高安山(約11分)※係員は同行しませぬ。参加自由・無料(拝観料は別途)、河内国分駅0729(78)6449

〈コース)安曇川駅(バス)小入谷峠―百里新道―シチケレ峠―百里ヶ岳―根梨川駅(約10・5分)参加費3000円(バス代含む)1ヶ月前より電話申込(申込先江若交通本社077(573)2701

山ノ木松―八瀬駅(約11分)参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(781)5121
▽北山ウィークデーハイキング
二ノ瀬・貴船山」12月11日(雨)小雨決行(集合)二ノ瀬駅10時(Cコース)二ノ瀬駅・夜涼峠・大岩分岐・樋ノ水峠・貴船山・大岩分岐・貴船口駅(約10分)参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(781)5121

京阪

▽スポニチファミリアハイキング「くろんど園地からほしだ園地へ」11月10日(雨)雨天中止(集合)天田神社境内(河内森駅下車約5分)9時30分、10時(Cコース)天田神社・かいがけの道―傍不―府民の森・くろんど園地―きさいちカントリクラブ―磐船神社―府民の森・ほしだ園地―私市駅(約11分)一般回 参加自由・無料、京阪電鉄ハイキング担当06(6947)3702

叡山電鉄

▽叡電ハイキング「福原山・八瀬」12月1日(雨)小雨決行(集合)鞍馬駅10時(Cコース)鞍馬駅・薬王坂―静原―江文峠―寒谷峠―福原山

山陽電車

▽山陽ハイキング「鹿嶋神社・生石神社を訪ねるハイキング」11月10日(雨)雨天中止(集合)曾根天満宮境内10時(曾根駅下車)Cコース・曾根天満宮―松村川河畔―時光寺―鹿嶋神社―市ノ池公園―生石神社―伊保駅(約13分)一般回 参加自由・無料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「秋の御池岳」11月2日(雨)雨天中止(集合)近鉄富田駅8時22分(三岐鉄道乗車(Cコース)富田駅(電車)西藤原駅(バス)コグルミ谷―カクタリ峠―丸山(御池岳)―鈴北岳―鞍掛峠(バス)西藤原駅(約11分)やや健脚回)参加費2000円、バス代別途1000円、予約制(9月2日(月)から受付、定員200名)、三岐鉄道運輸課0593(64)2143

奈良交通

▽熊野古道「伊勢路・江戸道と明治道が絶景の時で合流、始神峠越え」11月16日(出)・26日(雨)小雨決行(集合)各のりば(近鉄八木駅・桜井駅・天理駅・JR奈良駅・近鉄奈良駅・近鉄宇陀前駅・近鉄高の原駅・JR小泉駅・王子駅南口・近鉄五位堂駅よりバス)勢和多気(バス)三浦海岸―始神峠―馬瀬(バス)勢和多気(バス)各のりば(6時一般回)参加費大人3800円小児3300円(電話申込制・問い合わせ先)奈良交通観光社ツアースセンター10742(22)8661

心寺―三田市町駅(約9分)参加自由・無料、南海テレホンセンター06(6643)1005

神戸電鉄

▽神戸ハイキング「百間滝と有馬紅葉狩りハイキング」11月10日(雨)雨天中止(集合)鼓ヶ滝公園10時30分(有馬温泉駅南約1分)(Cコース)鼓ヶ滝公園―大谷―百間滝・似位滝―紅葉谷道―魚屋道―福河神社―有馬温泉駅(約7分)健脚回)参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521)0321

山陽電車

▽山陽ハイキング「古瀬山と美賀神社を訪ねるハイキング」12月1日(雨)雨天中止(集合)手柄山中央公園10時(手柄駅下車北西0・5分)Cコース)手柄山中央公園―法輪寺―荒川神社―本徳寺別院―吉道園主神社―広場―美賀神社―夢前川駅(約11分)健脚回)参加自由・無

三岐鉄道

料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520
▽山陽ハイキング「桂尾山・横尾道ハイキング」12月15日(雨)雨天中止(集合)妙法寺川公園10時(東須磨駅下車)Cコース)妙法寺川公園―勝福寺―桂尾山―橋谷公園―横尾道―おらが山―鉢伏山―須磨浦公園(約9分)家族回)参加自由・無料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520

奈良交通

滝―長尾滝―砂山―宇賀沢(バス)大安駅(約8分)一般回)参加自由・参加費2000円、三岐鉄道運輸課0593(64)2143
▽鈴鹿の山を歩こう「紅葉の藤原岳」11月19日(雨)雨天中止(集合)近鉄富田駅8時22分(三岐鉄道乗車(Cコース)富田駅(電車)西藤原駅・大貝谷道―藤原山荘―聖王寺道―西藤原駅(約9分)やや健脚回)参加自由・参加費2000円、三岐鉄道運輸課0593(64)2143

▽神鉄ハイキング「丹生山と三津田道ハイキング」12月8日(雨)雨天中止(集合)藍那駅9時20分(Cコース)藍那駅―藍那古道―丹生山―シビレ山―三津田道―新原湖―神出山山頂―車道―栄駅(約17分)健脚回)参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521)0321

▽山陽ハイキング「古瀬山と美賀神社を訪ねるハイキング」12月1日(雨)雨天中止(集合)手柄山中央公園10時(手柄駅下車北西0・5分)Cコース)手柄山中央公園―法輪寺―荒川神社―本徳寺別院―吉道園主神社―広場―美賀神社―夢前川駅(約11分)健脚回)参加自由・無

料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520
▽山陽ハイキング「桂尾山・横尾道ハイキング」12月15日(雨)雨天中止(集合)妙法寺川公園10時(東須磨駅下車)Cコース)妙法寺川公園―勝福寺―桂尾山―橋谷公園―横尾道―おらが山―鉢伏山―須磨浦公園(約9分)家族回)参加自由・無料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520

滝―長尾滝―砂山―宇賀沢(バス)大安駅(約8分)一般回)参加自由・参加費2000円、三岐鉄道運輸課0593(64)2143
▽鈴鹿の山を歩こう「紅葉の藤原岳」11月19日(雨)雨天中止(集合)近鉄富田駅8時22分(三岐鉄道乗車(Cコース)富田駅(電車)西藤原駅・大貝谷道―藤原山荘―聖王寺道―西藤原駅(約9分)やや健脚回)参加自由・参加費2000円、三岐鉄道運輸課0593(64)2143

奈良交通

▽熊野古道「伊勢路・江戸道と明治道が絶景の時で合流、始神峠越え」11月16日(出)・26日(雨)小雨決行(集合)各のりば(近鉄八木駅・桜井駅・天理駅・JR奈良駅・近鉄奈良駅・近鉄宇陀前駅・近鉄高の原駅・JR小泉駅・王子駅南口・近鉄五位堂駅よりバス)勢和多気(バス)三浦海岸―始神峠―馬瀬(バス)勢和多気(バス)各のりば(6時一般回)参加費大人3800円小児3300円(電話申込制・問い合わせ先)奈良交通観光社ツアースセンター10742(22)8661

あせらせ

題字・小林玻璃三

7月、台風が北上中との情報であったが、おそらく太平洋高気圧に押されて九州の西へ行ってしまっただろうと無視し、北沢峠にテントを張ったときは、真夏の蒼天に快い涼風。台風情報のおかげで人はまばら。翌日甲斐駒ヶ岳に登った際には、あまりの人の少なさに何かあったのかと少々不安になったほどだった。

甲斐駒へは六方石より直登ルートで岩をよじ登った。下りには捲き道をおりたが、摩利支天への分岐らしい踏み跡同行のYさんが発見し、標識はなかったが、かまわず進むとつい道がなくなり、切り立った崖の上に出ってしまった。

希望者だけ午前3時半に起きて西穂高独標へ日の出登山。快晴だったので、広々とした雲海のなかに浮かぶ活火山の焼岳と乗鞍岳・笠ヶ岳の全容、穂高連峰の山肌を感じた。

2日目は焼岳小屋を経て上高地へ。樹林帯を縦走し、明神池のほとり宿で2泊目。早朝神秘的な明神池と井上靖原作の「氷壁」の舞台になった徳沢園までのトレッキング。梓川の対岸にそびえる明神岳の雄姿を眺めて田代池・大正池を散策。河童橋は人であふれ、記念写真も順番待ち。梓川の美しい流れも巡視員のゴミ集めで自然が守られていた。楽しかった思い出を胸に上高地を後にした。

8月4日、岩野氏の沢下りに参加し、翌日類骨に痛みを覚え、笑い過ぎたのを思い出した。神崎川林道終点到20数人が集まるが、その姿にはいっさいの統一性はなく、われわれにはわが国独特のユニフォームという思想のカケラもない。そのいでたちたるや足は地下タビにワラ

下を覗くと奈落の底。こりゃいけないと少し戻り、ザレ場をかまわずくだり、ようやく摩利支天への正規のルートへ出た。摩利支天より甲斐駒山頂を望んだが、先ほどの崖の上に白雲をまとってそびえ立つ姿は迫力があつた。足もすくむような崖だが、考えてみるとその縁に私とYさんは立ちすくんでいたわけだ。皆さん、踏み跡には迷い込まないよう。

(加古川市 島田浩一郎) 7月20日、三十三間山の南境尾根を熊川から北へたどってみようと試みた。このルートは本誌63号70頁に「町境より雨は

ジヤ貼掛け用の溪流シューズ、頭はヘルメットやタオルを被る人、浮輪は幼児の両腕付け根用や真つ赤な百円ショップの物とまちまちで、ライフジャケットの人もいる。お互いの装備を見ているだけで笑いが込み上げてくる。ある人がポツリと「異常集団やな」。

入渓すればみんなの顔が自然とほころんでくる。ラッコのようにプカプカ泳ぎだし、始めはみんなギョチナイが慣れてくれば、否応無しに自然と一体になる。

これはどうも真言密教の教えに近い。「人間もラッコも、吹く風も自然の一つの表現に過ぎず、大日という宇宙の原理に参加すれば、人はラッコになることも風になることも自然そのものになることも可能である」と小生はラッコに引っかけた。

トロで飛び込む人も出てきて、小生も矢も盾もたまらず飛び込むが今年初めての飛び込みで、飛び込み方を忘れていて、股間を痛打する(笑)。サッカーのフリーキックの壁(ディフェン

整備済み」と紹介されている。熊川から県境尾根までは、一峯遊歩道がある。その上端の山頂から整備された「熊川宿」の全貌が見おろせる、と説明板もある。

遊歩道をたどって県境尾根までは容易だった。ところが尾根上では背丈を越えるスキキの茂みだ。ともかく北へ、と踏み跡を進んだら県境はずして西側の尾根に入ってしまった。元へ戻ろうとしたら、今度はスキ原のなかで遊歩道の上端部がわからないというお粗末さ。テープを追って天増川へくだった。「開発済み」とは、どんな状態をいうのだろうか?

(神戸市 安田憲弘) 7月下旬、元会社の同僚の誘いを受け、15人の仲間と新穂高から西穂高・上高地(2泊3日)を歩きました。

初めて乗った「階建」ロープウェイは、一度に120人運んでくれた。1泊目の西穂山荘はふと一枚で2人という満員。朝には廊下にまで人があふれていた。

ス)のように手でカバーしなくてはならない。いくつもの困難な滝を無事下り、キャニオニングをしたりワタバコの花を愛でたりした。途中、雨に降られたが全身ビショ濡れだけに騒ぎだす人は一人もいなかった。

(向日市 湯浅康夫) 8月早々、奥穂高岳と瀬沢岳へ登った。昨年、槍ヶ岳へ登ったとき、穂高連峰を眺めて浮かんだ夢を実現したものである。しかし、厳しい登山だった。

槍沢ロッジから槍の穂先まで標高差1360mの登りだったのに対し、奥穂高の場合は瀬沢から山頂までの標高差は880mである。槍ヶ岳よりキツイとは考えていなかった。全行程は岩場の連続であり、特にザイテングラードの急登や、穂高岳山荘前からの登りでは杖すら邪魔になるような所が多く、初体験とも言える実に苦しい登山だった。

それ程の思いをして到達した山頂だったが、残念ながら100%の展望を得ることはできな

○新ハイ関西サービスエー

名峰・二岐登山 小倉山・大白山・甲子・那須への縦走基地 1名でも最寄り駅送迎可(要予約) 露天風呂と内湯 福島・二岐温泉 日観連 大和館 〒962-2106 福島市 福島県福島市上原町 二岐温泉 0244-818411 27005	富士登山・富士五湖 東海山自然歩道 (石刺山・ハリモ・純林) 三原山の麓 ペンション コットンテール 〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 0555-6518515	大谷湖・湖中環から湖岸線分岐点 登山・岩屋あり 山梨中央自動車道 車中泊サービス パス20分登山口下車徒歩2時間 山小屋 福ちゃん荘 〒404-0022 山梨県山梨市上原町 2-2-2 電話(自宅) 0553-03314 6339 (山小屋) 030-0141179 215	尾瀬 平ヶ岳探検と釣りの山小屋 徳澤 三山貝園定公園内 清四郎小屋 ほんもの手作りばと売店は 樹海 〒946-1000 新潟県北魚沼郡津川町 1-1-1 電話 090-2553810 028 期間外(11月4月)は 0257912150 26	ハイカーの宿・池の平温泉 ナガサキロッジ 百名山を二つ登れる山小屋 黒沢池ヒュッテ 〒949-12100 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉 電話 0255-8612261	休寝飲食入浴も歓迎 10名以上マイクロボスで送迎 箱根仙石原温泉 館 〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 1-3-9 電話 0460-419041	四季織りなす乗鞍高原のハイイク 上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー けやき造りと味の宿・日観連 温泉旅館 けやき山荘 〒390-11500 長野県南安曇郡乗鞍村乗鞍高原 電話 0263-93125555	さわやか信州 露天風呂 山吹の湯 湯田中温泉(穂波) 日野屋旅館 〒381-0400 長野県下高井郡山内町湯田中温泉穂波 電話 0269-3313578
---	---	--	--	---	---	---	---

かった。東方は常念岳が優美な山容を築き上げてくれ、有名なジャンタルムも眼前に眺めたのであるが、飛騨側から吹き上がった霧の濃い霧のため、北穂や槍ヶ岳などは望めない。1時間半ほど待って見たものの、やはり無理だった。

翌朝は湖沢岳へ登った。霧は晴れず、奥穂への再登頂は諦めて下山することとした。そしてその日のうちに湖沢までくだったので標高差1550mを下降したことになる。両股に激しいこわばりを生じて、宿所では階段の上り下りに手摺にすがって歩く有様となった。

実は昨年も、槍から明神まで標高差1610mを一日でくだって同じ苦しみを体験しており、それ故、今年は下山時にも湖沢泊まりと考えていたのであるが、前記の状況のため同じ轍を踏む結果になってしまったのである。

しかしながら、湖沢側には霧はなかったため、常念岳はもちろんのこと、前穂の二八峰や屏風岩のすばらしい展望を楽しむことができた。

ともあれ、数年前には思ってもいなかった、槍・穂高の登山が実現できた。そして尊敬する脇坂順一先生の「七十歳はまだ青年」を、私なりに実感をもって噛みしめているこの頃である。

(秋方市 東谷 宏)

8月15日、憧れの武奈ヶ岳を目標して、車で3時間走り、リフトとロープウェイを乗り継いで、10時15分、山上駅に降り立った。八雲ヒュッテまで歩いたところで心配していた雨が降ってきたので、山頂は諦めて、もう一つの目的だった温泉散策にたふり時間を費した。人が少ないのいいことに、木道に寝そべって、サギソウ・コケオトギリ・モウセンゴケ・ミミカキグサ等の花を間近に見た。イモリたちの泳ぐ様はとてものどかで、見飽きないものだ。

昼にはいったん晴れ、ゲレンデで昼食をとった後、またのろのろと戻った。アシウスギの根元にはギンバイソウやホツツジが咲き、シロオニタケと思われる

菌もめずらしかった。道の途中で鏡が動いていたので、小枝のけてみたら、赤紫に光るオオセンチコガネが頑張っていた。以前、島ヶ岳で瑠璃色のを見たが、どちらか美しかった。山科や湖南に棲むという緑色のもの、ぜひ見てみたいと思った。山上駅に戻ると、何と山頂は晴れていた。(松阪市 薮木伸人)

夏の例会山行では、毎年日本アルプスを歩いています。私の平素の心掛けが悪いのか、いつも何らかのアクシデントに見舞われ、今年は目的の山の大幅な変更を余儀なくされました。

南アルプス煙草ダムへのバス路線(国道189号が台風6号による被害を受け、通行止めになった)との情報に接したのは山行実施日の1週間前、ほとんど偶然のようなかたちで入手したのだった。

バス会社との最終打ち合わせも終え、山小屋経営の東海フォレストや湯路に浴食予定の赤石温泉白樺荘と細部の連絡もとった直後でしたので、キャンセルの連絡には心苦しいものがあり

ました。とりわけ白樺荘にはバスの待機場所や電話取り次ぎなどという無理まで快諾していただいていただけに、ただひたすら平身低頭でした。

そして、土壇場での計画の全面的な練り直しは、時間とのたたかきという面もあってかなりしんどく、一時は中止の決心までしました。けれど、休暇をとって待っている参加者の皆さんを裏切るわけにはいかないと思ひ直し、サブを引き受けていただいていた狩野さんと山本さんにも励まされ、やっこの思いで北アルプスでの実施にこぎ着けることができました。

それにしても、貸切バスを使用しての山行は、マイカー山行に比べてあまりにも情報が不足しています。そもそも貸切バスで登山口まで入るが、新ハイ例会山行を実りあるものとするためには、これからもコツコツと進めるほかないでしょう。

(各務原市 賢見守康)

山行短歌
6月28日 近江リトル比良

日が沈み日が昇りゆく山脈越え
若者達はシャングリラ目指す
7月11日 四国剣山
かけがえのない夏の捜しに来た
シコクフウロの夏を平原に
7月11日 四国一ノ森
珠子と卓郎の愛の花見ぬままに
シコクシラベの森の霧に濡れ
7月12日 四国三嶺
原野の海に眠るテールサンゴ
7月21日 信州美ヶ原
街逃げ来れば潮騒をとどけ
7月21日 信州美ヶ原
美しの塔の鐘の音鳴りひびき
我等の前に未来限りなく
7月21日 信州八島温泉
印象派の花を散きし風の妖精
もうお眠りよ御射の山小屋で
7月21日 信州霧ヶ峰
ニッコウキスゲの大群落率いて
車山誰がために歌を弾く
7月25日 六甲記念碑台
夏を呼び来し花崗のアジサイは
月光を貯めし花崗のアジサイを奏で
8月8日 四国剣山
月の乙女の涙の粒それとも吐息
8月19日 四国石鎚山
霧を海原に岩を鳥影と見すえ
天狗岳まで船首を突き進め
8月20日 四国東赤石山

青春の時蘇るロックガーデンの
裾野に開くオトメシヤジンよ
(吹田市 木村太郎)

山行短歌
6月20日 鏡山山系
水トンボモウセン吾にアヤマ咲き
6月23日 八尾山・赤石
林道を歩き始めて大きき
柿園の花みんなを止めて
風みどりマイナスイオン爽やかに
ササユリ咲いて夏すぐそこに
ウツボ草白ウツボ愛でおどる道
7月7日 元越谷
ひんやりと沢は明るい花崗岩
ナメトロ流の流水に惚れ
絶景は眼下の樹海伊勢の海
7月21日 元越谷左戻
くそ暑い炎暑猛るは沢登り
まず全身で水とたわむれ
7月27日 緬向山・ヒミズ谷
滝のシャワーずぶぬれになる心
地良き
V字の谷はイワタバコ咲き
8月4日 神崎川・茶屋川沢下り
ぶっかぶか浮輪をだいて茶屋川と
神崎川の流れに乗って

<p>標高2000m雲上の温泉 湯の丸高峰自然休養林 ハイキングにXCSキー 高 峰 温 泉 〒384-0000 長野県小諸市高峰高原 電話 0267-25-2000</p>	<p>ハイキングにスキーに 志賀高原 石の湯ロッジ バス 熊の湯温泉床下車 電話 0269-342421 東京本社・東京都新宿区新宿3 1-20-5 (新光苑2ビル) 朝スポーツサービス 電話 03-3341-0211</p>	<p>標高高原・八方尾根まで車7分 白馬村内全て送迎します スノーシュー&歩くスキー開催 大人たちのベンション 白馬・ヴィヴァルディ 〒399-0930 長野県北安曇郡白馬村湯倉高原 電話 0266-727215 http://www.tyda.jp/~tyda/</p>	<p>塩の道 千国街道 百八十七体「観音原」 ホテル 白馬ブランドシエ 〒399-9300 長野県北安曇郡白馬村いわたけ 電話 0266-72-4452</p>	<p>八ヶ岳南北縦走の中心地 59年秋新館増築完成全館調整 木の香匂う新浴室誕生大湯宿 オーレン小 屋 1泊2食付き 6000円 〒391-0213 4月末・11月末開設 茅野市豊平2720 小車泊大 電話 0266-72-1279</p>	<p>日本百名山の宿 信州戸隠山 森の宿めるへん 高妻山・黒檜山登山口まで送迎 クワカン・コースご案内 〒38-4100 長野県戸隠村越木原 電話 0266-254208</p>	<p>日本唯一の女人禁制の山「大 羊山(宮沢山)の登山口」 宿村「房女人」の登山口あり 温泉・名水の里 旅籠 紀の国屋甚八 1泊2食付 7,000円から 〒638-0431 奈良県野間村天川洞川 電話 07476-410309</p>
---	---	--	--	--	---	---

どきどきめくS字のゴルジュエム
ラルド

8月18日 神崎川沢下り
天狗滝つわものどもはとび込んだ
一期一會か夏の思い出
(近江八幡市 若野 明)

今年の夏の関西は降雨が少なく、農作物に影響を与えたようである。
テレビで気温を見ると、摂氏37度以上を毎日のように目にするようになった。人間の体温より高いのである。振り返ってみると、30年前より、20年10年前とだんだん高く感じるのは、歳のせいだけでない、事実なのである。

間もなくこの暑さに慣らされ、不平が出なくなる恐れがある。今、30年前の山の様子はどうであったかと言っているのでは無い。手の届く最近と比べても変化が激しいのである。山の雪が少ないので、鹿と猪とで棲み分けていた領域が重複し始めた。今まで見なかった昆虫や草花を見かける等、数え上げればきりがない。

先日、自転車郵便局まで出かけた。その時、舗装道路の照り返しが余りにもきついで、たまりかね田の畦へ入る、風があまり照り返しが少ない。余りの違いに驚いたひとときのサイクリングツアーであった。緑に感謝である。
歳だと言われるだろうが、60年の歴史はかけがいのない財産と思っている。これからは間口を広く、昔はこうだったと言いつけたい。
(姫路市 須磨岡 輯)

6月から7月は湖北の山々と西美濃の山へ入りました。横山岳・己高山・カナ山・蕎麦粒山等です。
鈴鹿百山も七割が終わり、次は「美濃の山」と「近江百山」と「二等三角点の山」の三種で山歩きを楽しみたいと思っています。
10〜15人程度で歩きたいと思っていますが、都合のつく方は同行をお願いします。
今年秋からは鈴鹿百山と右記の山行を同時進行していきます。マイカー参加と駅に来れる方との合同は、これまでとさほど変わりありません。行きたい山の具体名がある方は、お知らせください。(南濃町 山田 明)

「小笹の宿の怪？」(66号随想)には私にも似たような体験がある。6年前の秋のこと、単独で河川から山上ヶ岳を経て小笹の宿で日が暮れ、水場で露営したときのことだった。
シュラフにもぐり込むがなかなか寝つかなかった。すると北西の方向からしきりに数人の話し声が聞こえてきた。それは現実の人の声とは思えず、何か霊のようなものが寄り集まってひそひそ話を交わしているようであったが、そのうち賑やかになってきた。
「魅魍魎」という言葉がすぐに浮かんで来た。独りで露営をするとき沢音が人の話し声に聞こえたり、風の音が女の声に聞こえたりする経験はしたことがあるが、いずれも錯覚であると自覚できるものだった。「白雪姫と七人の小人」のその七人の小人たちが愉快そうに不可解な会話をしているような晩秋の

九州の最高峰 日本百名山
宮之浦岳(一番近い宿)
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県毛尾町安房
09974463021

御在所登山口
愛知川溪谷沢歩きに
山好き仲間が集う宿
朝明溪谷
山小屋 朝明茶屋
〒510-1251
三重県三重郡野町千草
059319311789

那岐山麓の岨近くは身名山
二百名山の水ノ山・上山などあり
三百名山 那岐山のふもと
岡山県 那岐山荘
〒708-1307
岡山県勝田郡奈義町高円
086813614154

夜の怪に、あれは「魅魍魎」なんだと自分を納得させるのが精一杯だった。
(茨木市 尾家建生)

山行計画 (11・12月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はお断りします。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(安田火災海上保険会社と契約)

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円
日額	5000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例) (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名(正確に記入すること)

期日

住所 干

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

① 台高・高見山(一般向き)

期日 11月3日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分 ②近鉄橋原駅9時05分
コース 橋原駅(バス)高見山登山口・小峠・大峠・高見山・高見杉・下平野(バス)橋原駅(解散16時19分)
費用 約5700円(名古屋から)
地図 2万5千1121
申込み ◎小出良春 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
台高山脈の北端、三重・奈良県境にそびえる高見山は、雄麗な山容と眺望のすばらしさで人気がある。雨天中止

近畿百名山に登る(第46回) 若狭・野坂岳(一般向き)
期日 11月3日(日) 日帰り
集合 JR敦賀駅9時30分
コース 敦賀駅(タクシー)登山口トチの木地蔵・行者岩 野坂岳 P799頁

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込みされた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。
記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。
(初心者回) やさしいコース
(初級回) どなたでも歩けます
(一般回) ハイキングの標準コース
(中級回) かなり経験者のコース
(やや健脚回) ・(健脚回) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

一鉄塔遊視路一菜谷山
集落(タクシ) 散置駅
(解散16時00分)

費用 約6000円(京都から)
地図 2万5千:散置
係 ◎村田智俊 ○高比良
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

御池の池を巡る自然探査山行16
(中級向き)
期日 11月4日(日) 日帰り
集合 ①JR関ヶ原駅8時25分
②三岐西野尻駅8時35分

コース 各集合(車) コグルミ
谷一長命水一カタクリ峠
一幻池一丸山一ボタンブ
チー池通り一鈴北岳一鞍
掛峠一関道一コグルミ谷
(解散)
費用 交通費各自(車台1000
0・5000円)
地図 2万5千:藤立
係 ◎山田明男 ○高原芳彦
申込み 〒503-0535

海津郡南瀬野松山624の19
山田明男まで
*定員20名
*マイカー参加の方はそ
の旨記載ください
*集合場所を明記ください
山頂部の黄葉は終わりましたが、
中腹の黄葉を楽しみましょう。
雨天中止

ファミリーハイク18
飛鳥・御蔵裂山から石舞台
(一般向き)
期日 11月7日(日) 日帰り
集合 近鉄桜井駅南口バスのり
ば9時00分
コース 桜井駅(バス) 談山神社
一草在峠一多武峰一西大
門一御蔵裂山一菜師堂一
石舞台古墳一高松塚一近
鉄飛鳥駅(解散)
費用 約1700円(大阪から)
地図 2万5千:歌勢山・古市
場

係 ◎木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
秋風が紡いだす悠久の物語に思
いを馳せて、上代史の舞台となっ

た飛鳥路を巡り歩く。雨天中止
自然観察山行103
湖北・ブンゲン(一般向き)
期日 11月9日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス) 奥伊吹ス
キー場駐車場一リフト終
点一ブンゲン一鳥又峠一
奥伊吹スキー場駐車場
(バス) 大垣駅(解散)
費用 約3500円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千:横山
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 鷺見守康まで
*定員30名
少し前までは残雪期しか登れな
い玄人好みの山でした。小雨決行
比良を歩く17
シンジ谷から堂満岳(中級向き)
期日 11月10日(日) 日帰り
集合 JR比良駅8時45分
コース 比良駅(バス) 比良リフ
ト前一シンジ谷一北比良
峠一八雲ヶ原一コッパ谷
一金葉峠一堂満岳一堂満

東稜車一ノタノホリーイ
ン谷口一比良駅(解散17
時00分)
費用 約1700円(京都から)
地図 2万5千:北小松・比良
山
係 ◎文社社「比良山系」
康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
多彩な紅葉のシンジ谷。シンブ
ルな黄葉の堂満岳東稜。秋色が満
喫できるかどうかは天気次第です
クサリ場・ガレ場あり(本誌55号
参照)。雨天中止

鈴鹿吉山36
水無山・綿向山・竜王山
(健脚向き)
期日 11月10日(日) 日帰り
集合 ①近鉄湯の山温泉駅7時
25分②日野町北畑口バ
ス停8時30分(近江八幡
駅南口バス停7:20発で、
日八線)
コース 近鉄湯の山温泉駅(車)
北畑口(車) 水木野登山
口一水無山一綿向山一奥
の平一竜王山一西明寺

(車) 北畑口(車) 近鉄
湯の山温泉駅(解散17時
頃)

費用 交通費各自(車代1000
0円)
地図 2万5千:日野東部
係 ◎山田明男 ○高原芳彦
申込み 〒503-0535
海津郡南瀬野松山624の19
山田明男まで
*定員20名
*マイカーの方はその旨
記載ください
*集合場所を明記ください

日野町の高峯、綿向山へ11月10
日の「綿向山の日」に登ります。
表登山道の湿葉を避けて水無山か
ら竜王山まで回ります。雨天中止

京都北山・貴船山から鞍馬山
(一般向き)
期日 11月10日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時15分②JR山科
駅8時45分③散置出町
駅9時10分
コース 山科駅(電車) 京阪三条
駅(電車) 散置出町駅
(電車) 二ノ瀬駅一ノノ

瀬ユリ一橋ノ水峠一貴船
山一渡合峠一貴船神社一
鞍馬山一散置鞍馬駅(解
散15時30分)

費用 約5400円(名古屋か
ら)

地図 昭文社「京都北山」
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合場所を明記ください
鞍馬山は木の根道で知られる参
道も歩きます。雨天中止
鈴鹿を歩く155
頭陀の窟・御池岳奥の平
(健脚向き)
期日 11月10日(日) 日帰り
集合 御池林道・小文谷分岐広
場8時30分
コース 分岐広場一小文谷林道
ノタノ坂一土倉尾根一真
ノ谷一頭陀の窟一真ノ谷
一東のボタンブチ一奥の
平一ノ字尾根一御池林道
一広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「霊仙・伊吹・
藤原」

平日ふれあいハイク35
京都北山
枚敷ヶ岳から城丹尾根
(一般向き)
期日 11月12日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅前京
都バスのりば7時30分
(41分発に乗車/出町柳
駅発は7時28分)
コース 北大路駅(バス) 岩屋橋
一西谷一岩茸山東一枚敷
ヶ岳一ナベクロ峠一城丹
尾根一飯森山一天童山一
茶臼峠一鳴堂一山国(バ
ス) 周山(バス) 京都駅
(解散19時00分)
費用 約2100円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
◎寺井恒夫 ○川上久堅

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
雲ヶ畑から枚敷ヶ岳に登り、城
丹尾根を茶臼峠へ歩きます。少し
長めです。*出町柳駅から乗車の方
はその旨記入ください。
雨天中止

自然観察山行104
静岡・愛鷹連峰と浜石岳
期日 11月15日(日) 17日(日)
前後夜発一泊2日
集合 (15日) JR岐阜駅23時
00分
コース (15日) 岐阜駅(バス)
(16日) (バス) 十里木
高原一越前岳一呼子岳一
鶴岳一位牌岳一檜尾岳一
愛鷹山一沼津市柳沢(バ
ス) 由比町(泊)
(17日) 由比町(散置) (バ
ス) 由比川河川敷駐車場
一浜石岳一由比川河川敷
駐車場(バス) 岐阜駅
(解散)
費用 約24000円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
雲ヶ畑から枚敷ヶ岳に登り、城
丹尾根を茶臼峠へ歩きます。少し
長めです。*出町柳駅から乗車の方
はその旨記入ください。
雨天中止

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
雲ヶ畑から枚敷ヶ岳に登り、城
丹尾根を茶臼峠へ歩きます。少し
長めです。*出町柳駅から乗車の方
はその旨記入ください。
雨天中止

地図 昭文社「富士・富士五湖」

係 2万5千=瀬原
◎鷺見守康
申込み 50410828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名(10月21日まで)

最高峰の越前岳から岩稜帯の絶頂、二百名山の愛蔵山へと愛蔵連峰を縦走し、翌日は浜石岳から富士山と駿河湾の展望を楽しみます。雨天決行

湖東・イワス山から比婆之山(初級向き)
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 JR彦根駅9時30分
コース 彦根駅(タクシー)→仏生寺→イワス山→比婆之山→イワス山→近江鉄道鳥居本駅(解放)

費用 交通費各自
地図 昭文社「雲仙・伊吹・藤原」
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

琵琶湖、鈴鹿方面の展望に優れたイワス山は晩秋にびっぴりの山。比婆之山はピストンなので希望者のみ。天気が良ければ昼寝も楽しめます。*マイカーで仏生寺集落へ集合も可。希望者はマイカー参加と記入ください。雨天中止

若狭・千石山(初級向き)
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 福井県上中町役場9時30分
コース 上中町役場(車)→瓜割の滝→林道終点→北尾根→千石山(往路)→瓜割の滝(解放)

費用 交通費各自
地図 2万5千=遠敷
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

瓜割の滝から林道をつめ、ミズナラ・ブナの続く北尾根を千石山へ往復します。雨天決行

期日 11月16日(日) 日帰り
集合 道の駅「奥伊勢おたのしみ」8時00分
コース 道の駅(車)→宮川村・小滝(車)→八知山林道迷岳

登山口→第一登山口→稜線→口迷岳→迷岳→口迷岳→登山口(車)→小滝(車)→道の駅「奥伊勢おたのしみ」(解放16時頃)

費用 1500円
地図 2万5千=七日市・江馬
申込み 51910311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

*マイカー(四駆)山行
八知山林道は普通乗用車での走行は無理ですので、誘い合せて参加ください。雨天決行

岳分岐一夜叉ヶ池 登山口駐車場(解放)

費用 交通費各自
地図 2万5千=横山・冠山
申込み 50310535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで

*定員10名
*マイカー山行(同乗希望者は前もって保まで連絡ください)

美濃の山第一回目は黒壁の別名がある「高丸」です。西美濃第三位の高峰で三周ヶ岳の南に位置しますが、登山道はありません。山頂まで5時間を想定。帰りに時間があれば三周ヶ岳へも寄りたいたい。雨天中止

中国自然歩道4
若杉原生林(一般向き)
期日 11月17日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅西口改札付
近7時30分
コース 西明石駅(バス)→峰越峠→江波峠分岐→三草境→若杉峠→若杉原生林研究路→若杉駐車場(バス)→西明石駅(解放19時頃)

費用 約4500円(西明石駅からバス代等)

地図 2万5千=西河内
申込み 67510112
加古川市平岡町山の684
の33・17A403
古賀慶二まで
*定員24名

静かに冬の眠りにつく前の若杉の森を、そとと訪ねてみます。コース変更あり。雨天中止

鈴鹿・三子山(一般向き)
期日 11月17日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口7時25分/②JR関駅9時15分
コース 関駅(バス)→伊勢坂下→鈴鹿峠→鉄塔→三子山(南峰・中峰・北峰)→鈴鹿峠(バスかタクシー)→関駅(解放15時30分頃)

費用 約3400円(名古屋駅から約30分)
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください

鈴鹿峠から三子山までよく踏まれた道を往復します。雨天中止

大峰・扇形山(一般向き)
期日 11月17日(日) 日帰り
集合 近鉄下市口駅9時10分
コース 下市口駅(タクシー)→川戸→片透→カヤ小屋跡→第一鉄塔→扇形山→小南峰→松ヶ茶屋跡→河分神社(タクシー)→下市口駅(解放16時頃)

費用 約4800円(大阪から)
地図 昭文社「大峰山脈」
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ほとんど植林に囲まれた山ですが、一部雑木林の尾根があり、紅葉を楽しめます。小南峰からの下山は長い林道歩きです。雨天中止

美濃の山1
高丸(超健脚向き)
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 坂内村池ノ又林道奥夜叉ヶ池登山口駐車場5時30分(前夜泊の人は15日(日)同地へ21時まで)

コース 登山口駐車場→尾根取付点→稜線→高丸→三周ヶ岳

費用 約3000円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」
申込み 56911133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで

晩秋の奥比良を歩きます。時間があれば、北比良峠からイン谷口まで歩いて下山します。希望の人には案内します。雨天中止

集合 JR京都駅8時17分発に乗車

コース 京都駅(電車)→近江高島駅(バス)→畑地蔵岳→ツルヶ岳→細川越→イブ

ルキのコバ→八雲ヶ原→北比良峠→ロープウェイ→山上駅(ロープウェイ・リフト)→山麓駅(バス)→比良駅(解放)

費用 約3000円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」
申込み 56911133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで

地図読み山行54
金剛・府山(一般向き)
期日 11月23日(日) 日帰り
集合 南海高野線千早口駅9時40分
コース 千早口駅→養神林道→尾根出合→府山山→十字峠→林道→蟹井八幡神社→天貝駅(解放)

費用 約1200円(なんば駅から)

地図 2万5千=金剛山・岩湧山
申込み 53610008
大阪市城東区関目4の14の9の901 塚元一彦まで
*定員30名(10月27日まで)

新ハイキング関西支部合同山行
金剛山の一角を歩いて紅葉を訪ねる山行です。初心者歓迎。シルバード型コンパスを持参ください。雨天中止

三重・高峯山(一般向き)
期日 11月23日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②近鉄松阪駅8時05分
コース 松阪駅(バス)→七日市→大塚堤→高峯山→共同アソナナ→七日市(バス)→松阪駅(解放16時30分頃)

費用 約5500円(名古屋から)

費用 約5500円(名古屋から)

地図 2万5千7日市・菅野
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
香嵐富士とも川俣富士とも呼ば
れている山で、山頂からは三峰山・
栗ノ木岳・局ヶ岳・迷岳が間近に
望めます。雨天中止

鈴鹿を歩く156
銚子ヶ口・黒尾山・鹿戸山

期日 11月24日(日) 日帰り
集合 紅葉の神崎川橋広場8
時30分

コース 神崎川橋広場(車) 風越
谷林道広場→モノレール
道→銚子ヶ口→黒尾山→
鹿戸山→紅葉尾(緑野散
歩)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
眺望を楽しみながら銚子ヶ口か

ら黒尾山・鹿戸山と続く長大な秘
境の秘境を歩きます。雨天中止

京都北山歩き105
茶吞峠から東俣山(一般向き)

期日 11月24日(日) 日帰り
集合 J R京都駅八条口団体バ
スのりば8時00分
コース 京都駅(バス) 山園一電
ヶ坂→鳴堂→茶吞峠→東
俣山→カモチ谷→殿橋→
周山(バス) 京都駅(解
散16時30分)

費用 約3500円(バス代)

地図 昭文社「京都北山1」
係 ◎中西信行
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
ゆるやかな道ヶ坂→鳴堂を経て
茶吞峠から東俣山の尾根を歩きま
す。雨天中止

北山ちよつと歩き39
菅生・ブナノ木峠(一般向き)

期日 11月27日(木) 日帰り
集合 J R京都駅八条口団体バ
スのりば7時00分

コース 京都駅(バス) 地蔵峠→
中山→ブナノ木峠→ヶヶ

キ坂 中山→長谷谷→地
蔵峠(バス) 京都駅(解
散)

費用 約3500円(バス代)

地図 昭文社「京都北山2」
係 ◎真山繁三
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
紅葉の原生林のなか、古木を見
ながらゆっくり歩きます。
雨天中止

播磨・笹ノ丸と三久安山
(中級向き)

期日 11月30日(土) 12月1日(日)
1泊2日

集合 (30日) J R姫路駅南口
バスターミナル9時10分
コース (30日) 姫路駅(バス)
山崎→笹ノ丸→上牧谷
尾根→笹ノ丸→上牧谷
(バス) 福地溪谷休養セ
ンター(泊)

費用 約12000円(バス・
宿泊代等)

地図 2万5千 音水湖・戸倉
峠
係 ◎須藤 樹
申込み 〒677-1126

姫路市余部区上余部50の
2の11 須藤 樹まで
地元の案内人としか行けない山
域。少し冒険する楽しい2日間。
雨天決行

自然観察山行105
美濃・二ツ森山と奥三栗岳
(中級向き)

期日 11月30日(土) 12月1日(日)
1泊2日

集合 (30日) J R岐阜駅9時
00分

コース (30日) 岐阜駅(バス)
切越峠→北のビーク→二
ツ森山→二ツ森林道登山
口(バス) 中津川(泊)

費用 約21000円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)

等)

地図 2万5千 美濃福岡・三
留野・奥三栗岳

係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828

各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名(10月30日ま
で)

二ツ森山から真木曾の山々の風
望を楽しみ、翌日は三百名山の奥
三栗岳に登ります。雨天決行(コ
ース変更あり)

尾張・鳩吹山から経る尾山

(一般向き)

期日 12月1日(日) 日帰り
集合 J R名古屋駅中央改札口
7時52分

コース 名鉄新名古屋駅(電車)
可児川駅→大徳登山口→
鳩吹山→熊鷹尾山→犬山
遊園駅(電車) 新名古屋
駅(解散15時頃)

費用 約1400円(新名古屋
駅から)

地図 2万5千 美濃関・美濃
加茂・犬山・小泉

係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

小ビークのアップダウンが続く
尾根道から、名勝日本ラインを見
て歩きます。雨天中止

ファミリアハイク19
紀泉・一徳坊山から若湯山
(中級向き)

期日 12月5日(日) 日帰り
集合 南海高野線三市町駅8
時50分

コース 三市町駅→三市町駅筋
(バス) 南ヶ丘→中山谷
→一徳坊山→福立山→若
湯寺→若湯山→三本目→

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「金剛山・若湯
山」

係 ◎木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

鎌尾根の一徳坊山から草原の美
しい岩湧山の縦走。元気に歩け
た一年に感謝を捧げて。雨天中止

週末ハイク45 忘年登山行
京都西山

小塩山からボンボン山
(一般向き)

期日 12月7日(日) 日帰り
集合 阪急東向日駅8時30分
(J R向日町駅から西へ
徒歩5〜7分)

コース 東向日駅(バス) 南春日
町→小塩山→ボンボン山
→善峰寺→光明寺(解散・
阪急長岡天神駅、J R長
岡駅へバスあり)

費用 約400円(東向日駅か
ら)

地図 昭文社「京都西山」
係 ◎狩野東彦
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

兵庫北部・西床尾山(一般向き)

期日 12月8日(日) 日帰り
集合 J R西明石駅西口改札付
近7時30分

コース 西明石駅(バス) 西床尾
山登山口→西床尾山→東

床尾山→糸井の大カッター
(バス) 西明石駅(解散
19時頃)

費用 約4500円(西明石駅
から)

地図 2万5千 出石・直見
係 ◎古賀慶一
申込み 〒675-0112

加古川市平岡町山上の88
の33・17A403
古賀慶一まで
*定員24名

うっすらと新雪(願望)の来た
頃訪ねます。雨天中止

鈴鹿を歩く157
三池岳・お菊ヶ池(健脚向き)

期日 12月8日(日) 日帰り
集合 紅葉の神崎川橋広場8
時30分

コース 広場(車) 八風谷林道→
八風峠→三池岳→お菊ヶ
池→三池岳→八風谷林道
広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

係 ◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

城陽市寺田大群10の10

城陽市寺田大群10の10

城陽市寺田大群10の10

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*マイカー山行
鈴鹿を代表する古い八風街道を登り、八風峠から三池岳・お菊ヶ池とめぐり、中峠から八風谷林道にくぐります(30号57・58ページ参照)。雨天中止

南山城・神童子越から海住山寺(一般向き)
期日 12月8日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時35分/②JR奈良線橿原駅9時50分
コース 橿原駅→神童子寺→山城国分寺跡→海住山寺→加茂駅(解散14時30分頃)
費用 約4300円(名古屋から)

地 図 2万5千1田辺・奈良
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
古来、山城から伊賀上野への往還路であった神童子越と、恭仁京のあった瓶ノ原を一望のもとに見下ろす海住山寺に登る。雨天中止

比良を歩く18
鹿ヶ瀬道から
岩阿沙利山・音羽山(一般向き)
期日 12月8日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分
コース 近江高島駅(バス)鹿ヶ瀬道→音羽山→鳥越峠→音羽山(見張山)→音羽山
近江高島駅(解散16時頃)
費用 約2100円(京都から)
地 図 2万5千1北小松・磯野
係 昭文社「比良山系」
◎秦 康夫

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
音羽山の、単調で退屈な長い稜線を歩きます。雨天中止

近畿百名山に登る(第47回)
鈴鹿・入道ヶ岳(中級向き)
期日 12月8日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時30分
コース 京都駅(バス)宮妻峽→P713峠→北の頭→入道ヶ岳→北尾根→椿大神社(バス)京都駅(解散18時30分頃)

費用 約3500円(バス代)
地 図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 ◎村田智俊
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
宮妻峽から北の頭に登り、展望広大な入道ヶ岳の草原でのんびりします。雨天中止

平日水曜ハイイク59
私市
くろんと園地からほした園地(初級向き)
期日 12月11日(日) 日帰り
集合 京阪河内森駅前(JR河内磐船駅より5分)8時30分
コース 河内森駅→獅子窟展望台→王の墓→くろんと園地→くろんと池→磐船神社→ほした園地→星のプランコー園地内昼食忘年会→私市駅(解散)

費用 交通費各自
地 図 2万5千1枚方・生駒山
係 ◎湯浅次男 ○青木一雄
申込み 〒569-1133
高槻市川西町1の18の20

湯浅次男まで
昼食はのんびりと野外忘年会を行います。食料は各自で。雨天中止

忘年会山行
奈良・伊那佐山から井足岳(一般向き)
期日 12月12日(日) 日帰り
集合 近鉄原田駅南口9時15分
コース 原田駅(バス)比布一竹橋→檢校分岐→登山口→伊那佐山→峠→井足岳→音無川→五原味→墨阪神社→檉原駅(電車) 鶴橋駅→焼き肉店パンブハウス(忘年会)
費用 約2000円(大阪から)

地 図 2万5千1初瀬・古市場
係 ◎西上利和 ○中村英雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
標高の低い山ですが、山頂まではよく整備された道で歩きやすく、井足岳までは雑木林のやせ尾根やアップダウンもあり、結構楽しめます。山行後は忘年会します。希望の方は忘年会参加と記入してください

ださい。小雨決行

自然観察山行106
美濃・西台山(一般向き)
期日 12月14日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス)のりこし峠→西台山のりこし峠(バス)大垣駅(解散)
費用 約3500円(大垣駅からバス代等)
地 図 2万5千1谷汲
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員30名
かつてのヤブ山で、自然林の静かな山です。下山後は希望者で忘年会を開催します。小雨決行

湖北・文室山(初級向き)
期日 12月14日(日) 日帰り
集合 JR近江塩津駅9時40分
コース 近江塩津駅→国道8号線→西尾根→文室山(往路)→近江塩津駅(解散)
費用 交通費各自
地 図 2万5千1木之本
係 ◎高島伸浩

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
国道8号線を北へ、からJRを沿り、鉄塔巡視路の西尾根を文室山へ往復します。雨天決行

北摂・高岳(一般向き)
期日 12月15日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②能勢電鉄日生中央駅10時20分
コース 日生中央駅(バス)杉生→猪名川変電所→猪名川不動尊→高岳1700峰→森上(バス)山下駅(電車) 阪急川西能勢口駅→JR川西池田駅(解散17時頃)
費用 約3600円(青春18きっぷ使用名古屋から)
地 図 昭文社「北摂の山々」
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
送電線沿いの尾根に登るにしたがって開けてゆく展望と静かな樹林の山です。雨天中止

鈴鹿百名山37 忘年会山行

水島岳(健脚向き)
期日 12月15日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅8時25分
コース 近鉄湯の山温泉駅(車)伊勢谷小屋→伊勢谷道→根の平峠→水島岳→根の平峠→伊勢谷小屋(忘年会・車)近鉄湯の山温泉駅(解散16時頃)
費用 交通費各自(車代500円)・伊勢谷小屋使用料500円
地 図 2万5千1御在所山
係 ◎山田明男 ○高野芳彦
申込み 〒503-0535
海津郡南濃町松山62の19 山田明男まで
*定員30名
*マイカー参加の方はその旨記載ください(マイカー参加の方は禁酒)

今年の忘年会山行は根の平峠から水島岳まで往復し、お昼を伊勢谷小屋でとりますが、今年も焼き肉でよいでしょうか? 雨天決行

北山ちよっと歩き40

沓掛山から大枝ノ山(一般向き)
期日 12月18日(日) 日帰り
集合 阪急嵐山線上桂駅8時00分
コース 上桂駅→衣笠山→唐櫃越→道→沓掛山→西山堂園→首塚明神→大枝ノ山→外大グラウンド→洛西高校前バス停(解散14時30分頃)
費用 約1500円(大阪から)
地 図 昭文社「京都西山」
係 ◎呉山繁三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
沓掛山から、源頼光の鬼退治にちなむ酒呑童子の首塚明神を通り、大枝ノ山に至る。鉄塔からは愛宕山の展望がよい。雨天中止

近畿百名山に登る(第48回)
忘年会山行
丹後・磯砂山と太鼓山(一般向き)
期日 12月22日(日) 23日(祝) 1泊2日
集合 ①22日 JR京都駅八条口団体バスのりば7時30分

山行報告
(7・8月号)
新ハイキングクラブ誌

越美・金草岳(自然観察山行)99
7月6日(出) くもり時々雨

(集合) J R大垣駅 8・40〜50
(バス) 冠峰11・00―松尾峠12・35
(昼食) 13・05―撤収 冠峰15・10
40(バス) 大垣駅18・30(解散)

大垣から本格的な雨。冠峰で雨はやんだが、台風5号の影響で山は激しい風。稜線で強風にあおられ、白倉岳の手前で撤退した。金草岳は来年再行したい。
(参加者) 石田高教 伊藤喜久男 伊藤 直 緒方由子 萩野美紀恵 沖 伸 川島勝美 六戸喜久江 栗柄康幸 栗柄有子 船木裕巳子 後藤康幸 澤田高治 谷 久雄 徳田暢子 中井幸子 森本眞智子 中村幸子 夏山春子 望月千代子 細野欽也 堀田勝子 武藤由美子 村井和子 三浦 勝 三浦真左子 中尾相子 藤本桂吉 吉岡美津香
○鳥居信吾 ○山本寛治

◎鷺見守康 (計32名)

大峰・五番関から吉野山 (週末ハイイク4)

7月6日(出) 晴れ
(集合) 近鉄下市口駅 9・15(タクシー) 五番関トンネル西口10・15
30―五番関10・45―50―大天井11・25―40―百太郎尾跡12・45
14・00―四寸岩山14・15―20―青根ヶ峰15・20―35―高城山展望台16・05―15―近鉄吉野駅17・10(解散)

雨の予想に反して梅雨の晴れ間となり、緑陰とさわやかな風に恵まれた。大天井岳からは二上山から大和葛城山・金剛山が全望でき、青根ヶ峰までの稜線からは大日岳雲のかかった山上ヶ岳、ピラミダルの高見山などの眺望にも恵まれた。
(参加者) 吉植 清 草野智雅子 蓮井洋子 秋田楠師 巻田 晃 小松志信 中川光郎 眞田久子 青木 一雄 宮本真幸 宮本悦子 小林 桂 岩越利明 船越みよ子 松村雅子 岩鶴健司 加納由紀子 大村俊子 鷹巣 邦 吉本泰之 水谷鉄治 森本幹雄 三井絃一

水谷陽子 美村孝治 山本京子 馬龍中男 岩田育士 瓜坂利明 入江武史 山根弘美 勝元益次郎 原 文字 栗岡克子 池田 茂 本家洗子 ○加藤元彦 (計38名)

◎狩野東彦 (計38名)

元越谷(鈴鹿を歩く147)
7月7日(出) くもりのち晴れ
(集合) 国道477号線元越谷林道土煎分岐 8・20―元越谷分岐 8・50―元越谷9・20―大滝9・45―伏谷分岐10・20―伏谷分岐分岐11・10―源流11・40―大岩テラス12・10(昼食) 13・00―仏峠13・20―猪足谷林道13・50―広場15・30(解散)

沢に入るとひんやりとして生き返った。泳ぐ人もあり、明るい花崗岩のナメ・トロ・滝の水流を心ゆくまで楽しんだ。大岩のテラスは最高、涼風のなか眺望を楽しみながら昼食。下りもさわやかな風のなかで、思い出の山並を眺めながらの楽しい山行となった。
(参加者) 湯浅康夫 的場たか子 樫田勝美 後藤康幸 奥野太一郎 大石将英 神野孝允 網本美恵子 栗本敏夫 小林 稔 石田貞由美 谷 守 黒田豊年 武村千鶴

水谷俊之 ○山田景三 (計17名)

◎岩野 明 (計17名)

河内・一徳防山
7月7日(出) 晴れ
(集合) 近鉄・南河内長野駅10・15(タクシー) 中目野10・37―旗振山11・45―一徳防山12・37(昼食) 13・15―編笠山14・22―岩湧寺14・45―神納16・30(バス) 河内長野駅16・55(解散)
一徳防山の山頂は西側がガレてすっぽりと切れ落ちていて、山名プレートがなければわかりにくい山だった。岩湧寺は樹齢四百年以上といわれる杉に囲まれ、流石が寄進したという多宝塔には歴史を感じた。

(参加者) 小田潤子 吉藤孝次 若林文夫 川田洋子 藤本桂吉 小崎富織 上田政子 岡本美千子 中村英雄 永富律子 小崎由利子 徳田暢子 白根清子 市野博文 多智周二 多賀久子 中尾美智子 和田直樹 ○福岡 章 (計20名)
◎小出良春
伊勢・獅子ヶ岳 (近畿百名山に登る40回)
7月7日(出) 晴れ一時にわか雨

(集合) 近鉄大和八木駅北口 8・00〜10(バス) 伊勢道玉城インター

10・20―基幹林道ルネッサンスの森小森ルート11・00〜10―ノ瀬峠11・40―獅子岩11・45(昼食) 各自獅子ヶ岳往復) 12・45―ノ瀬峠12・50―1日の山の森分岐13・00―展望小森13・30―40―1日の山の森駐車場13・50―14・00(バス) 弘法温泉15・20(入浴) 16・30(バス) 近鉄・J R天理駅18・40(解散)

小型バスと10人乗りハイエースをレンタルして行った。山頂手前の獅子岩では雄大な展望を楽しんでゆっくりくつろいだ。注連指コースから分岐する日の出の森への狼谷コースは、遊歩道並みの快適な道だった。帰路、弘法温泉で汗を流した。
(参加者) 小谷和子 松上美代子 速水 保 堀尻香織 佐野信江 宮西和子 片山克博 片山真代子 近藤孝子 青木 一雄 中嶋日出男 角田 一江 上田久子 中西美也子 栗柄有子 沖 伸 前川和佳子 中谷幸子 三井絃一 川上真代子 島田京子 山高義治 山高多恵子 奈良邦子 鶴見和子 宮村孝次郎 美村孝治 三輪直文 辻村幸裕

金沢咲子 ○安倉正勝 ○呉比佐裕美 ○村田智俊 (計32名)

金剛・葛城山から紀見峠駅 (タイトトレ2)

7月8日(出) 晴れ時々くもり・雨
(集合) 近鉄御所駅 8・10―11(バス) 葛城ロープウェイ前 8・30―40―葛城山ツツジ園 9・50―金剛山11―や園地12・15(昼食) 12・45―中葛城山―神福山―行者杉峠14・10―南海紀伊赤松駅15・40(解散)

金剛山一の鳥居あたりから雨にたたられるが、次第に晴れて、初夏とは思えないほど涼しくなり、快調に歩いた。長丁場の達成感を十分に味わうことができた。
(参加者) 木村 豊 古川裕子
◎西上利和 (計3名)
吉野・四寸岩山
7月9日(出) くもり
(集合) 近鉄大和上市駅 8・50―9・10(タクシー) 高原・福源寺 9・30―40―高原山10・35―50―四寸岩山12・10(昼食) 13・00―青根ヶ峰14・15―20―金草津14・30―高城山14・45―50―水分神社15・00(解散)

南海上に大型台風と、気象条件はよくなかったが、幸い一時的な雨ですんだ。さわやかな風が暑さを和らげ、高原からの急登と、四寸岩山からの展望を楽しみ、奥駆道歩いた。快適な山行で、今後の山行に自信をもった人も...

(参加者) 石田高教 井上由紀晴 若林文夫 永富律子 鶴尾健治 磯部 純 川上久堅 千葉千枝子 森本幹雄 今村 悟 中尾美智子 押本吉生 井藤止昭 成川みさお 吉野 房 諏訪敏子 堅田美奈子 山本博子 吉本直子
◎前川和佳子 ◎亀本廣治 (計21名)

鈴鹿・那須ヶ原山から油日岳
7月14日(出) 晴れ
(集合) J R関駅 9・15―30(タクシー) 坂峠10・10―唐木山口・00―三ツ頭山11・30―那須ヶ原山11・50(昼食) 12・30―三國岳14・05―油日岳14・50―15・00―栢植駅17・18(解散)
坂峠から栢植駅への林道に出るまではアップダウンの連続で、かなりのロングコースになってしまった。鈴鹿南部の主稜線を踏破したにもかかわらず、だれにも出

会わない山だった。
(参加者) 西原裕子 六戸喜久江 岩田育士 若林文夫 岸 すみ子 小林 稔 藤崎洗石 大石将美 水戸鉄治 池田 茂 岡本美千子 速水 保 奥田則夫 緒方由子 脇田和洋 磯野重治 光川 美子 光川佛史 長沢佑美 川中 保
◎美村孝治 ○福岡 章 (計23名)
◎小出良春
比良・奥の深谷から堂湯岳 (平日ふれあいハイイク33)
7月18日(出) くもり
(集合) 京阪出町柳駅 7・35―45(バス) 坊村 8・45―9・00―牛コバ9・52―大橋小屋11・25―金養峠下12・00(昼食) 12・40―1室溝岳13・30―40―ノノタノホリ15・15―イン谷口15・50(解散バス) J R比良駅
蒸し暑い一日でたっぷり汗をかきました。昨日は雨、今日も山歩きを終えるの季節も雨となり、山歩きをした。間だけ天候に恵まれた山行でした。
(参加者) 辻田詞子 井上由紀晴 中島信子 中村英雄 市野博文 本間 隆 加納健生 加納愛子 尾尾 正 大橋元造 小林伊予子

長沢佑美 角江朝子 堅田美奈子
三好茂弘 龍尾徳治 宮村孝次郎
菅生孝子 竹田登英 中嶋日出男
○川上久堅 ◎寺井恒夫(計27名)

北アルプス
白馬岳・雲倉岳・朝日岳
(自然観察山行94)

7月19日(昨夜)22日(朝)
前夜発2泊3日
(19日)(集合) J R岐阜駅23・
00(バス) 4・45(朝食)6・00(白馬岳7・
00)10・10(飯平9・45)10・00(村
宮頂上南谷日)20(泊)
(21日) 雨のち晴れ 村宮頂上宿
舎6・10(白馬岳6・40)45(三
園境)7・20(30)雲倉岳避難小屋
9・10(30)雲倉岳10・20(25)
ガレ手前山12(朝食)11・45(1
小坂ヶ原水場12・50)13・00(白
馬水車道水場13・55)14・10(朝
日小屋15・20(泊)
(22日) くりのち雨 朝日小屋
5・30(朝日岳6・20)30(青サ
ク8・10)五輪高原8・30(45)
兵場の平11・25(蓮華温泉12・10
(バス) 十郎の湯14・00(入
浴・昼食)15・00(バス) 岐阜駅

19・30(解散)

南アルプス、荒川三山と赤石岳
から変更(せせらぎ参照)。北陸
の梅雨は明けず、3日間とも見晴
らしのきかない天候だったが、北
アを代表するお花畑が延々と続く
縦走路は天上世界の美しさだった。
雨にも負けず、厳しい暑さにも負
けず、蓮華温泉への下りでは、激
しいめぐるみの連続に耐えて歩き
通した。荒川三山と赤石岳は来夏
再計画の予定。
(参加者) 岩田育士 岡田直規
尾崎光子 川島勝美 加納由紀子
高津賢美 小松志信 船越みよ子
後藤康幸 田中 明 船本裕巳子
長尾一令 夏山春子 村井寿和
森本淳子 若松朝子 ○山本宣治
○狩野東彦 ◎鷺見寺康(計19名)

7月21日(朝) 晴れ
(集合) J R黒井駅11・10(タク
シ) 登山口11・30(三尾山東峰
12・30(朝食)13・00(西峰13・
12)三尾山13・22(30)佐佐木13・
15(黒岩峰14・30)40(東山15・
13)25(オートキャンプ場16・17
(タクシ) J R篠山口駅17・05
(解散)

三尾山は昔、山崎があったとい
うことで二つの峰は山崎がながあつ
た。黒頭峰・夏栗山はあまり歩か
れていないのか、下山道は草やブツ
シユに隠れていた。山頂から丹波
の山々が見え、すばらしい一日に
なった。

(参加者) 中谷孝子 斤 すみ子
木村 豊 川田洋子 長沢佑美
村上春代 荒井寛子 若木いすゞ
梅原義明 岡本英樹 森 昌好
藤本桂吉 美村孝治 原文子
入江武史 ○宮下淳一
○小出良春 (計17名)

元穂谷・左保
(鈴鹿を歩く148)
7月21日(朝) 晴れ
(集合) 国道477号線元穂谷林
道三原野場8・10(元穂谷分岐8・
30)元穂谷8・50(大滝9・45)
左保出合10・10(源流12・00)尾
根12・20(朝食)13・20(185
6)14・10(元穂谷林道14・50)
広場15・40(解散)
集合の広場では今年もスイカの
朝市が始まり、すぐに売り切れ。
梅雨が明けて30度を越す猛暑だが、
沢に入ると生き返った。童心にな
り、泳いだりシャワーを浴びて滝

を登ったり。明るい花崗岩のナメ
滝が源流まで続き、暑さ知らずの
極上の夏を楽しむ。スイカのデザー
トもあり楽しい山行となった。

(参加者) 湯浅康夫 奥野太一郎
榎田勝利 永戸鉄治 武村千鶴
大石将美 水谷俊之 光川二葉子
木下朝子 小林 桂 伊藤喜久男
茨木良雄 ○山田慧三
◎岩野 明 (計14名)

中国自然歩道
芦津川コース1・尾根ルート
7月21日(朝) 晴れ
(集合) J R西明石駅7・20(25
(バス) 智頭若桜越峰10・25(35
)狭谷山11・30(芦津川越11・
54(朝食)12・50(分岐13・20)
若杉入口13・30(若杉峰14・00)
ヒレジ谷入口14・50(バス) 波賀
温泉15・40(入浴)16・35(バス
西明石駅18・50(解散)
展望は尾根への登りのみで、時
折現れるフナと大杉に気が休まる。
それにしても、芦津川川越から若
杉峰にかけてはフナが多い。若杉
峰の展望所からは眺めがよかつた。
ヒレジ谷はカットして温泉に直行
した。
(参加者) 上田久子 前田喜久子

西村文男 ○高原秀彦
○山田明男 (計14名)

比良
雄松山荘道から釈迦岳・梅橋滝
(平日水曜ハイク54)

7月24日(朝) 晴れ
(集合) J R京都駅西線7・37
(電車) 近江舞子駅8・20(30)
雄松山荘道9・00(大津ワゴンケ
道合流10・30)釈迦岳11・50(昼
食)12・40(ヤケオ山13・05)ヤ
ケ山14・07(涼峰14・26)梅橋滝
14・55(15・25)北小松駅15・50
(解散)
暑さ厳しく釈迦岳への登りはた
びたび休憩をとる。尾根筋に出て
も風がなくいつもの比良とは違っ
た。海沿いの風に吹かれてこの日初
めてさわやかな気分を満喫した。
(参加者) 大東 哲 井上由紀晴
高木忠夫 馬場昌盛 竹田善英
岩本彩子 岩本健二 千藤千枝子
木間 隆 長尾一令 光川二葉子
奥山隆三 美村孝治 堅田美奈子
市野博文 谷 守 南 ミヤ子
○東山登夫 ◎湯浅康夫(計19名)

7月25日(朝) 晴れのちくもり
(集合) 神鉄大池駅9・30(地獄
谷道取付10・00)谷懸部道12・10
(朝食)12・45(記念碑台13・35
(湯釜台14・15)梅葉茶屋14・35
|紅葉谷|有馬温泉駅16・00(解
散)
清流の谷をつめ、アジサイ道の
ノースロードから記念碑台へゆっ
くり歩いた。縦走路を梅葉茶屋へ
出て、涼感たよう紅葉谷に下山
道を変更し、有馬温泉へおれた。
(参加者) 河本英機 河本美千子
柳川常雄 中村英雄 井上由紀晴
岩城豊子 眞田久子 田所真里子
平敏英子 青木一雄 ○中村友昭
◎木村太郎 (計12名)

ホサビ山から平屋富士
(京都北山歩き103)
7月28日(朝) 晴れ
(集合) J R京都駅八条口8・00
(バス) 安掛9・20(35)野添谷
林道(芦谷林道)峠11・25(35)
ホサビ山12・05(朝食)13・00
分岐13・13(10)平屋富士13・
45(50)安掛15・45(16・10(バ
ス) 京都駅17・55(解散)
帰りはさわやかな風があつて涼
しく、曇り時はとくに気持ちよ

栗積吉書 栗積有子 森実喜美子
森 瑞代 東山登夫 松上美代子
大和 紘 馬籠忠男 岡田恵美子
岩野健司 原 雅子 土井あつ子
渡辺一雄 鈴木敏彦 原 幸子
中西信行 ○岡田 昇 (計20名)
◎古賀慶一

六甲・裏地獄谷から記念碑台
(ファミリーハイク13)

川田洋子 緒方由子 荻野紀美恵
廣果 邦 ○福岡 章 (計17名)
◎小出良春

鶴川左殿から滝山・トビ岩
(比良を歩く13)

7月28日(日) 晴れ
(集合) J R北小松駅9・00ー鶴川
川出合9・30ー滝山12・05
(昼食) 12・40ー嵐の間13・20ー
トビ岩14・00ー北小松駅北橋15・
00(解散) ー北小松駅15・20
歩きはじめの30分を除き、終始沢
沿いと木陰歩きの日だったが、
あいにく今夏一番の超夏夏日に巡
り合ってしまった。水分補給のため
たびたび休憩したが、滝山には
ほぼ予定時間通りに到着。帰路に
立ち寄った、琵琶湖に向かって突
き出しているトビ岩からの眺めは
圧巻だった。

(参加者) 長尾一令 木村 豊
西居俊弥 馬龍忠男 前田悦子
柳川常雄 磯部 純 平塚明美
前田初雄 東山澄夫 石井恵美子
岩鶴健司 大村俊子 須田久子
井藤正昭 多賀久子 蓮井洋子
前田植夫 辻 行子 砂原恵美子
白根湧子 三野 旭 川北恵美子
中川光郎 中川節子 大東 恒

江朝光一 南利恵 ○宮下淳一
○武部 剛 ◎秦 康夫(計31名)
◎呉山繁三

桃山から大文字山
(北山ちよっと歩き35)

7月31日(日) 晴れ
(集合) J R京都駅 J Rバスのり
ば8・00ー10(バス) 榎尾9・20
ー福ヶ谷ー沢の池10・20ー吉兆山
ー桃山11・40(昼食) 12・40ー左
大文字山14・20ー小松林14・50ー15・
20ー金閣寺前15・50(解散)
沢の池でひとときの涼をとって
生気を取り戻し、緑陰を求めて歩
いたが、あまりの暑さにバテバテ
の山歩きになった。原谷から左大
文字山も真夏の歩きになった。火
床から市を眺めていると、いく
らか涼しくなった。

(参加者) 岡田勇子 井上由紀晴
谷川俊一 山岸隆雄 野々山明美
木村 豊 若林和人 石倉真佐子
本間 隆 市野博文 曾根ひろ子
谷 守 舟岡 武 棚田隆子
浦本吉生 小川晴美 風見瑞子
速水 保 和田直樹 渡辺いづ
井藤正昭 下村新一 宮村孝次郎
川村信子 本家洗子 岩本いすゞ
森本幹雄 林 弘毅 石井恵美子
竹田善英 菅生幸子 南 ミヤ子

御田博子 諏訪彩子 中村英雄
◎呉山繁三 (計36名)

湖北・伊吹山(自然観察山行95)
8月3日(日) 晴れ

(集合) J R近江長岡駅8・15
(バス) 伊吹山登山口ーゴンドラ
のりば(ゴンドラ) 三合目8・55
ー9・05ー五合目9・30ー35ー七
合目10・10ー20ー伊吹山11・00
(昼食) 11・45(頂上展望) 12・
45ー三合目14・15(解散)
酷暑を覚悟の山行だったが、次
第に晴れ上がるガスが厳しい日差
しを遮り、絶好の日程。メンバー
は快調に歩き、三合目に戻った時
刻があまりに早くてリーダーはい
ささかとまどった。伊吹の花はや
はり見事だった。

(参加者) 伊藤 直 井上由紀晴
岡田直規 西條良彦 武藤由美子
夏山春子 松本勝子 船本裕巳子
宮下淳一 廣果 邦 ○田中 明
◎登見守康 (計12名)
神崎川・茶屋川沢下り
(鈴鹿を歩く149)
8月4日(日) 晴れ一時雨
(集合) 神崎橋広場8・30(車)
神崎川林道終点9・00ー神崎川9・

10ーS字グルージュ10・50ー取水口
11・20ー風越谷林道分岐11・50
(車) 茶屋川(ヘリポート)12・10
(昼食) 13・10(車) 橋野広場13・
20ー茶屋川下の滝14・00ー茶屋
川林道15・25(解散)

神崎川に飛び込むと生き返った。
浮輪を抱いて流れのつってブッカ
ブカ。エメラルドの大トロにドボ
ン。しかし前に進まない人もいた
りて楽しいひととき。茶屋川林
道のヘリポートの木陰でのんびり
昼食。茶屋川の廊下ではいつとき
土砂降りの雨になり、心に残る沢
下り山行となった。

(参加者) 後藤康幸 小林 桂
樫田勝利 湯浅康夫 光川一三子
三上伸夫 奥田貞雄 奥野太一郎
竹村千鶴 永戸鉄治 奥野太一郎
木下朝子 大石将美 網本美恵子
加藤園計 小松志信 伊藤久久男
谷 守 筒井克治 加納由紀子
野崎佑太 野崎瑞平 ○山田景三
◎岩野 明 (計24名)

東六甲縦走路12・33ー水無山12・
52(昼食) 13・30ー大平山14・20
ー岩倉山15・26ー堀尾寺15・40ー
宝塚駅16・12(解散)

船坂谷はだれにも出会わない静
かな渓谷だった。東六甲縦走路に
出たとき、いい谷だったと心豊か
な気持ちになった。

(参加者) 立川郁夫 石井恵美子
飯田良子 森 晴代 岡本美千子
岩下茂子 池原 文庁 すみ子
佐々木三千代 ○美村孝治
◎小出良春 (計11名)

八潮の滝めぐり(比良を歩く14)
8月4日(日) くもり一時雨

(集合) J R近江高島駅8・30ー
35(バス) ガリバー旅行社9・00
ー10ー魚止の滝9・40ー大樽10・
10ー20ー貫船の滝10・40ーオガサ
カ道分岐下の三州州11・18(昼食)
12・00ー八雲ヶ原ゲレンデ12・23
ーカラ岳13・05ーシヤカ岳13・
40ー山腰14・30ーJ R比良駅14・
50(解散)

他の登山者が比較的少なくてサ
リ場の渋滞もなかった。前半
は快適な滝めぐりだった。カラ岳
からの下山途中ドシャ降りの夕立
に見舞われ、沢と化した登山道を

全員ビシッ濡れになっておりてき
た。

(参加者) 長尾一令 馬龍忠男
西居俊子 上山正一 市橋千代子
川田洋子 谷川俊一 木村 豊
中村寛子 東山澄夫 武部美美子
前田初雄 蓮井洋子 上田久子
磯野重治 白根湧子 辻 行子
若林文夫 中島 隆 野々山 寛
今村 悟 緒方由子 和田純子
高木忠夫 ○宮下淳一
◎武部 剛 ◎秦 康夫(計31名)

京都北山・峰床山
(近畿百名山に登る41回)

8月4日(日) くもり一時雨

(集合) J R堅田駅8・40ー45
(バス) 坊村9・20ー35ーフナ平
10・20ー30ー鎌倉山11・20(昼食)
12・10ーオグロ坂峠13・10ー峰床
山13・40ー45ー依坂峠14・10ー林
道小ナメラ線から遊歩道取付14・
30ー交流の森展望台15・20ー30ー
交流の森センター16・30(入浴)
17・30ーバス停17・35(バス) 北
大洲駅前18・50(解散)

鎌倉山で昼食後、オグロ坂峠へ
の途中で大雨になった。峰床山ま
では雨中の行進で速歩もきこえた。
雨が上がったらアブにつきまとい

れ、ゆっくりしておられない。交
流の森センターで入浴し、やっと
心地がかった。

(参加者) 馬場昌盛 佐野信江
栗橋崇吉 市野博文 岩鶴健司
辻村幸裕 川中 保 中嶋日出男
磯部 純 加藤浩二 福岡 章
大和 絃 長尾節子 安倉正勝
◎呉比裕美 ◎村田智俊(計16名)

四国・剣山
(ファミリーハイク14)

8月8日(日) 雨

(集合) J R新大阪駅6・50(バ
ス) 見ノ越11・40ー西島野宮広場
12・30(昼食) 13・00ー剣山13・
50ー二ノ森ー殉難碑14・30ー行者
道ー刀掛ノ松15・30ー見ノ越16・
20ー45(バス) 新大阪駅21・45
(解散)

現地に着くと小雨が降り始め、
展望のない剣山に登る。道路を来
たわれわれのために、多くの高山
の花が開いていた。お目当てのキ
レンゲシウマは霧に装われ気高
い月光の美を見せたい。

(参加者) 光川博史 光川一三子
中村幸子 中尾和子 石井恵美子
青木一雄 要岡克子 砂原恵美子
松尾隆子 細野敬也 大村俊子

静岡・高ドッキョウ
8月11日(日) 晴れ

(集合) J R名古屋駅7・10ー20
(電車) 興津駅10・13ー20(タク
シ) 樽井登山口11・00ー樽井11・
50ー12・00ー高ドッキョウ13・30
(昼食) 14・00ー徳間峠14・55ー
15・00ー大平16・30ー興津駅16・
52(電車) 名古屋駅20・07(解散)
樽井から何度もビークを越えて
高ドッキョウにようやく着いた。
山頂は小広場で「山梨名産」の
一つとなっていた。徳間峠へのキ
レットは、ロープを頼りにおりて
いった。

(参加者) 水谷陽子 六戸喜久江
森 晴代 伊藤恵美子
渡辺美代子 荻野美穂恵
◎藤本桂吉 ◎小山良春 (計18名)

北摂・鎌倉駅から百文窟
8月13日(日) 晴れ
(集合) JR道明駅10・10平田
配水場11・00 鎌倉駅11・15
鎌倉駅12・00 (昼食) 12・30
百文窟原12・43 百文窟13・15
静ヶ池13・40 道明駅14・20 (解
散)

鎌倉駅は道明所にクサリがあった
スリルを楽しんだ。百文窟の上で
風に吹かれて周囲の山々を見てい
たら帰りがたくなって来た。
(参加者) 岩田育士 立川佛夫
金森陽子 南 寛子 中尾美智子
森 晴代 松本勝子 久保田陽子
宮下淳一 ◎美村孝治
◎小山良春 (計11名)

中国山地の山々
道後山・比婆山・三瓶山
8月14日(日) 16日(金) 2泊3日
(14日) くもり一時雨 (集合)
JR新大塚駅7・30 (バス) 中国
道東城イン11・30 (バス) 月
見ヶ丘12・30 (昼食) 13・00 道

後山14・30 月見ヶ丘15・30 (バ
ス) 吾妻山休憩村17・20 (泊)
(15日) 晴れにわか雨 休憩村8・
20 吾妻山8・50 9・05 大瀧
原9・35 14 鳥羽上宿10・15
25 比婆山脚11・00 10 池の
段12・00 (昼食) 12・30 立烏帽
子駐車場13・00 16 原真民の森
14・00 (入浴) 15・30 (バス) 出
雲湯村温泉「清風荘」16・40 (泊
(16日) 晴れ 清風荘7・40 (バ
ス) 北ノ原青年の家登山口9・05
15 1男三瓶山10・30 14 女三
瓶山11・30 14 5 室の内池12・20
13 30 1男三瓶山を子三瓶山の鞍部
13・00 1西ノ原定めの松13・40
(昼食) 14・30 (バス) かんぼ保
養センター14・40 (入浴) 15・30
(バス) 三次イン17・30 (バス)
JR新三田駅21・00 (バス)
JR新三田駅21・45 (解散)

道後山ではわか雨に遭ったが、
どの山も花が多く、涼風に秋を感じ
ながら三山をめぐった。温泉にも
も何度か入り、ぜひいたくな山だっ
た。三瓶山では室の内池からの下
山道を西ノ原へ間違えたり、定め
の松にはレストラがあり、空服
にはよかった。帰路中国道が大渋
滞していたのでJR新三田駅へ出

て解散した。
(参加者) 松尾麗子 前田喜久子
小林 稔 片山克博 片山喜久江
武田元可 上田正子 長尾節子
奈良穂子 多賀周一 多賀久子
大平 漸 竹田善英 桂 久美子
藤本紀子 小林法三 小林 桂
湯浅次男 東山澄夫 福岡 章
奥山繁三 ◎安倉正勝
◎長比裕美 ◎村田智俊 (計24名)

三重・七河岳
8月15日(日) くもり一時雨
(集合) JR多気駅9・20 31
(電車) 橋原駅9・47 50 (タク
シー) 七河坂登山口10・25 展望
岩11・40 1七河岳12・00 (昼食)
12・40 1藤14・47 (タクシー) 川
添駅15・00 16・35 (解散)
山頂の展望はずばらしく、宍生・
台高の山々まで見えた。下山途中
雷が鳴っていたが多気駅構内に落
ちたらしく、帰りの電車が大幅に
遅れてしまった。
(参加者) 朝倉利己 前川和佳子
高岡信男 巧名生石 宍戸喜久江
徳橋君子 栗橋崇吉 中尾美智子
栗田暢子 美村孝治 伊藤恵美子
永高洋子 ◎藤果 邦
◎小山良春 (計14名)

後立山連峰縦走
白馬三山と鷹松岳
(自然観察山行96)
8月15日(日) 夜 18日(日)
前夜発2泊3日
(15日) (集合) JR岐阜駅23・
00 (バス)
(16日) くもり (バス) 鎌倉荘
5・00 (朝食) 6・10 白馬尻7・
15 30 1 藪平10・00 1 村宮頂上宿
舎11・40 (昼食) 12・50 1 白馬岳
13・35 1 45 1 村宮頂上宿舎14・15
(泊)
(17日) 晴れ 村宮頂上宿舎6・
00 1 丸山6・10 1 白馬嶺ヶ岳7・
55 1 8・20 1 湯温泉分岐8・35 1
天狗山荘9・00 20 1 天狗の頭9・
40 1 天狗の下の下鞍部10・50 (昼
食) 11・05 1 ケレット11・11 1 唐
1 1 峰12・30 1 1 南峰12・40 1 唐
1 1 峰13・35 1 1 4 00 1 唐松岳頂上
山荘14・10 (泊)
(18日) 晴れ 頂上山荘6・00 1
八方池山荘8・30 (リフト・ゴン
ドラ) 八方駅9・15 1 八方第二駐
車場9・30 1 40 (バス) 大町温泉
郷10・15 (入浴) 11・00 (バス)
穂高町そば処「常念」11・30 (昼
食) 12・30 (バス) 岐阜駅16・00
(解散)

て解散した。
(参加者) 松尾麗子 前田喜久子
小林 稔 片山克博 片山喜久江
武田元可 上田正子 長尾節子
奈良穂子 多賀周一 多賀久子
大平 漸 竹田善英 桂 久美子
藤本紀子 小林法三 小林 桂
湯浅次男 東山澄夫 福岡 章
奥山繁三 ◎安倉正勝
◎長比裕美 ◎村田智俊 (計24名)

神野孝允 水谷俊之 小林 実
谷 守 ◎山田景三 (計17名)
◎岩野 明 (計17名)

8月18日(日) くもり一時小雨
(集合) 三岐鉄道大塚駅8・15
(車) 永源寺町紅葉尾9・15 1 藪
川トンネル手前9・30 1 キトラ10・
30 1 東山11・00 1 旭山11・40 1 山
ノ神手前鉄塔11・57 (昼食) 12・
30 1 山ノ神12・40 1 1 手前鉄塔
13・15 1 1 岳分岐13・40 1 岳14・00
1 黄和山の神社14・40 1 15・00
(解散)
台風の雨を心配したが、昼食時
にはばらばら来ただけで、全ルート
を歩いた。キトラ・東山ではお目
当ての「夏の美少女」に出会えま
した。
(参加者) 山村善男 伊藤 直
井上 光 丹下由子 南 智恵子
西内弘弘 服部 堯 伊藤恵美子
吉藤孝次 磯部 純 六戸喜久江
林 一夫 原 光一 原 幸子
◎高原芳彦 ◎山田明男 (計16名)
◎高原芳彦 ◎山田明男 (計16名)

8月21日(日) 晴れ
(集合) 京阪出町柳駅7・50 (バ
ス) 北大路駅前8・03 (バス) 菅
原町9・45 1 10・00 1 1 衣懸峠11・25 1 P 8
終点10・23 1 1 衣懸峠11・25 1 P 8
4 7 1 11・40 1 1 山ノ神12・10
(昼食) ソトバ山往復25分) 13・
15 1 鹿村八丁13・40 1 1 別部池14・
20 1 1 タンノ峠15・00 1 1 10 1 尾根道
1 ホトヶ谷登山口15・40 1 16・05
1 菅原町16・15 1 17・18 (バス)
北大路駅19・00 (解散)
この日は9月下旬の涼しさとか、
昼食のソトバ峠ではシャツを一枚
重ねないと寒いぐらいだった。暑
さ知らずの山行を楽しんだ。
(参加者) 木村 豊 近藤 恭
松井明忠 磯部 純 井上由紀晴
本間 隆 中村英雄 真田明子
加藤浩一 竹田善英 千華十枝子
奥山繁三 白附紀子 光川二美子
岩本彰子 市野博文 岩本いすゞ
長尾一令 ◎東山澄夫
◎湯浅次男 (計20名)

8月25日(日) 晴れ
(集合) JR西明石駅8・00 1 10
(バス) 天滝駐車場10・00 1 15 1

7月の白馬岳朝日岳縦走を
なくかたちで後立山連峰を南
出や八風接近という不安要素をか
かえての縦走も予想外の好天に恵
まれ、最終日には北アルプスや信
越の山々の大展望、たくさんの高
山植物にも出会えて、感動の山旅
だった。
(参加者) 岡田直規 荻野美穂恵
緒方由子 川島陽美 加納山紀子
小松志信 上田久子 林 えい子
田中 明 長尾一令 船木裕子
夏山春子 原 文字 武藤由美子
村井寿和 若松 寛 森 瑞代
◎岩田育士 ◎荻野東彦 (計20名)
◎藤本桂吉

丹生・金剛童子山から丹生山
8月17日(日) くもり一時雨
(集合) 神鉄箕谷駅10・15 1 20 1
八王子公園10・45 1 1 柏尾谷 1 金剛
童子山12・10 (昼食) 12・50 1 花
折山13・12 1 1 柳子ヶ原山13・55 1
双取池14・27 1 1 常取山15・30 1 丹
生山16・05 1 1 丹生神社前16・55 1
17・08 (バス) 箕谷駅17・32 (電
車) JR三ノ宮駅17・47 (解散)
名古屋からは日帰りは無理と思
われていた丹生山系の縦走を、足
並みが揃っていたこともあって予

タテ谷出合から入渓。源流の水
は冷たくて生き返った。大瀧・下
の大瀧も何なく通過して昼食。七
丈瀧・天狗の滝は、左岸のバンド
を滝の左下におりて飛び込み、全
員成功。そして最後のSの字のゴ
ルジュと大瀧をブツブツカ。最高
の沢下りとなった。
(参加者) 後藤康幸 湯浅康夫
樺田勝利 武村千鶴 伊藤喜久男
水戸鉄治 茨木山雄 奥野太郎
木下朝子 大石将美 湯浅みや子

第三駐車場10・27―天滝11・15
 (昼食) 12・27―依石12・40―杉ヶ沢高原(P766石)
 30―天滝14・22―天滝駐車場14・59
 5・15・05(バス)若杉温泉15・23(入浴)16・05(バス)西明石駅18・40(解散)
 天滝はやや水量不足で、滝にも夏抜けが目立ってちょっと残念。杉ヶ沢高原は雰囲気よかった。
 (参加者)馬淵忠男 松上英代子 東山燈夫 森 環代 中尾美智子 宮本真幸 宮本悦子 迫 恵美子 眞田久子 小林 桂 前田喜久子 平敏英子 大和 絏 小嶋野男子 原文子 河崎妙子 岡田恵美子 尾崎光子 小田朝子 八木八重子
 ○岡田 昇 ◎古賀慶二(計35名)

比良・武奈ヶ岳
 (近畿百名山に登る42回)
 8月25日(日) 晴れ
 (集合)京阪出町柳駅7・40〜45(バス)細川8・35〜45―北西級―武奈ヶ岳11・45(昼食)12・30―コヤマノ岳12・50―中峠13・15―大槲分岐13・50〜14・00―南比良峠手前14・30〜14・40―荒川峠15・15―曲折点広場15・30〜15・45―水場16・20―中谷林道出合16・40―J

R志賀駅17・20(解散)
 急登が続く北西級は3時間で武奈ヶ岳に着いた。広葉樹林の静かな道でたれにもあわなかったが、武奈ヶ岳山頂は満員盛況。赤トンボが飛び交う、初秋の山だった。
 (参加者)宮下淳一 吉藤孝次 伊藤淳子 入江武史 桂 久美子 蓮井洋子 磯部 純 原 光一 松井明忠 堤 良男 前田初雄 西村耕一 馬場昌盛 磯野重治 木村 豊 多賀久子 宮村孝次郎 西村善行 青木一雄 村井寿和 狹谷礼司 長尾一令 長田葉子 谷 守 茨木良雄 ○真比谷美
 ○安倉正勝 ◎村田智俊(計28名)
 福井・柚山
 8月25日(日) 晴れ
 (集合)JR湯尾駅10・30(タクシー)花蓮公園10・50―駒返し・犬戻し11・40―柚山11・55(昼食)12・30―西園殿後12・40―文殊堂13・17―湯尾駅14・10(解散)
 南北朝の頃、山城であった柚山は「駒返し・犬戻し」の岩場をハシゴで越えて行った。山頂からの展望もよく、ホノケ山・日野山が目の前に見えた。
 (参加者)栗橋聖吉 栗橋君子

若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。
 入会金 500円(バツジ代)
 年会費 3000円(送料共)
 入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。
 なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。
 切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。

北村 正 北村 梢 齋栗 邦
 松尾芳洋 松尾純子 渡辺美代子 福井清之 市野博文 石井恵美子 近田智子 荒木光雄 庁 すみ子 森 晴代 近藤泰子 堀田久美子 伊藤 豊 垣田和美 小椋きぬ子 上田久子 ○福岡 章
 ○美村孝治 ◎小出良春(計41名)
 西山・善峰寺から山崎
 (北山ちよっと歩き36)
 8月27日(日) くもり時々晴れ
 (集合)阪急東向日駅9・00〜15(バス)小塩9・35―善峰寺駐車場10・10―大沢越11・05―柳谷観音12・15(昼食)13・00―東願寺13・25―天王山三角点分岐14・05―山崎サントリー蒸留所14・40(見学)16・40(解散)
 残暑の厳しい山歩きになったが、全員元気に歩いた。竹林を吹き抜ける風に早や秋近しを感じ、サントリー蒸留所ではひとときの憩いを楽しんだ。
 (参加者)長尾一令 井上由紀晴 山岸勝雄 磯部 純 馬場昌盛 松尾純子 渡辺いく 横川ゆり子 速水 保 川村信子 岩本いずみ 谷 守 安良陽子 風見瞳子 林 弘毅 和田直樹 川上久堅

○新入会員(定期購読者)紹介
 新しいお仲間のみなさんです。
 会員番号4729番から4753番まで
 【滋賀】青木 孝 内田康夫
 【京都】須藤淳子 里田安代
 岩城和雄 田中良三 森 つる子
 小林千草 奥村幸雄 原 みとえ
 西村 修 市井ユリエ
 【大阪】竹田龍男 黒崎裕子
 寺西郁雄 寺西 栄 増田龍一
 山上正博 入江美知子
 【奈良】藤原幹根 尾宮藤十男
 【奈良1名】藤原幹根 尾宮藤十男
 【兵庫】高津智美 浜切登美子 羽根田幸義 (25名)

中村英雄 ◎真山繁三(計19名)
 越美・冠山(自然観察山行97)
 8月31日(日) くもりのち雨
 (集合)JR大垣駅8・40(バス)冠峰11・40―冠平12・40―冠山13・00―冠峰14・00(昼食)14・45(バス)大垣駅17・30(解散)
 予定の能郷白山が道路通行止めのため冠山に変更。往路は林道や冠峰から独特な山容を楽しんだが、台風の影響による湿った南風が朝から次々と越美山系にぶつかって雲を起し、とうとう雨になってしまった。そのため、山頂から早々に退散した。能郷白山は来年再計画の予定。
 (参加者)伊藤 直 伊藤喜久男 岡田直規 沖 伸 井上由紀晴 尾崎光子 小田妙子 荻野美紀恵 金森節子 木村 豊 朽名生石 栗橋聖吉 栗橋君子 小嶋野男子 小林 高 島居信吾 廣果 邦 杉本 高 鳥居信吾 穴戸喜久江 中井幸子 原 幸子 船本裕子 馬場昌盛 藤崎流石 堀田輝子 三下伸夫 三上泰子 武藤由美子 宮崎美智 由田郁代 美村孝治 佐々木三千代 ○吉藤孝次
 ◎鷺見守康 (計35名)

新ハイキングクラブ関西
 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。
 この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。
 「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に50年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年発足で12年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。
 会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。
 リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンで。会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お送りします。
 四季の自然に触れながら歩き

○山行リーダー募集
 リーダーは2ヶ月に1回「回程」の山行例会を計画・実施していただきます。
 無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考送ります。

訂正とお詫ひ
 66号(初秋)9ページ目次上段表紙の説明文中「赤石山」は「赤石岳」が正しい。
 66号(初秋)46ページ上段6行目「滋賀県の山のうち、三角点の高さで見ると、伊吹山・金巻岳・白倉の頭に次ぐ第四番目の高峰である」とありますが、金巻岳には三角点がありませんので、三角点の標高では第三番目となります。山の高さでは第四番目です。
 66号(初秋)109ページ三段

17行目「なホルと読み方も「あんぞだに」が……」とありますが「あんぞだに」が正しい。「アソ谷」とも言います。
 66号(初秋)100ページ二段4行目「集合」出町柳駅は「集合」出町柳駅が正しい。(編集室)
 第5回京都山の会写真展
 一山 その偉大な自然の中で
 ●平成14年11月14日(木)〜20日(水) 11時〜19時30分 (最終日は17時)
 <会場>
 メディック・ムツミ堂十階
 フォトギャラリー「練図絵空間」
 京都市中京区河原町三条上ル
 ☎075(2556)6657
 (主催)京都山の会写真クラブ
 毎号お求めになりたい方へ
 前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。購読月の20日ごろ(隔月刊)の発売です。